

WB1040YH

取扱説明書



本製品をご使用の皆さまへ

本製品を安全に、また正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

本取扱説明書は、お手持ちのスマートフォンやタブレットからアクセスすることができます。

電子版はこちら

P1～P138

P139～276



はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型ホールクロップ収穫機**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、《参考》・《重要》として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警告サイン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

エンジンオイルについて

お客様へのお知らせ

《重要》

このコンバインは排出ガス規制対応のためコモンレールエンジン、排気フィルター（DPF※）を搭載しています。

日常点検や使用する燃料・オイルの項目は、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みください。

燃料・オイルは当社指定のものを使用し、必ず定期点検を行ってください。

※Diesel Particulate Filter; ディーゼル パティキュレート フィルター

1. ウォーターセパレータを表1に従って定期的に点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サブラインプンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。

表1 ウォーターセパレータの水抜き・洗浄時間

水抜き・洗浄	1回目：50時間目
	2回目以降：100時間ごと

特にセンターディスプレイに下の警報画面が表示された場合は、ウォーターセパレータに水がたまっています。すみやかに中の水を抜いてください。

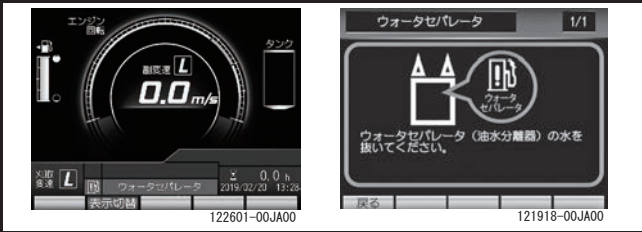


図1

《重要》

- 燃料コシ器内のエレメントは、つぎの表2に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジンが損傷するおそれがあります。

表2 燃料コシ器エレメント

燃料コシ器エレメント	交換	300時間ごと
------------	----	---------

- 燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物などを加えないでください。守らないと、エンジンが損傷するおそれがあります。

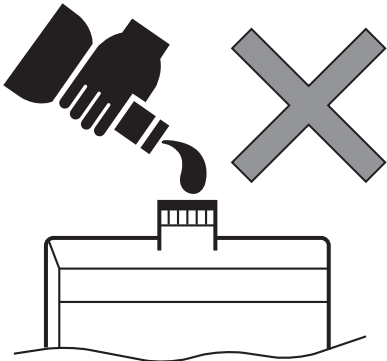


図2

2. このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品および排出ガスの後処理装置である排気フィルターを使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板製の容器のご使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
3. エンジンオイルは必ず表3のものを使用してください。

表3 エンジンオイル

	ヤンマー（指定） 純正オイル	一般販売店の相当オイル	
		ENEOS	コスモ石油
エンジン オイル	クリーン ロイヤルオイル 10W-30 (DH-2 級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30 相当品 (DH-2 級または CJ-4 級)	

目次

はじめに 1

エンジンオイルについて 2

目次 3

安全に作業するために 7

1. 必ずお読みください 23

1.1 安全銘板 23

1.1.1 安全銘板の貼り付け位置 23

1.1.2 安全銘板の手入れについて 28

1.1.3 本製品の使用目的とサービス
について 29

1.1.4 機体の方向説明 30

2. 運転のしかた 31

2.1 各部のはたらきと使いかた 31

2.1.1 フロントコラム部 31

2.1.2 ハンドル部 34

2.1.3 センターディスプレイ部 36

2.1.4 サイドコラム部
(スイッチ・ダイヤル類) 41

2.1.5 サイドコラム部 (レバー類) 44

2.1.6 オールマイティシフトレバー部 45

2.1.7 その他の操作関係 48

2.1.8 その他 51

2.1.9 キャビン関係 55

2.2 運転に必要な装置の取扱い 63

2.2.1 チャンバ開閉装置の取扱い 63

2.2.2 安全装置の取扱い 64

2.2.3 満了感知装置の取扱い 64

2.2.4 ネット装置の取扱い 65

2.2.5 タイトチェン注油装置の
取扱い 68

2.2.6 コントロールボックスの
取扱い 69

2.3 ならし運転 (最初の 50 時間)

について 76

2.4 運転前の点検 77

2.4.1 点検のしかた 79

2.5 運転前の準備 80

2.5.1 コンバインへの乗降のしかた 80

2.5.2 シート位置の調節のしかた 81

2.5.3 フットレストの使いかた 83

2.5.4 マルチハンドルの前後調節の
しかた 83

2.5.5 詳細設定メニューについて 84

2.5.6 操作機能の変更のしかた 87

2.5.7 基本設定のしかた 93

2.6 エンジンの始動と停止 95

2.6.1 始動のしかた 95

2.6.2 暖機運転のしかた 98

2.6.3 エンジンの停止のしかた 99

2.7 運転操作 100

2.7.1 発進・走行のしかた 100

2.7.2 変速のしかた 102

2.7.3 旋回のしかた 103

2.7.4 停車・駐車のしかた 105

2.7.5 移動走行のしかた 107

2.7.6 夜間運転のしかた 110

2.7.7 エアコンの使いかた 111

3. 作業のしかた 113

3.1 刈取作業前の準備 113

3.1.1 刈取作業ができる作物の条件
について 113

3.1.2 刈取作業ができるほ場の条件
について 114

3.1.3 コンバインの準備のしかた 114

3.1.4 ほ場への出入りのしかた 117

3.1.5 バック・ベール排出モニター
について 118

3.2 作業について 119

3.2.1 刈取操作のしかた	119
3.2.2 警報装置が作動したときの処 置のしかた	124
3.2.3 自動装置について	125
3.3 ロールベアラの作業について	132
3.3.1 作業手順と要点	132
3.3.2 ベールの放出方法	135
3.3.3 添加器の作業方法	136

4. お手入れのしかた 139

4.1 各部の脱着・オープンのしかた 139

4.1.1 エンジンルームの開閉の しかた	140
4.1.2 刈取部のオープンのしかた	140
4.1.3 引起しケースカバーの脱着の しかた	145
4.1.4 引起しケースのオープンのし かた	146
4.1.5 刈取部合流部の開きかた	147
4.1.6 キャビンのオープンのしかた	148

4.2 作業後の手入れについて 150

4.2.1 作業後の手入れのしかた	150
4.2.2 機体の洗浄のしかた	151
4.2.3 刈取部ストッパの固定・解除 のしかた	153
4.2.4 各部の掃除のしかた	154
4.2.5 各部の注油のしかた	157
4.2.6 グリスアップの箇所	159
4.2.7 ロールベアラ部の注油・グリ スアップの箇所	160

4.3 点検・整備のしかた 161

4.3.1 定期点検・整備の時期に ついて	162
4.3.2 オイル・グリス・不凍液 一覧表	163
4.3.3 給油・給水一覧表	164
4.3.4 ロールベアラ部の点検・整備 のしかた	165

4.3.5 メンテナンス時間のリセット のしかた	167
4.3.6 燃料の点検・補給のしかた	168
4.3.7 オイルの点検・補給・交換の しかた	170
4.3.8 冷却水の点検・補給・交換の しかた	176
4.3.9 エンジンオイルエレメントの 交換のしかた	178
4.3.10 HST フィルターの交換のし かた	179
4.3.11 カウンターケースのオイル フィルターの交換のしかた	180
4.3.12 ウォーターセパレータエレ メントの点検・ドレン抜き・ 掃除・交換のしかた	180
4.3.13 燃料フィルターの交換の しかた	182
4.3.14 排気フィルターの再生の しかた	182
4.3.15 注油フィルターの掃除の しかた	189
4.3.16 燃料のエア抜きのしかた	190
4.3.17 エアクリーナーの 掃除・交換のしかた	190
4.3.18 プレクリーナーの掃除の しかた	191
4.3.19 吸気口・ロータリースク リーン・ラジエータ冷却 フィンの掃除のしかた	192
4.3.20 ウォッシャー液の補充の しかた	195
4.3.21 バッテリーの点検・整備の しかた	196
4.3.22 パイプ類の点検のしかた	199
4.3.23 電気配線の点検のしかた	199
4.3.24 刈刃の手入れのしかた	200
4.3.25 ヒューズ・スローブロー ヒューズの点検・交換の しかた	201

4.3.26 ランプの交換のしかた	204
4.3.27 各部チェンの点検・調節の しかた	205
4.3.28 ロールベアラ部のチェンの 点検・調節のしかた	209
4.3.29 各部ベルトの点検・調節の しかた	211
4.3.30 ロールベアラ部のベルトの 調節のしかた	216
4.3.31 駐車ブレーキの点検・調節 のしかた	217
4.3.32 クローラの点検・調節の しかた	218
4.3.33 刈取下部搬送右の平行ピン の交換のしかた	220
4.3.34 排出ガスの色について	220
4.3.35 クーラガス（冷媒）の点検 のしかた	220
4.3.36 感知装置の点検・調節のし かた	223
4.3.37 チャンバ閉センサの点検・ 調節のしかた	223
4.3.38 カッタツマリセンサの点 検・調節のしかた	224
4.3.39 シャーボルト切れセンサの 点検・調節のしかた	224
4.3.40 ネットカムセンサ1・2、 ネットカウントセンサの点 検・調節のしかた	224
4.3.41 ブザー音量の調節のしかた	224
4.3.42 カッタ部の点検・調節のし かた	225
4.3.43 スピンナー部の点検・調節 のしかた	228
4.4 不調診断のしかた	229
4.4.1 センターディスプレイの 注意画面について	229
4.4.2 センターディスプレイの 異常表示と処置のしかた	231

4.4.3 センターディスプレイに表示 されない不調について	246
4.4.4 不調診断（ロールベアラ部電 装関係）	248
4.4.5 油圧が作動しない場合	249

5. 保管のしかた 251

5.1 短期保管するときは （2カ月以内）	251
5.1.1 保管のしかた	251
5.2 長期保管するときは （2カ月以上）	252
5.2.1 保管のしかた	252
5.2.2 保管中の整備のしかた	254

6. 輸送のしかた 255

6.1 トラックへの積み・降ろしの しかた	255
6.1.1 アユミ板について	257
6.1.2 トラックの準備	257
6.1.3 作業機の積み込みかた	258
6.1.4 トラックに積み込んだら	260
6.1.5 作業機の降ろしかた	261
6.1.6 積み・降ろし中の作業機の 停止・発進のしかた	262

7. 付表 263

7.1 主要諸元	263
7.2 主要部品の耐久性と点検・交換 時期の目安表	264
7.3 付属部品	266
7.4 電装部品の位置	268
7.5 配線図	269

8. 廃棄物の処理について 273

8.1 廃棄するときは	273
--------------------	------------

8.1.1 廃油、不凍液の処理	273
8.1.2 バッテリーの処理	273
8.1.3 冷媒ガス（フロン類）の処理 ...	273
8.1.4 ホース類の処理	273

フロン排出抑制法によるお客様点検・・ 275

安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある  表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。

※ 守らないと、死亡又は傷害を負うおそれがあります。



運転操作には的確な判断が必要です。

- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、16才未満の方、過労、病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は操作に慣れるまで低速で運転してください。

※ 守らないと思わぬ事故の原因になります。

- 取扱説明書及び表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 機械を所有者以外に貸すとき、運転させるときは、取扱説明書を読んでいただくとともに、取扱方法や安全な使いかたを説明して、安全な作業ができるよう指導してください。

※ 守らないと、死亡又は傷害をまねくおそれがあります。



点検・整備中および収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。

- 見えない所で機体にさわったり、かくれたりして危険です。
- 回転物に巻込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



道路走行・輸送するときは

公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

トラックなどへの積み込み・降ろしは

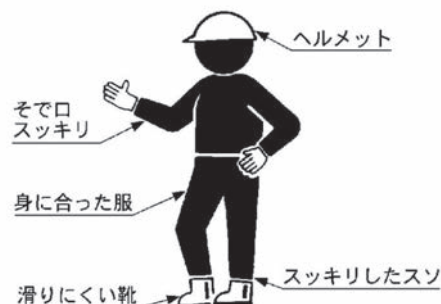
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行ってください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。また、そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。
- サングラス、スリッパなどの履物の着用は禁止です。
- 必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用する。各保護具は使用前に機能を確認する。

※ 守らないと、レバーや作動部に引っ掛かったり、滑ったりして、傷害を負うおそれがあります。



エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が充分入るようにしてください。

※ 守らないと、エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。



燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず停止してください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふき取ってください。

※ 守らないと、火災の原因になります。



1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。 ● フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレーンゴムホースは2年ごとに交換してください。(199 ページ) ● 電気配線は毎年点検してください。(199 ページ)	
高圧噴油が皮膚に浸入すると危険です。 ● 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医療機関を受診してください。油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取り除かないと壊疽（えそ）にかかるおそれがあります。	
運転の前には点検項目（82 ページ）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。 ※ 守らないと、整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。	
点検・整備・調整・掃除・給油・グリスアップするときはエンジンを必ず停止してください。 ● ロールベラクラッチ・刈取りクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。 ● マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺に、わらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。 ● 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。	
取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。 ※ 守らないと、回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。	
運転席に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしない。 ● 平坦な場所でハンドルをしっかり握り、すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。 ※ 守らないと、転倒・転落し、傷害を負うおそれがあります。	
夜間の作業や移動走行は避ける。 ● やむをえず夜間作業を行うときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。 ● やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯させる。 ※ 守らないと、交通事故や転倒・転落をまねき、死亡または傷害を負うおそれがあります。	

機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。

- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
 - 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
 - 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。
 - 各作業クラッチ（ペーラ・刈取）を「切」位置にし、運転者以外に人を乗せない。
 - 副変速レバーを「停止」位置にし、走行をいったん止めてから行う。
 - 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
 - 補助デッキ、左分草かん、補助ステップを収納して、機体幅を狭くする。
 - 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。
 - 旋回モード切換えダイヤルを、「ソフトターン」位置に切換える。
- ※ 守らないと、人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



移動走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは、走行速度を落として（低速にして）、パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。
- ※ 守らないと、機械から振り落とされたり、転倒するおそれがあります。



積み込み・降ろしはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

トラックへの積み込み・降ろしは、平地を選んで、最低速で行ってください。

- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度が充分ある基準にあったものを使ってください。
 - あゆみ板は平行において、安定していることを確認してください。
 - チャンバ内は空にしておいてください。
 - 自動車体水平制御は機体を一番下げた状態にしてください。
 - 各作業クラッチ（ベアラ・刈取）を「切」位置にする。
 - 積み込みは前進で、降ろしは後進で行ってください。
- ※ 守らないと、バランスがくずれて、転倒・転落するおそれがあります。
- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。

あゆみ板の基準

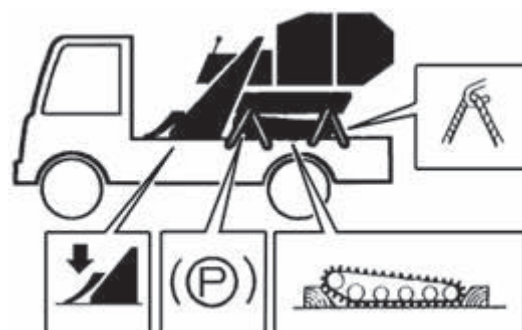
長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	70cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 3500kg 以上に耐えうる



トラックの上では刈取部を床に当たるまで降ろして、駐車ブレーキを掛ける。

- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを「作業・走行」位置または「畦越え」位置にし、駐車ブレーキを掛けてしっかり床に固定する。
- 所定の「ロープ掛けフック（4箇所）」にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

※ 守らないと、機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。

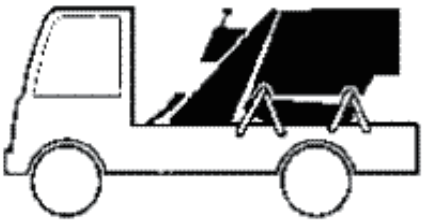
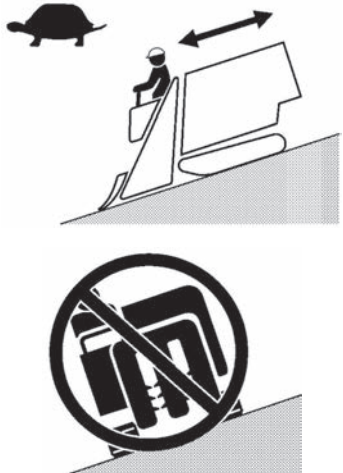


補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅を狭くしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。

ボールは排出してから移動してください。

リヤケースは必ず閉めた状態で移動してください。

輸送中の急発進、急ブレーキ、急旋回は避ける。 ※ 守らないと、輸送中に機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。	
高速走行するときに、急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。 ● 方向を変えるときは速度を低速にしてください。	
右または左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。 ● 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では、上りまたは下り方向に低速でゆっくりと走行する。 ● 坂道（傾斜地）では、右または左に傾いた方向に走行しない。 ● 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回をしない。 ※ 守らないと、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。	
坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。 ● ベールは全て排出する。 ● 坂道（傾斜地）では、急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、ブレーキペダル、水平操作手動スイッチ、旋回モード切換えダイヤルの操作はしない。 ● 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回はしない。 ※ 守らないと、暴走したり、転倒するおそれがあります。	
道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は、走行しない。 ● 溝のある農道や、両側が傾斜している農道は路肩に注意する。 ● 溝、穴、土手の近くは走行しない。 ● 水溜まりや草のおい茂ったところなど、地面のよく見えないときは、事前に降車してよく確かめる。 ※ 守らないと、機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。	

10 cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで滑り止めのある基準にあったあゆみ板を使ってください。 ● 低速で段差に直角に進入してください。 ● 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。 ● ベールはすべて排出する。 ※ 守らないと、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。	
駐車するときや運転席を離れるときは、平坦な場所に止め、副変速レバーを〔作業・走行〕または〔畦越え〕位置にし、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当たるまで降ろして、エンジンを必ず停止して、キーを抜く。 ● 傾斜地に駐車するときは車止めをしてください。 ※ 守らないと、機械が暴走し、思わぬ事故のおそれがあります。	
運転者以外の人を乗せて運転しないでください。 ● ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあります。 ● 運転者は動いている機体に飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。	
補助者は運転席から見えにくい位置にいます。補助者の安全にも配慮してください。 ● エンジン始動時、各クラッチを入れるときは合図し、補助者のOKをもらってください。 ● 補助者が機体に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。 ※ 守らないと、補助者は運転席から見えにくい位置にいたり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。	

後進するときは、バックモニタの液晶パネル画像だけを見ながらの運転操作はしない。

- 後進するときは、機械の周りに人や障害物などがないか、バックミラーや目視でも必ず後方の確認しながらゆっくりと運転操作を行う。
 - 夜間は視界が悪いため運転操作を行うときは、特に機械の周りに人や障害物などがないか確認しながらゆっくりと運転操作を行う。
 - CCD カメラからバックモニタに写しだされる画像（広角映像）に慣れるまではゆっくりと慎重に運転操作を行う。
- ※ 守らないと、接触したり、ひかれたりして死亡または、重大な傷害を負うおそれがあります。

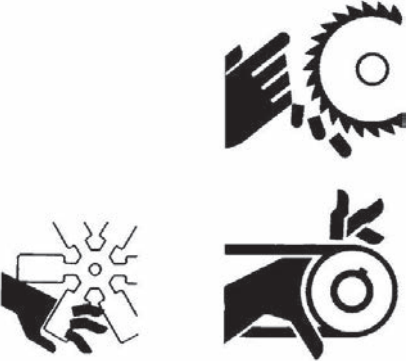
異常に気付いたらすぐにエンジンを停止する。

- 危険ですので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず停止して処置してください。
 - カッタにわらが詰まったときは、すぐ各クラッチを切りエンジンを停止してから処置してください。
 - カッタに詰まったわらなどを取除くときは、厚手の手袋をして、少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
 - ベルトカバー・チェンカバーなどの内部には回転物があります。危険ですのでカバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
 - 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを停止してください。
- ※ 守らないと、カッタ刃やチェンなどの作動部に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



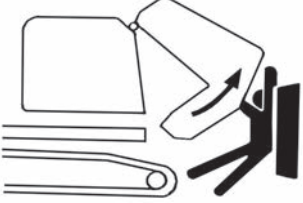
すみ刈りを行うときは後方をじゅうぶん確認する。

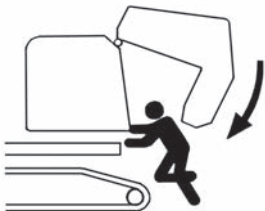
- ※ 守らないと、後退しすぎると、転倒・転落するおそれがあります。

手刈り投入するときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして、少量ずつ供給する。 ● 機械は平坦な場所に止めて、刈取部を止め、駐車ブレーキを掛ける。 ● そで口はきっちり止めて、手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。 ● 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。 ● 刈取クラッチを[切]にして、投入を行う。 ※ 守らないと、チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。	
点検や掃除で外したカバーは必ず取付けること。 ● ベルトやチェーンのカバー、および掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。 ※ 守らないと、内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。	
点検・整備は水平で平坦な場所で行ってください。 エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず停止して駐車ブレーキを掛けてください。 ● 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。 ● 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。 ● 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。	
刈取部、引起し部、カッタ部、リアチャンバを開いたときは、ストッパで固定する。 ※ 守らないと、機械に挟まれて障害を負うおそれがあります。	
刈取部、引起し部、運転操作部を開いたままエンジンを回さない。 ※ 守らないと、回転部に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。	

スピナー部やカッター部など重量物の脱着作業は、クレーンを使うか4人以上で行う。 ※ 守らないと、不意の落下により、傷害を負うおそれがあります。	
刈取部を上げるまたは、開いて点検・整備・掃除するときは、刈取部をロックするとともに、落下防止の歯止めをする。 ● 作業前にエンジンを必ず停止して駐車ブレーキを掛ける。 ● 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしない。 ● 刈取部を開くときは、平坦な場所で自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にする。 ※ 守らないと、機械に挟まれて、傷害を負うおそれがあります。	
取外したカバー類は、必ず取付ける。 ※ 守らないと、内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。	
マフラの排気口が泥で詰まるような湿田のほ場では作業をしないでください。 ● 湿田の状態により刈取作業を行うときは、ほ場の状態を良く確認して、泥が排気管内に侵入しないようにしてください。 ※ 守らないと、火災が発生するおそれがあります。	
わらくずや枯れた雑草の上に機械を停車しないでください。 ※ 守らないと、わらくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。	
下記の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積、付着した燃料はきれいに取除いてください。 ● 各ベルトカバー内 ● 各回転物カバー内 ● エンジン周辺 ● マフラおよびその周辺（排気口までの部位） ● バッテリー周辺 ● プーリ周辺 ● 配線部周辺 ● 燃料タンク周辺 ● 燃料配管周辺（タンク、フィルタ、ポンプ、配管） ● 防じんあみ周辺 ※ 守らないと、火災の原因になります。	

機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。 ※ 守らないと、火災発生のおそれがあります。	
ワイヤーハーネスやバッテリーコードなど電気配線に被覆の破れや、挟み込みがないか点検してください。 ※ 守らないと、ショートによる火災発生のおそれがあります。	
バッテリーのガスは爆発のおそれがあります。 ● バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。	
バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。	
バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。 ● バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（－）側のケーブルを取外してください。バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付けてください。 ● 充電は、機械から取外して行ってください。 ● 密閉状態で充電を行うと破裂するおそれがあり危険です。 ● 指定外のバッテリーは使わないでください。	
バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。 ● 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。 ● 目に入った時は水でよく洗った後、医療機関を受診してください。	
過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。 ● 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。	

高温の油が皮膚にふれると火傷をします。 ● 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。	
エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。	
機械の改造厳禁 指定以外の部品を取付けしないでください。 また、改造はしないでください。	
機械を人に貸出すとき 取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。	
長期格納するときは 機械をきれいにし、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。	
人や動物を近づけない 特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。	
回転中のタイトバーには触れない 回転しているタイトバーに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。	
シャーボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは クラッチを切り、エンジンを必ず停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。	
急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止 スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。 また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。	
ベールを放出するときは ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。	

チャンバを開けて作業するときは 必ずシリンダーストップをセットしてください。 ※ 守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。	
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しない。 ● 機械から廃液を抜く場合は、容器に受ける。 ● 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしない。 ● 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理する。 ※ 守らないと、環境汚染につながります。	
DPF 再生処理中は、マフラ・排気ガスが高温になるため、DPF 再生処理を行うときは、次の事項を守る。 (DPF：ディーゼル微粒子除去装置、Diesel Particulate Filter) ● DPF 再生処理中はコンバインから離れない。 ● 納屋や倉庫など換気の悪い場所では再生処理を行わない。 ● DPF 再生処理中はマフラに人、物などを近付けない。 ● マフラの周囲の可燃物を取除く。 ※ 守らないと、中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。 ※ やけどを負うおそれがあります。 ※ 火災が発生するおそれがあります。	

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で **!** 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

運転操作のシンボルマーク

作業機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークを作業機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。なお、各シンボルマークのさらに詳しい内容については、本書第2章「運転のしかた」に記載しています。

	ウィンカ パイロットランプ		こぎ深さ自動		最高速度設定
	エンジン回転高速		エンジン回転低速		前後 UFO 自動
	左右 UFO 自動		ブザー停止		エコモード
	エンジン回転		燃料残量表示		ホーン
	前照灯		積算計		ニュートラル (中立)
	排気フィルター 再生		排気フィルター 再生不可状態		排気フィルター 異常
	トルクリミッタ作 動		エンジン油圧警報		刈取ベルトスリップ
	エンジン停止 スイッチ		バッテリー チャージ		エンジン冷却水
	燃料温度		FDS 異常		ウォーター セパレータ

	搬送詰まり		排わら・ カッタ詰まり		吹出口切替レバー (オペレータ側)
	吹出口切替レバー (フロントガラス 側)		ワイパー		電源
	刈取オートセット		OK リフト		

安全に作業する

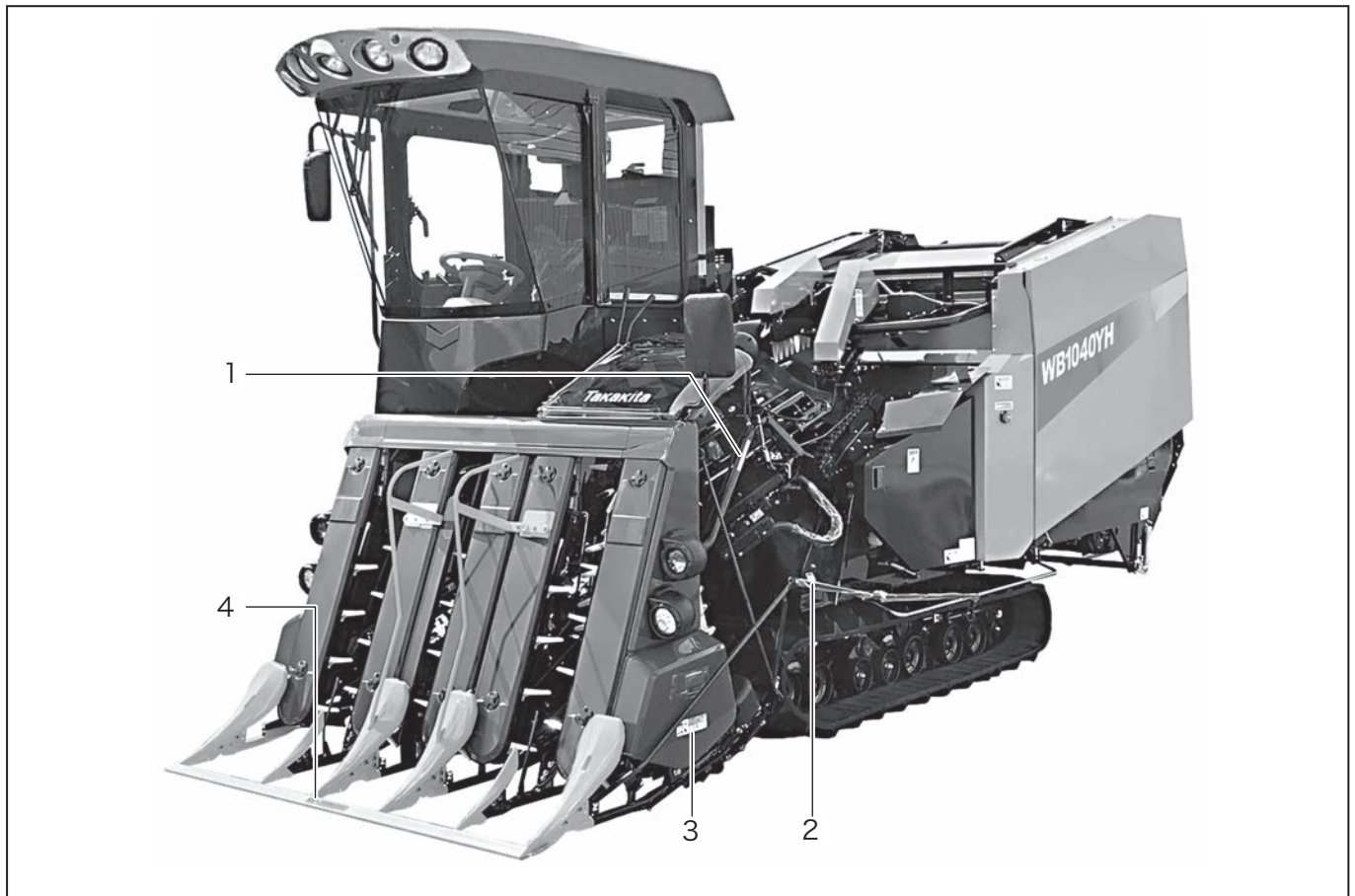
1. 必ずお読みください

1.1 安全銘板

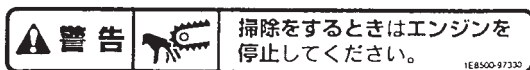
1.1.1 安全銘板の貼り付け位置

安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

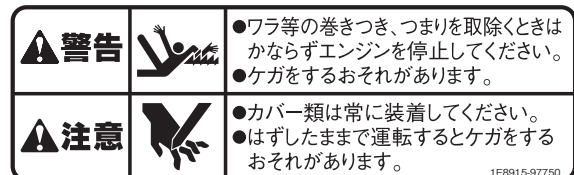
安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 1E8500-97330 警告（点検 B）



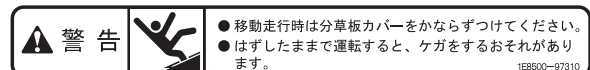
3. 1E8915-97750 警告・注意（カバー）



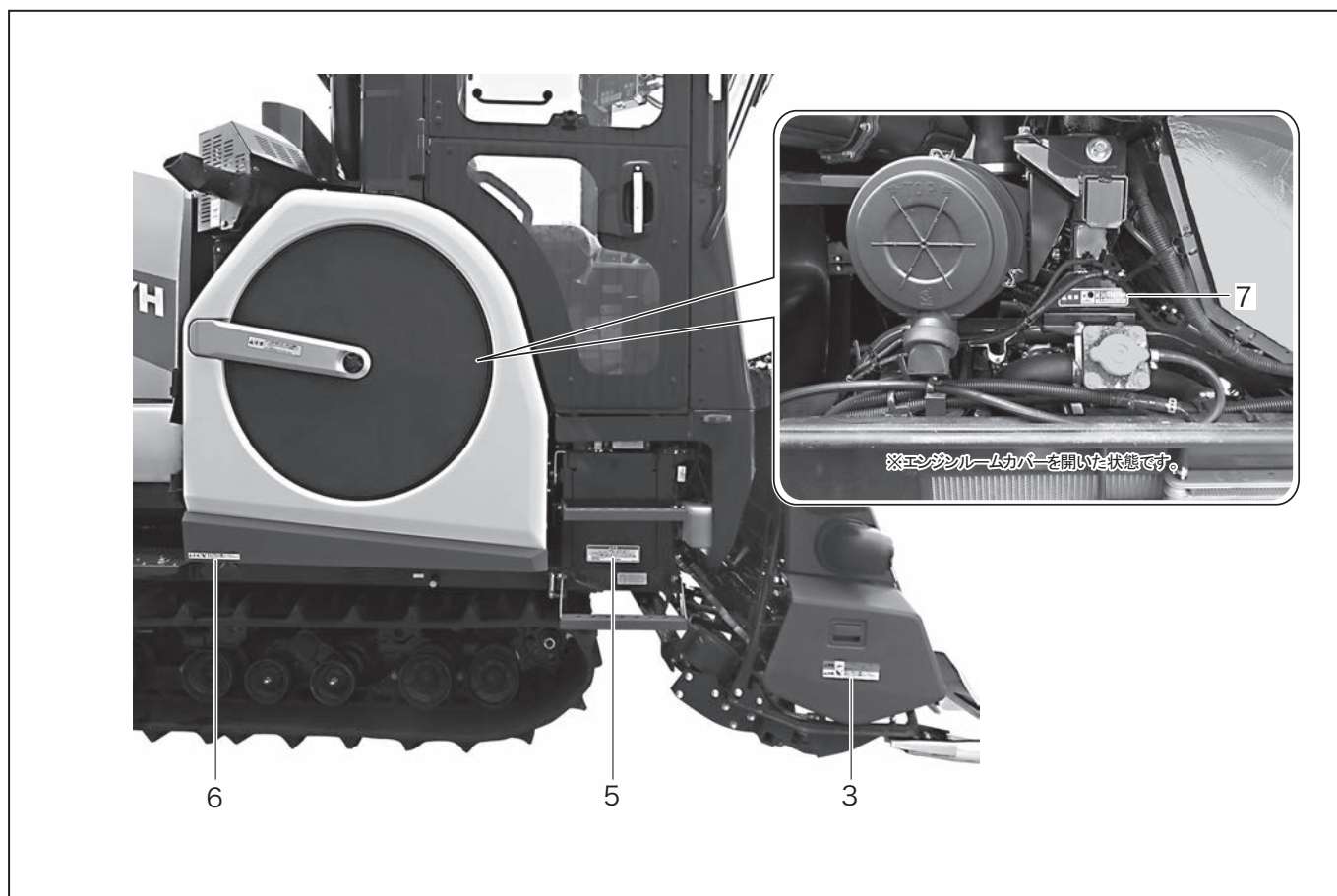
2. 1E6684-97100 警告（刈取点検）



4. 1E8500-97310 注意（分草カバー）



1. 必ずお読みください



3. 1E8915-97750 警告・注意（カバー）

警告		● フラ等の巻きつき、つまりを取除くときは、かならずエンジンを停止してください。 ● ケガをするおそれがあります。
注意		● カバー類は常に装着してください。 ● はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

1E8915-97750

7. 1E8500-97220 危険（ラジエータ）

危険		● 高温時にはキャップを開けないでください。 ● 熱湯が吹き出しやけどをするおそれがあります。
-----------	--	--

1E8500-97220

5. 1E9265-97480 危険（バッテリー）

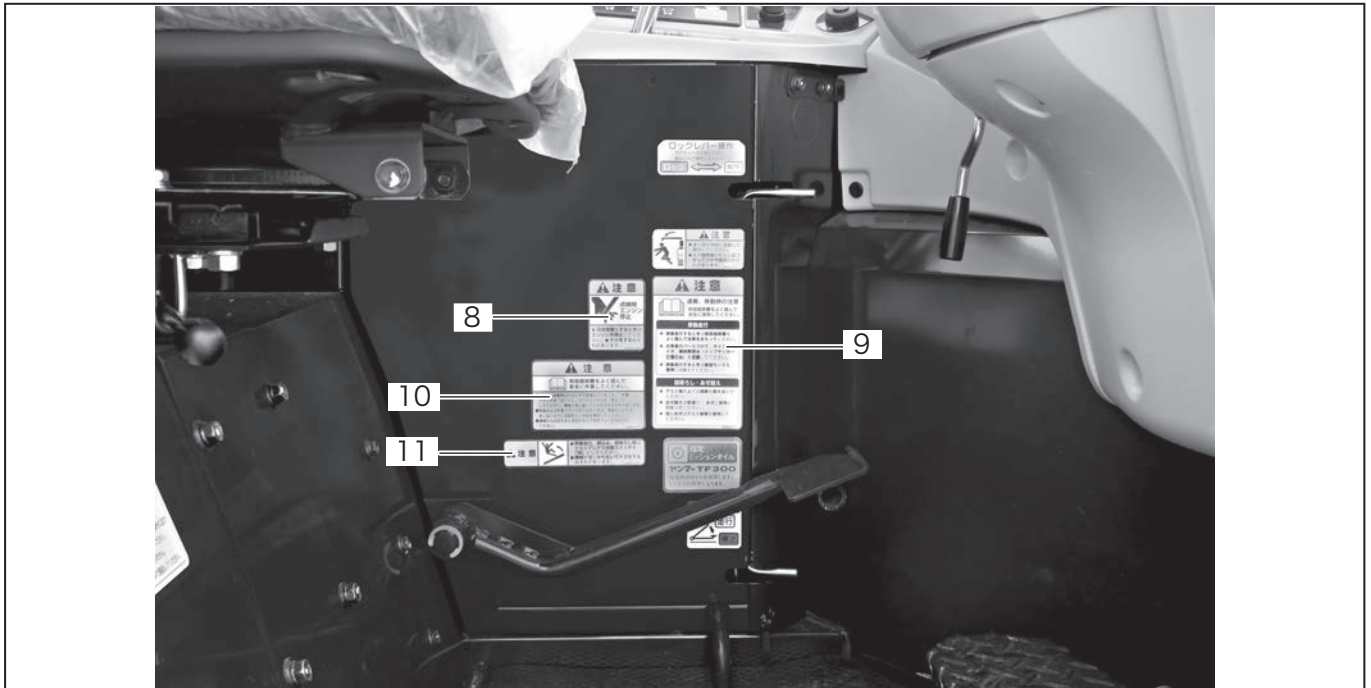
危険	
● この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。 ● バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。 ● 充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。 ● バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。 ● 充電時火気厳禁 ● 急速充電厳禁	

1E9265-97480

6. 1E8500-97470 注意（ベルトカバー C）

注意		● カバー類は常に装着してください。 ● はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。
-----------	--	---

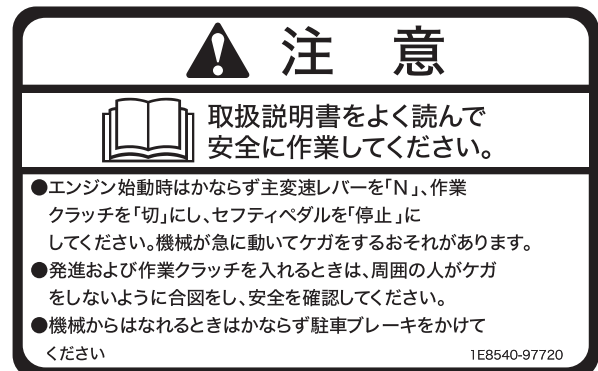
1E8500-97470



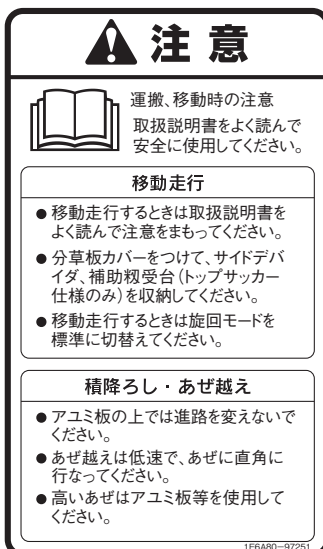
8. 1E8500-97460 注意（エンジン停止）



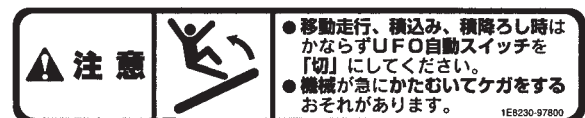
10. 1E8540-97720 注意（取扱 S）



9. 1E6A80-97251 注意（運搬・移動）

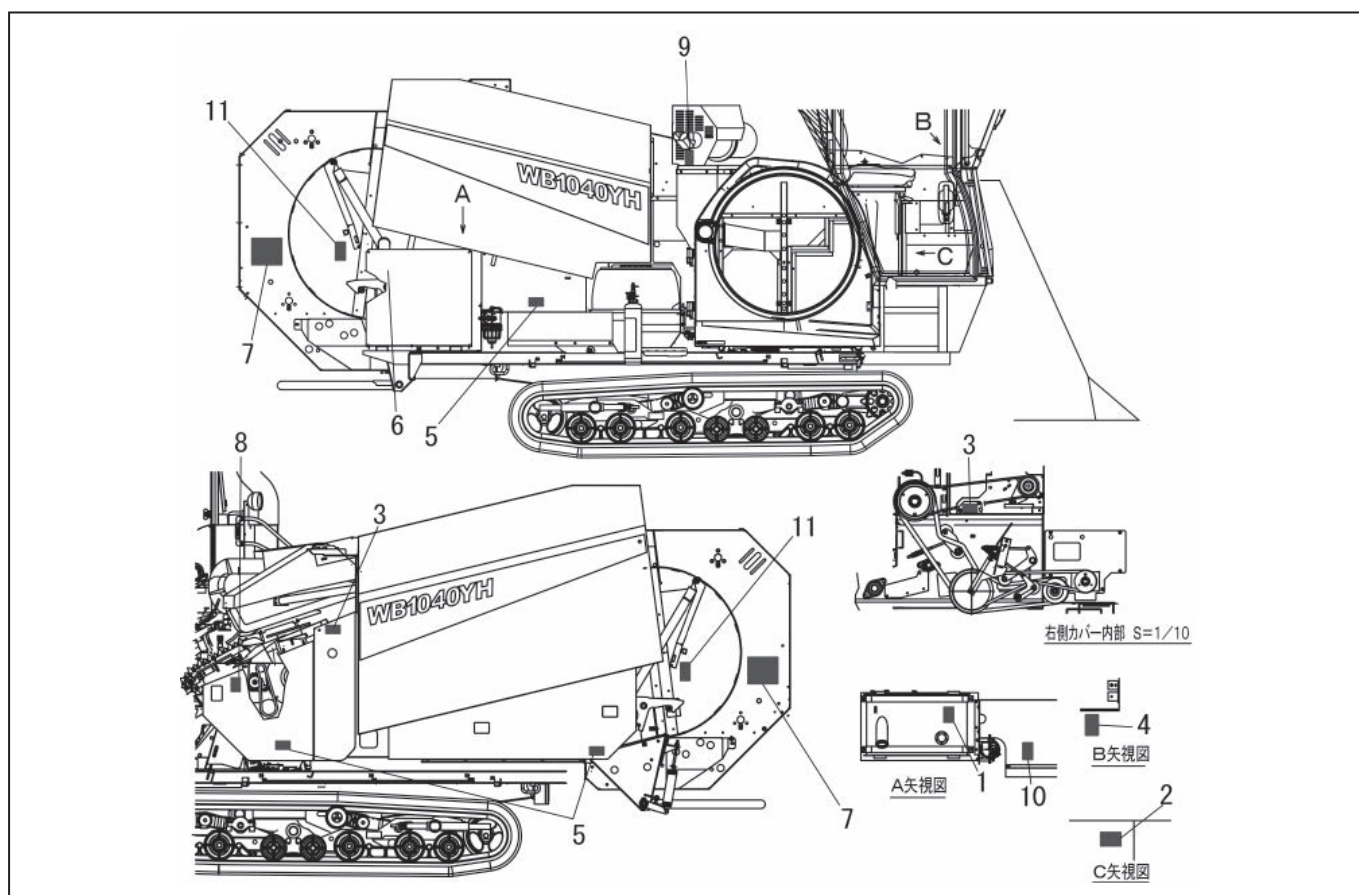


11. 1E8230-97800 注意（UFO）



1. 必ずお読みください

【ロールベアラ部】



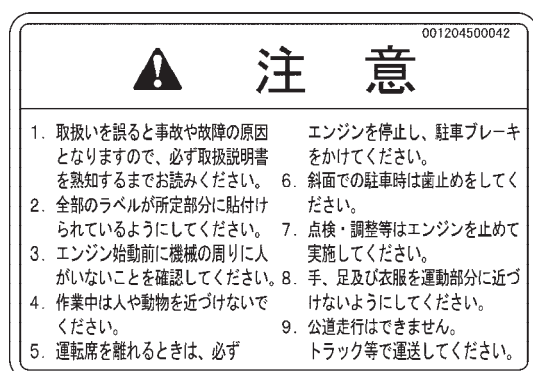
1. 部品コード 00120-4500-910



3. 部品コード 00120-6000-561



2. 部品コード 00120-4500-042



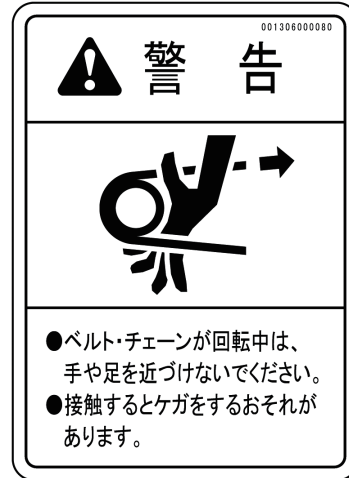
4. 部品コード 00120-6001-370



5. 部品コード 00120-6000-800



8. 部品コード 00130-6000-080



6. 部品コード 00120-6001-050



9. 部品コード 00120-6000-420



7. 部品コード 00120-6001-780



1. 必ずお読みください

10. 部品コード 00120-4501-310



11. 部品コード 00120-6001-440



1.1.2 安全銘板の手入れについて

- ・ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- ・ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- ・ 安全銘板が破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、当社または JA（農協）にご注文ください。
（ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。）
- ・ 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

1.1.3 本製品の使用目的とサービスについて

◆ 製品の使用目的について

本製品は、飼料イネ、飼料麦を刈取り、ペール成形する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

◆ アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、JA（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No.（S E R - N o .）
- 台車製造番号
- エンジン型式、機関番号
- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※ 機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

品名・型式
機体 No.



台車製造番号

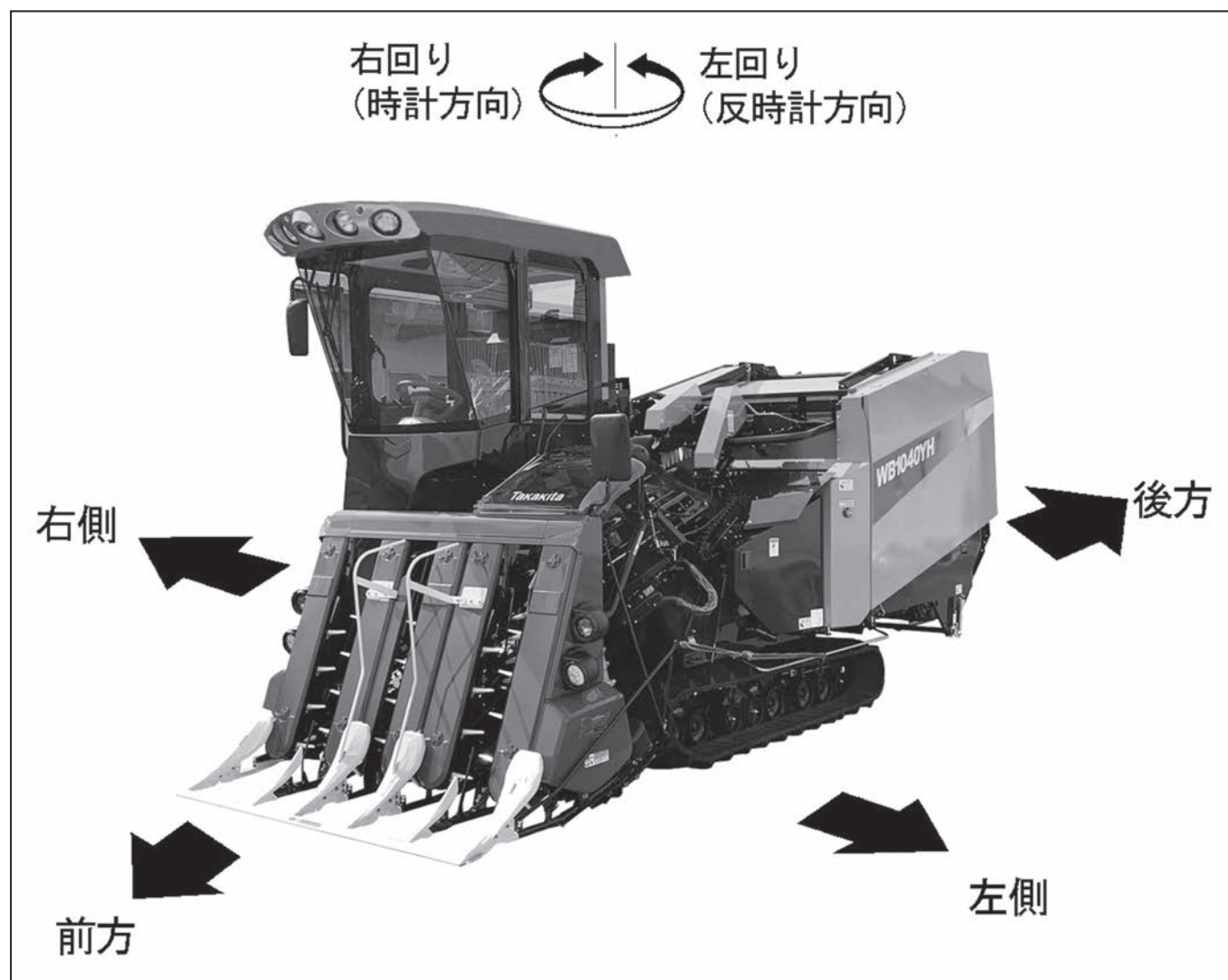


【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	細断型ホールクロップ収穫機		
型 式	W B 1 0 4 0 Y H		
機 体 No			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

1.1.4 機体の方向説明

この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は、図示の通りに決めています。



2. 運転のしかた

2.1 各部のはたらきと使いかた

2.1.1 フロントコラム部

フロントコラム部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

キー

エンジン始動用とドア開閉用にそれぞれ2本用意しています。1本は、スペアキーとして、メインキーとは別に大切に保管してください。

〈エンジン始動用キー〉

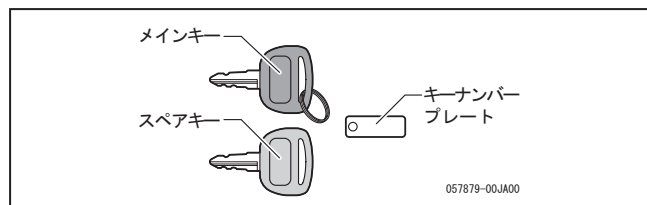


図 2-1 キー

〈キャビン用ドア開閉キー〉

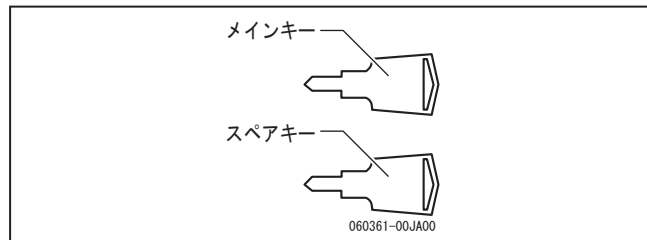


図 2-2 キー

《重要》

エンジン始動用キーのキーナンバープレートには、キーナンバーが記載してあります。キーナンバーはキーを紛失した際に必要となりますので、キーナンバープレートは大切に保管してください。

《参考》

作業機を譲渡するときは、つぎにお使いになるかたのためにすべてのキーとキーナンバープレートを作業機と一緒にお渡しください。

キースイッチ

！警告

- 作業機を使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。

※ 子供などが操作し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンを始動、停止するときに使用します。

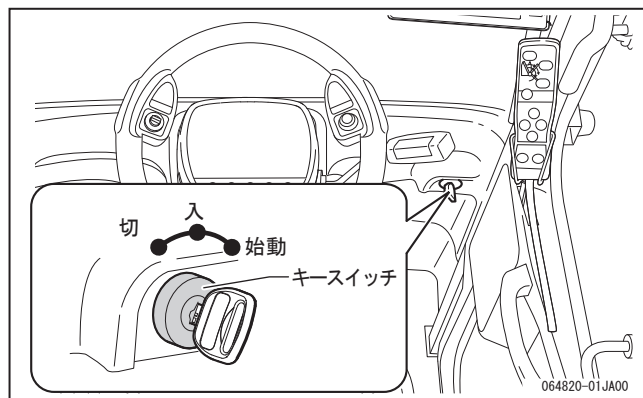


図 2-3 キースイッチ

「切」位置…… エンジンが停止します。

(電流は流れず、キーを抜き取れます。)

「入」位置…… 各電装部品に電流が流れます。

「始動」位置… セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離します。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入ります。

《参考》

- ・ 寒冷時には、キースイッチを「入」位置にしてから、数秒間はヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。ヒータ作動時には、センターディスプレイに「グロー作動中」と表示されます。作業クラッチレバーが「OFF」位置以外の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。
- ・ エンジンを始動せずに、キースイッチを「入」位置のまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

コンビネーションスイッチ

◆ ウィンカスイッチ

方向指示器を点滅させるときに使用します。

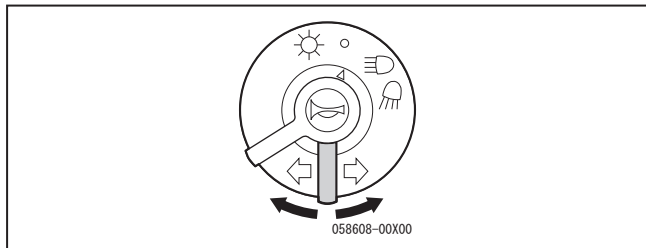


図 2-4 ウィンカスイッチ

左へ倒す……左側が点滅します。

右へ倒す……右側が点滅します。

キースイッチを「入」、または「始動」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にセンターディスプレイのウィンカパイロットランプも点滅します。



図 2-5 ウィンカパイロットランプ

◆ ライトスイッチ（作業灯スイッチ兼用）

ヘッドライトの照射、および作業灯を点灯させるときに使用します。

ヘッドライト、作業灯を点灯させると車幅灯（前側左右、後側左右）も点灯します。

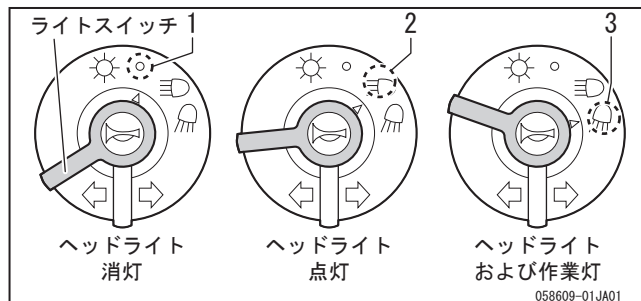


図 2-6 ライトスイッチ

キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを（2）（点灯）側に回すとヘッドライトが照射、（3）側へ回すと作業灯、車幅灯がします。

（1）（消灯）側に回すと消灯します。

◆ ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

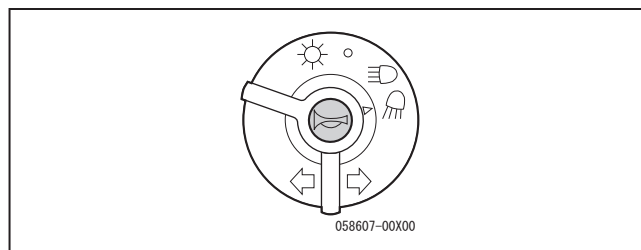


図 2-7 ホーンボタン

キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

排気フィルター再生スイッチ

排気フィルターに捕集した PM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去し、排気フィルターを再生するときに使用します。

排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅したら排気フィルターの再生（リセット再生）をします。

排気フィルターの再生についての詳細は、182 ページを参照してください。

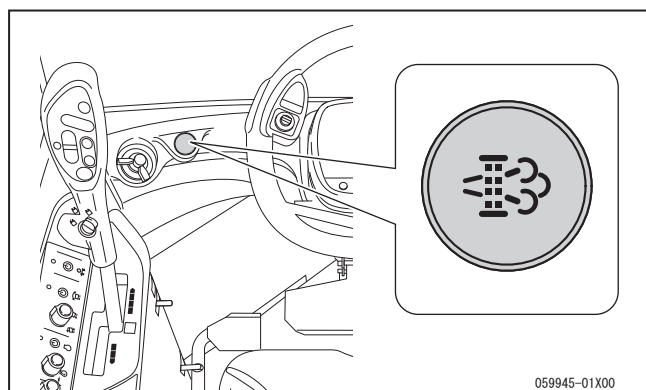


図 2-8 排気フィルター再生スイッチ

表 2-1 排気フィルター再生スイッチ

排気フィルター再生スイッチ (お知らせランプ)	状態
点滅	排気フィルター再生待ち
点灯	排気フィルター再生中

《 参考 》

お知らせランプが点滅しているときは、ブザーが鳴ります。

チルトレバー

マルチハンドルの、前後の角度を調節するときに使用します。

好みの角度に調節し、調節後は確実に固定します。
(83 ページ)

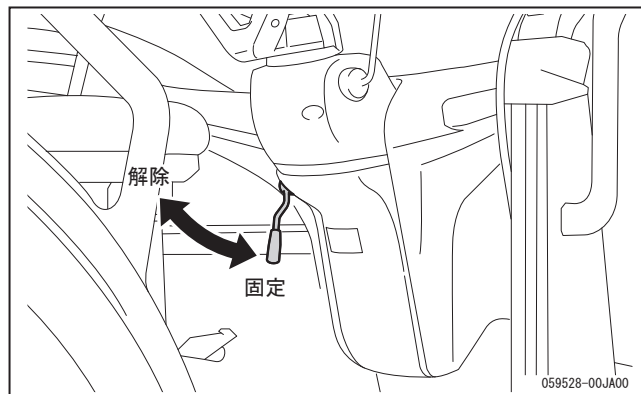


図 2-9 チルトレバー

「解除」方向……ハンドルの固定が解除されます。

「固定」方向……ハンドルが固定されます。

2.1.2 ハンドル部

ハンドル部周辺のスイッチやボタンについて説明します。

マルチハンドル

作業機を旋回するときに使用します。

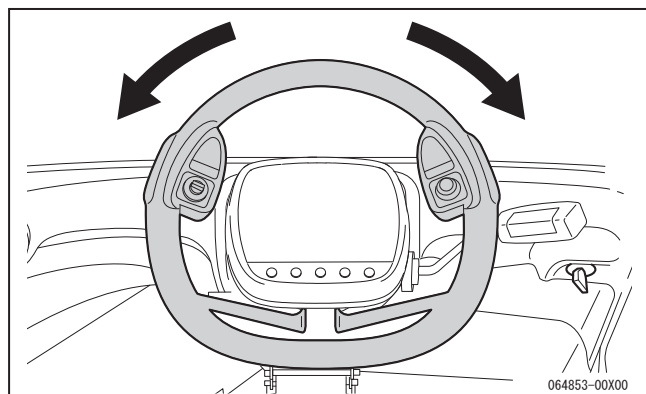


図 2-10 マルチハンドル

マルチハンドルを右へ回すとコンバインが右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。

さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

ステアリング右スイッチ

スイッチの機能を変更ができます。

設定の変更は特販店または JA（農協）に連絡してください。

設定変更後は、誤操作防止のため必ず特販店または JA（農協）で銘板を貼り替えてください。

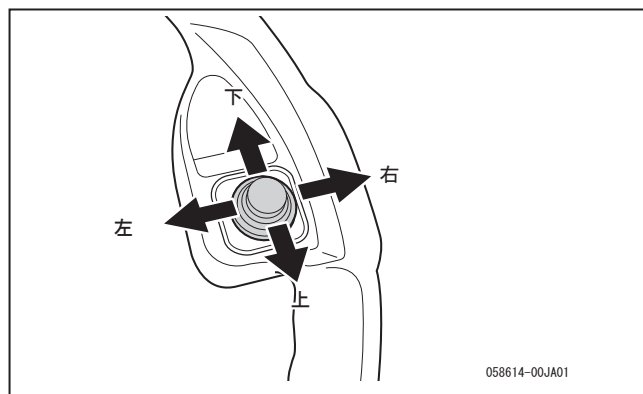


図 2-11 ステアリング右スイッチ

表 2-2 スイッチ設定表

	上下スイッチ	左右スイッチ
1	刈取フィット昇降	フィットステアリング
2	刈取フィット昇降	UFO 左右
3	UFO 上下	フィットステアリング
4	UFO 上下	UFO 左右

出荷時の設定は、上下スイッチは刈取フィット昇降、左右スイッチはフィットステアリングに設定されています。

◆ UFO 上下機能

「上」側……車高が低くなります。

「下」側……車高が高くなります。

◆ UFO 左右機能

「右」側……車体が右に傾きます。

「左」側……車体が左に傾きます。

◆ 刈取フィット昇降機能

「下」側……刈取部がゆっくり下降します。

「上」側……刈取部がゆっくり上昇します。

◆ フィットステアリング機能

「右」側……右にゆるやかに旋回します。

「左」側……左にゆるやかに旋回します。

《 重要 》

オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチと、マルチハンドル部のステアリング右スイッチを同時に同方向の操作をしたときは、速い速度が優先されます。

異方向の操作では、速度に関係なく上昇側の操作が優先され、つぎの表 2-3 のように作動します。

表 2-3 刈取部の作動

刈取昇降スイッチ (速く動く)	フィットステアリング・ 刈取昇降スイッチ (ゆっくり動く)	刈取部の作動
上昇側	上昇側	速く上昇する
上昇側	下降側	速く上昇する
下降側	上昇側	ゆっくり上昇する
下降側	下降側	速く下降する

《 参考 》

- ・フィットステアリング機能では、急旋回しません。
- ・フィットステアリング機能は、作業クラッチレバーが「刈取」位置であれば、オールマイティシフトレバーが「前進」・「後進」・「停止」のどの位置にあっても作動（ゆるやかに旋回）します。

UFO 昇降スイッチ

手動で車高を調節するときに使用します。

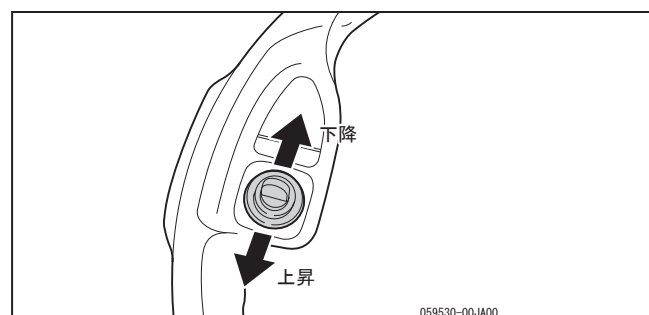


図 2-12 UFO 昇降スイッチ

前方に押す……車高が低くなります。

後方に押す……車高が高くなります。

《 参考 》

ステアリング右スイッチを UFO 上下スイッチに設定している場合、ステアリング右スイッチと UFO 昇降スイッチで上下反対の操作を行った場合、UFO は停止します。

UFO 手動（左右）調節レバー

手動で車高を調節するときに使用します。

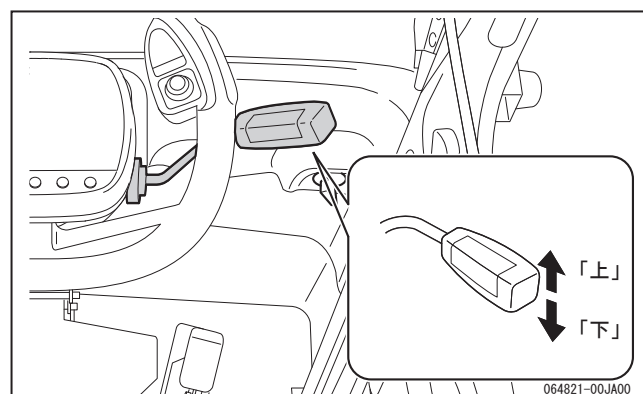


図 2-13 UFO 手動（左右）調節レバー

「上」に引く…車体が左に傾きます。

「下」に押す…車体が右に傾きます。

《 参考 》

- ・〈左右 UFO 画面〉
調節レバーを上下方向に操作するとつぎのように表示されます。

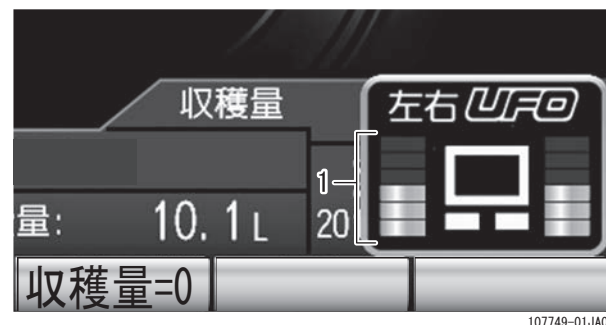


図 2-14 左右 UFO 画面

作業機の左右のクローラ高さを最低位置から 6 段階の目盛り（図 2-14）で表示されます。最低位置では目盛りは表示されません。

2. 運転のしかた

2.1.3 センターディスプレイ部

運転中の各部の状態を確認できます。異常があった場合は、異常箇所をディスプレイに文字やグラフィックで表示します。

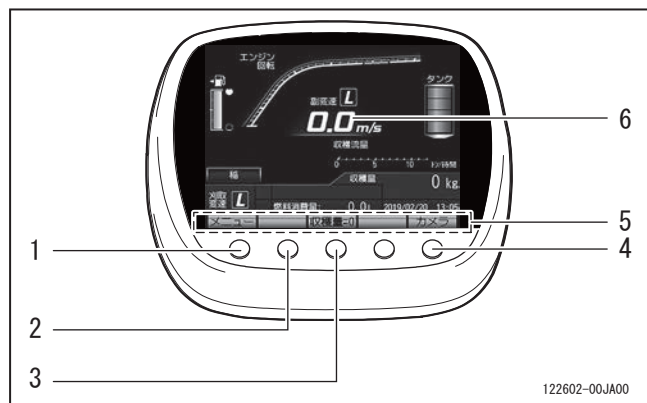


図 2-15 センターディスプレイ

1. メニュースイッチ

作業機の設定画面を表示します。



図 2-16 メニュー画面

◆ コンバイン設定

操作機能の一部を変更できます。(87 ページ)

◆ 基本設定

ディスプレイの明るさや日付を設定できます。(93 ページ)

2. 表示切替スイッチ

警報やエラー発生時に押すと詳細画面に切り替わります。警報・エラー表示については、40 ページを参照してください。

3. 決定スイッチ

4. カメラ切替スイッチ

カメラ切替スイッチで作業機後方、ベール排出の映像を液晶モニターに映し出すことができます。オールマイティシフトレバーを「R」側に入れると、バックモニターカメラに切り替わります。リアチャンバを「開」にするとベール排出モニターカメラに切り替わります。

警報発生時は、ブザー停止スイッチとなります。

5. スイッチ表示部

スイッチ 1～5 の機能を表示します。

《 参考 》

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1～5で行ってください。

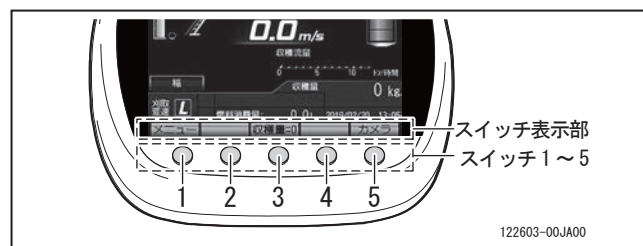


図 2-17

6. センターディスプレイ

運転中の作業機の情報文字とグラフィックで表示します。

詳細については、38, 39 ページを参照してください。

〈メンテナンス情報の画面〉

エンジンオイル交換など、メンテナンスが必要になったときに文字で表示します。



図 2-18 メンテナンス注意画面

〈動作表示の画面〉

エンジン始動時に、ヒータの作動を表示します。
画面下部に「グロー作動中」と表示されます。



図 2-19 グロー作動中画面

〈非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面〉
オープニング画面表示の後、作業クラッチレバーが「OFF」位置のときに表示します。



図 2-20 非作業時の画面

〈刈取作業時（作業クラッチレバー「べーラ」、「刈取」）の画面〉

エンジン始動後、作業クラッチレバーが「べーラ」、「刈取」位置のときに表示します。



図 2-21 刈取作業時の画面（べーラクラッチ入時）

〈異常箇所表示する画面〉

各部に異常があった場合、画面下部に警報表示されます。異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また、警報表示中に「表示切替」（スイッチ）を押すと、警報詳細画面に切り替わります。

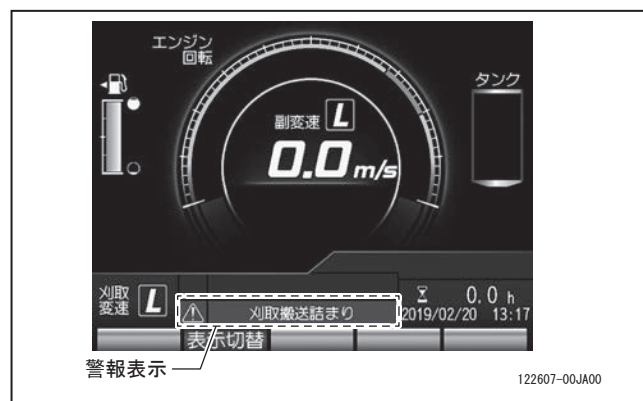


図 2-22 警報表示



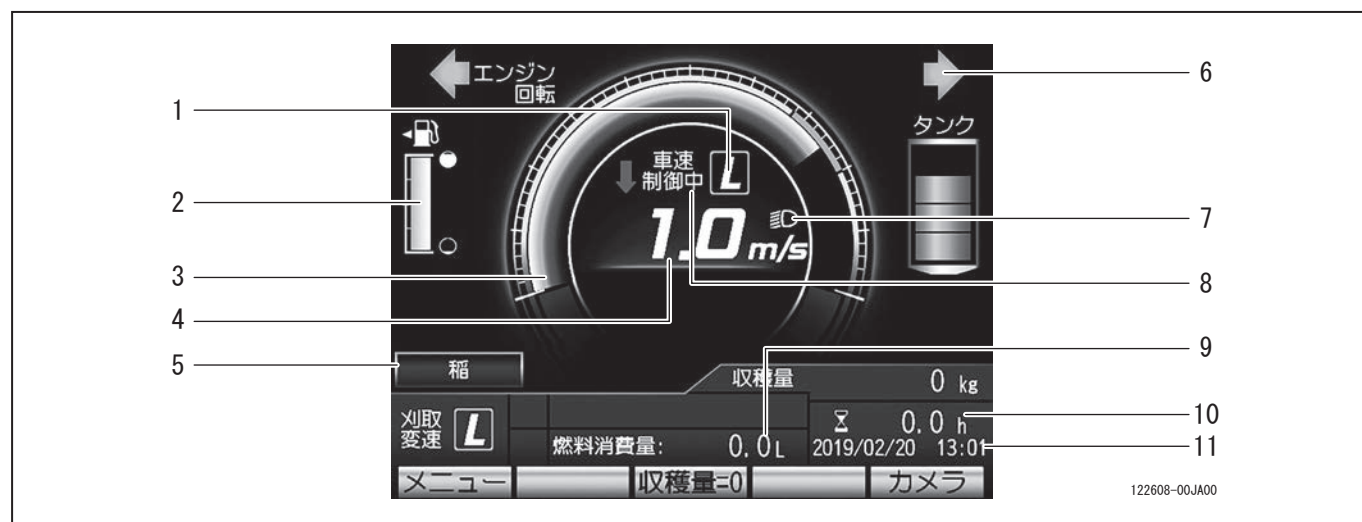
図 2-23 警報詳細画面

《 参考 》

- ・強制的にエンジンを停止させる警報（刈取搬送詰まり、排わら・カッタ詰まりなど）が発生したときは、優先的に警報詳細画面が表示されます。（図 2-23）
- ・キースイッチを「切」位置にすると、表示がリセットされます。
- ・ブザーが鳴らない警報もあります。

2. 運転のしかた

◆ 非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面



※図は〈YH571A,I仕様〉を使用しています。

図 2-24 非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面

番号	名称	はたらき
1	副変速表示（ノークラッチ副変速ボタン）	ノークラッチ副変速ボタンが作業状態のときは「L」、走行状態のときは「H」を表示します。
2	燃料残量表示	燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、 マークの上に「●」が点灯し、ブザーが断続音で鳴ります。（燃料の残量はおよそ 13L です。）「ブザー止」（スイッチ）を押すと、ブザーが鳴り止みます。 また、キースイッチ「入」位置で燃料給油時に満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが断続音で鳴り続けます。「ブザー止」（スイッチ）を押すと鳴り止みます。
3	回転計	エンジン回転数を表示します。
4	走行速度	車速を表示します。
5	作物表示	設定した作物（稲、小麦、大麦）を表示します。
6	ウインカパイロットランプ	ウインカスイッチを操作したときに点滅します。
7	ヘッドライト点灯表示	ヘッドライトを点灯させると表示します。
8	車速制御中表示	快速制御が作動して車速制御（減速）時に表示します。
9	積算燃料消費量	刈取中のほ場で消費した燃料の量を表示します。
10	アワメータ（作業時間表示）	エンジンの使用時間もしくは、作業時間を表示します。
11	日付時間表示	現在の日付と時間を表示します。

◆ 刈取作業時（作業クラッチレバー「ペーラ」、「刈取」）の画面



※図は〈YH571A,I仕様〉を使用しています。

図 2-25 刈取作業時（作業クラッチレバー「ペーラ」、「刈取」）の画面

番号	名称	はたらき
1	エンジン回転計	エンジン回転数を表示します。 《 参考 》 エコモードスイッチ使用時は、エンジン負荷を表示します。
2	刈取変速状態	刈取変速が標準状態のときは「L」、高速状態のときは「H」を表示します。

◆ 警報表示とエラーコード表示について

各部の状態に異常があったときに警報、またはエラーが発生し、警報発生時は、ブザーが鳴ります。解除されるまでセンターディスプレイ下部に警報の内容、またはエラーコードが表示されます。

〈警報表示画面〉

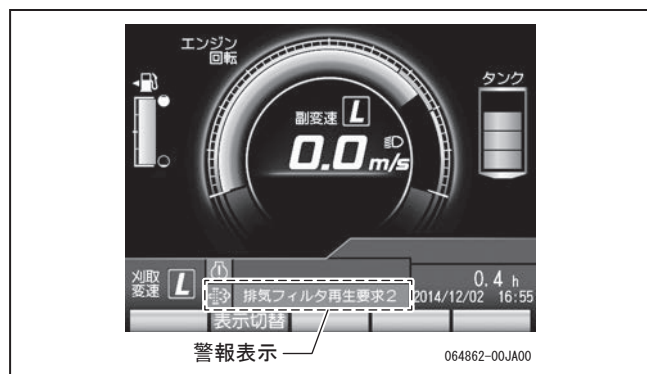


図 2-26 警報表示画面

《 参考 》

ブザーが鳴らない警報もあります。

〈エラーコード表示画面〉

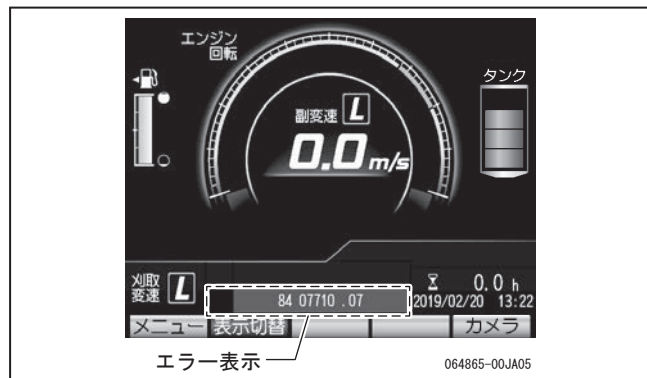


図 2-27 エラーコード表示画面

〈警報内容の詳細表示〉

警報表示中に「表示切替」(スイッチ)を押すと、警報詳細画面に切り替わります。



図 2-28 警報内容の詳細表示

《 参考 》

強制的にエンジンを停止させる警報（刈取搬送詰まり、排わら・カッタ詰まりなど）が発生したときは、警報詳細画面が表示されます。

つぎの警報の場合は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。(231 ページ)

- ・ FDS 異常
- ・ 放出ピッチ検出センサ異常

つぎの警報の場合は、「ブザー止」(スイッチ)を押してもブザーは鳴り止みません。

- ・ オーバーロードモニター
- ・ 刈取搬送詰まり警報
- ・ カッタ詰まり警報
- ・ 刈取ベルトスリップ警報
- ・ トルクリミッタ作動警報
- ・ エンジン油圧異常警報
- ・ オーバーヒート
- ・ チャージ異常警報
- ・ 燃料温異常警報
- ・ ウォーターセパレータ警報
- ・ 排気フィルター異常警報
- ・ 排気フィルター再生要求 2
- ・ 排気フィルター再生要求 1
- ・ 排気フィルター再生要求

《 参考 》

- 通常の画面に戻すときは、「戻る」(スイッチ)を押してください。
- 数件の警報が重なっている場合は、「次ページ」(スイッチ)を押すとつぎの警報詳細画面が表示されます。
- 警報装置については、229 ページを参照してください。

〈エラーコードの詳細表示〉

各種センサにエラーが発生したときに、エラーコードが表示されます。

エラーコード表示中に「表示切替」(スイッチ)を押すと、エラーコード詳細画面に切り替わります。

現在発生中のエラー		1/2
00 00002 .01	84 08246 .09	
00 00003 .02	85 08256 .09	
28 08106 .09	85 08320 .09	
3D 00002 .01	85 06E30 .02	
3D 00003 .02	86 08266 .09	
戻る	次ページ	

121933-00JA00

図 2-29 エラーコード詳細画面

《 参考 》

- 通常の画面に戻すときは、「戻る」(スイッチ)を押してください。
- エラーは、エラーコードのナンバー順に並んで表示します。
- 数件のエラーが重なっている場合は、「次ページ」(スイッチ)を押すとつぎのエラーコード詳細画面が表示されます。

2.1.4 サイドコラム部 (スイッチ・ダイヤル類)

サイドコラム部周辺のスイッチやダイヤル類について説明します。

エコモードスイッチ

エンジン回転を、自動制御したいときに使用します。

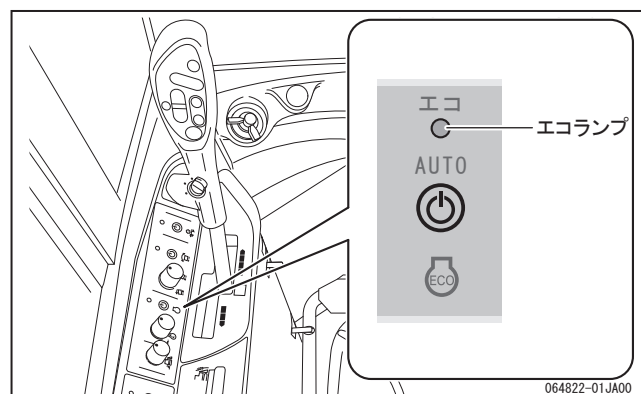


図 2-30 エコモードスイッチ

「切」状態（エコランプ消灯）

…アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できます。

「入」状態（エコランプ点灯）

…エンジン回転を自動的に制御します。

◆ 自動定回転制御機能

作業負荷が変動（負荷率が 100% 未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

◆ 快速制御機能

エンジンの負荷が過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷になれば車速をオールマイティシフトレバーの位置に戻します。

《 参考 》

工場出荷時は、快速制御「入」になっています。

◆ オートデセル機能

エコモードスイッチが「入」（エコランプ点灯）状態で、つぎの条件のときに、自動的にエンジン回転がセンターディスプレイの回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置になり、それ以外はアイドリング（1300rpm）回転数になります。

- ・ オールマイティシフトレバーを前方・後方に倒したとき。（移動走行時）
- ・ 作業クラッチレバーを「ベアラ」位置にしたとき。（ベアラ時）

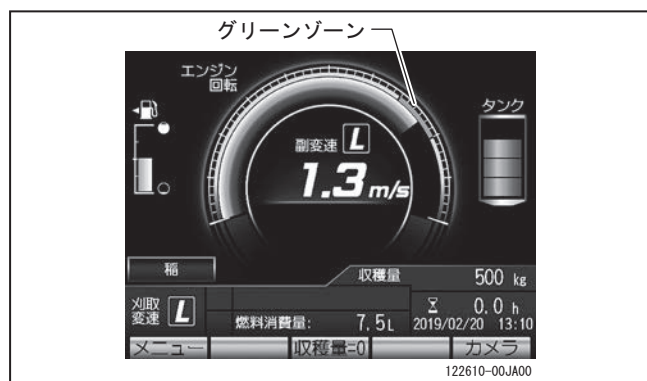


図 2-31 グリーンゾーン

表 2-4 エコモードのエンジン回転数

エコモード状態	エンジン回転数
切	アクセル位置
入	2500/1300 (rpm)

アクセルダイヤル

エコモードスイッチ「切」（エコランプ消灯）位置でのエンジン回転の調整に使用します。

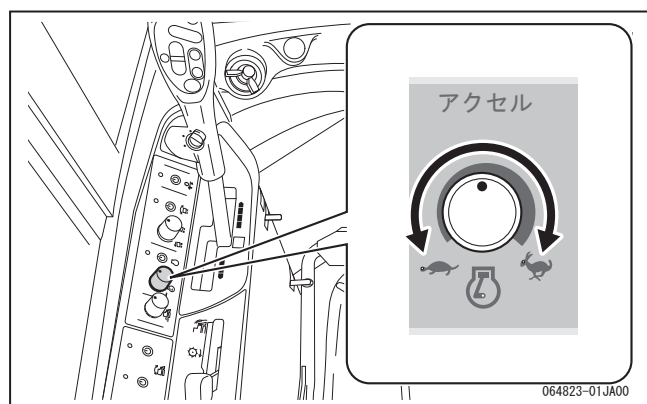


図 2-32 アクセルダイヤル

右へ回す……エンジンの回転が上がります。
左へ回す……エンジンの回転が下がります。

左右 UFO 自動スイッチ

⚠ 注意

- 路上や傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず左右 UFO 自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。

※ 作業機が急に傾き、転倒やけがをするおそれがあります。

左右の車体水平制御を作動させるときに使用します。

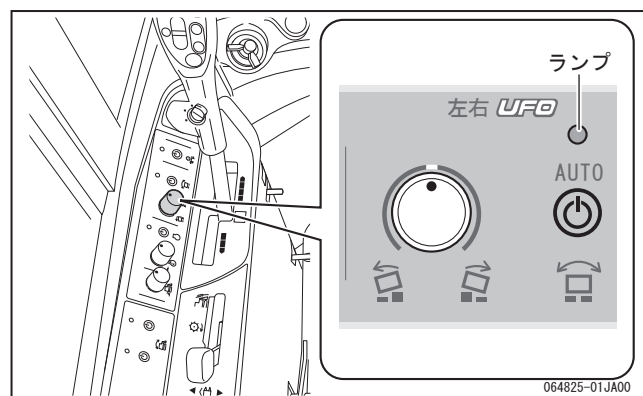


図 2-33 左右 UFO 自動スイッチ

車体水平制御装置は、ベアラクラッチが入り位置のときに作動します。

「入」（ランプ点灯）……車体左右水平制御がはたらきます。

「切」（ランプ消灯）……車体左右水平制御が切れます。
(125 ページ)

傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。

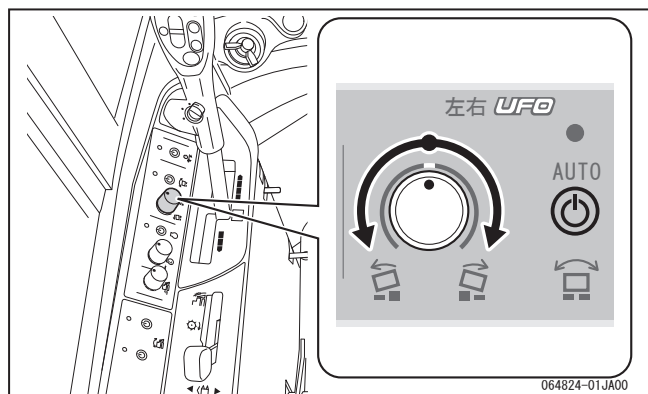


図 2-34 傾斜角調節ダイヤル

中央位置……………車体が水平になります。
右方向に回す……車体が右に傾きます。
左方向に回す……車体が左に傾きます。

最高速度設定ダイヤル

最大車速の 50% から最大車速（100%）の間で、最高速度を任意に設定できます。

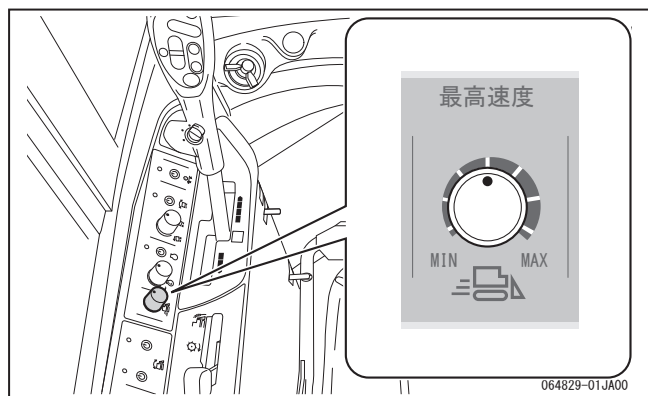


図 2-35 最高速度設定ダイヤル

最高速度を規制して作業したいとき、エンジンに負荷がかかるとき、またはあぜ越え・ほ場進入時に微妙な車速の調節が要求されるときは、ダイヤルを設定し、最高速度をけん制することで、安心して刈取作業ができます。

「MIN」（遅）側…最大車速の 50% に設定できます。
「MAX」（速）側…最大車速（100%）に設定できます。

《 参考 》

- オールマイティシフトレバーの位置に関わらず、走行中でも設定できます。
- 副変速が「走行（H）」のとき、「MIN」（遅）側にすると、最大車速のおよそ 80% の設定となります。
- 車速は、エンジン回転数と副変速「畦越」「作業」で調節できる範囲が変化します。

表 2-5 エンジン回転を定格回転としたときの最高速度設定範囲

速度 (m/s)	
「畦越」	0.49 ～ 0.98
「作業」	0.85 ～ 1.7

旋回モード切替スイッチ

旋回モードを切り替えるときに使用します。

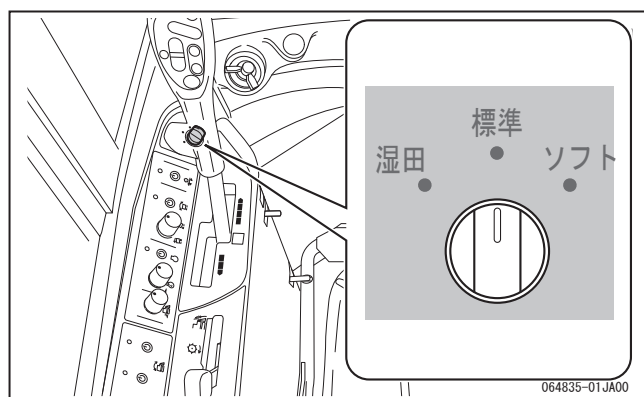


図 2-36 旋回モード切替スイッチ

「標準モード」位置……旋回時に自動減速がはたらき、小回り（スピントーン）ができます。

「湿田モード」位置……旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

「ソフトモード」位置…旋回時に自動減速がはたらき、「標準」と「湿田」の中間的な旋回ができます。

《 参考 》

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速がはたらいて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」または「ソフトモード」にしてください。

- ・乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、作業機の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。
- ・「ソフトモード」は、「標準モード」の旋回半径が1.5倍程度の大回りができます。

表 2-6 旋回モード

	標準モード	ソフトモード	湿田モード
旋回時の減速	減速する	減速する (標準モードより小)	減速しない
ノークラッチ 副変速ボタン 「作業」での 旋回	スピントーン する (小回り)	スピントーン しない (ブレーキ ターンする) (中回り)	スピントーン しない (大回り)
乾田での旋回	◎	○ ほ場の荒れを 少なく作業 する場合に 使用	△ 旋回が大回 りなので、操 作性が鈍感
湿田での旋回	○	○	◎ 旋回時に減 速しないの で、湿田で の旋回力大
移動走行	◎	○	× (使用不可) ※1
車庫入れ	◎	○	× (使用不可)

※1 副変速：走行では湿田モードは使用できません。
(標準モードとして作動します。)

2.1.5 サイドコラム部 (レバー類)

サイドコラム部周辺のレバー類について説明します。

副変速レバー

警告

- 坂道では、副変速を操作しないでください。

※ 作業機が不意に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

使用目的や条件により、「畦越」「作業」の2段階の走行速度が選べます。

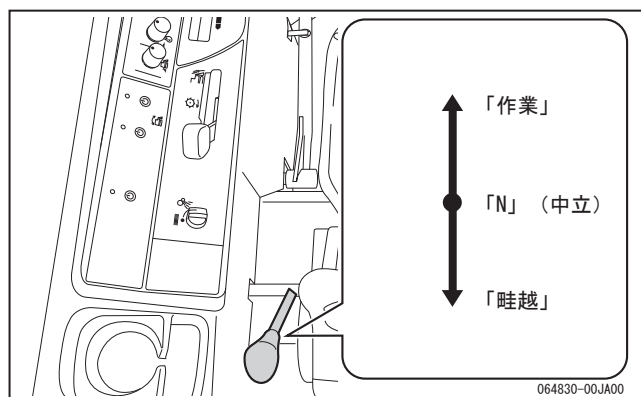


図 2-37 副変速レバー

「畦越」位置………… あぜ越えや、トラックへの積み・降ろしするとき。

「作業」位置………… 刈取作業や移動走行するとき。

「N」(中立) 位置… 走行しないとき。

《重要》

- ・ オールマイティシフトレバーを、必ず「N」(中立) 位置にして、作業機を完全に停止してから変速してください。
- ・ 副変速レバーを「畦越」位置にして、刈取作業をしないでください。搬送姿勢が乱れて、詰まりが発生する可能性があります。

《 参考 》

- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 副変速レバーが「作業」位置のときは、ノークラッチ副変速ボタンにより、「作業 (L)」 「走行 (H)」が選択できます。(47 ページ)

作業クラッチレバー

刈取部およびペーラ部を動かしたり、止めるときに使用します。

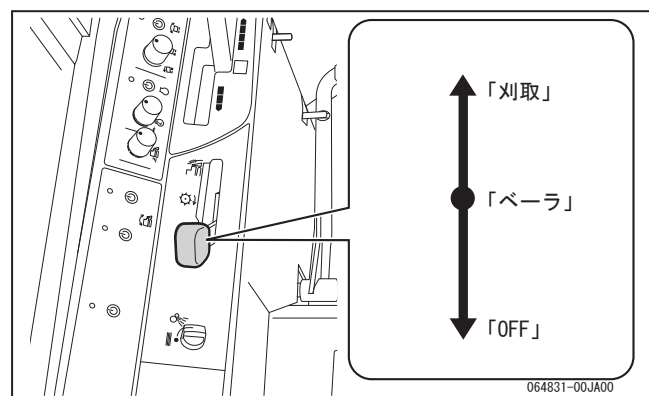


図 2-38 作業クラッチレバー

- 「OFF」 …… ペーラ部も刈取部も停止します。
- 「ペーラ」 …… ペーラ部は作動しますが、刈取部は停止します。
- 「刈取」 …… ペーラ部も刈取部も作動します。

2.1.6 オールマイティシフトレバー部

オールマイティシフトレバー部のレバーやスイッチ、ボタンについて説明します。

オールマイティシフトレバー

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。後進時は、バックランプが点灯します。

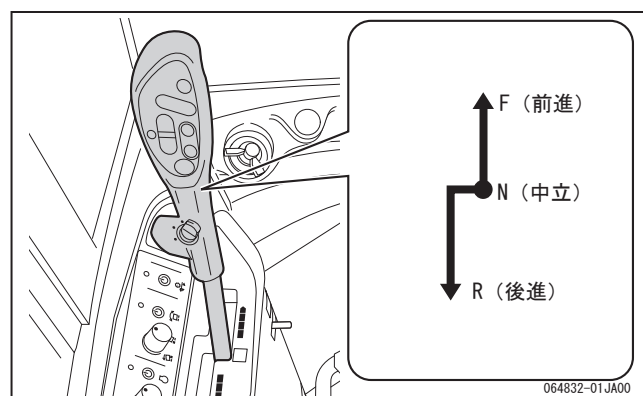


図 2-39 オールマイティシフトレバー

- 「前進」側…………… 作業機が前進します。
- 「後進」側…………… 作業機が後進します。
- 「N」(中立) 位置…… 作業機が停止します。

走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

《 参考 》

セフティペダルを踏み込んでいるときは、オールマイティシフトレバーは「N」(中立) 位置に戻り、オールマイティシフトレバーの操作はできません。

フィードチェン作動ボタン

こぎ口の入口にわらなどが堆積しそうな場合、強制的にフィードチェンを動かすときに使用します。ボタンを押している間は、フィードチェンが動きます。(最長 5 秒間)

使用時は周りの安全を確認してから使用してください。

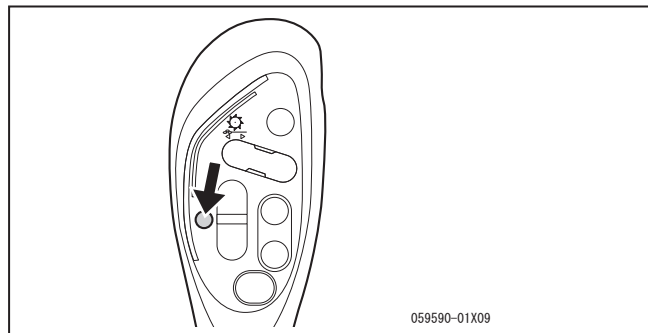


図 2-40 フィードチェン作動ボタン

ノークラッチ刈取変速ボタン

刈取変速を変速するときに使用します。刈取駆動中でもノークラッチで変速ができます。

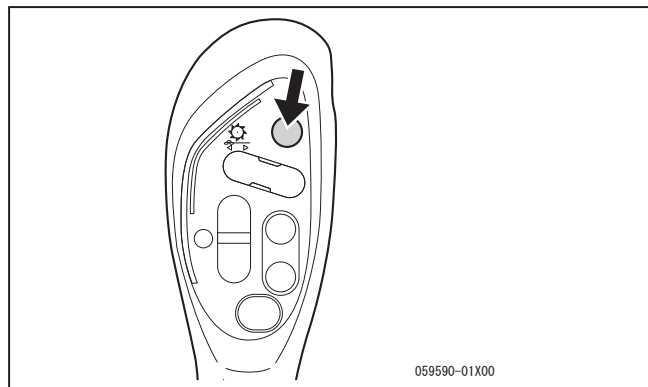


図 2-41 ノークラッチ刈取変速ボタン

ボタンを押す……………刈取搬送速度が高速 (H) になります。

ボタンをもう一度押す…刈取搬送速度が標準 (L) になります。

キースイッチをいったん「切」にして「入」にすると、刈取変速は「標準 (L)」になります。

《 参考 》

通常刈取作業は刈取変速標準 (L) で行ってください。倒伏のほ場などでは刈取変速を「標準」状態から「高速」(H) に切り替えることにより、引き出し性能が向上します。(124 ページ)

こぎ深さ調節スイッチ

こぎ深さを調節するときに使用します。

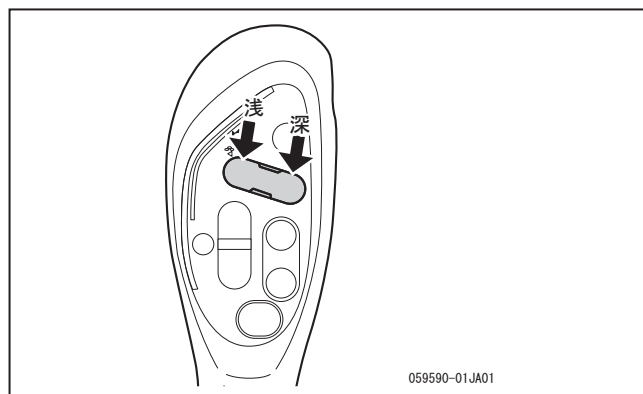


図 2-42 こぎ深さ調節スイッチ

「深」側…………こぎ深さが深くなります。

「浅」側…………こぎ深さが浅くなります。

刈取昇降スイッチ

刈取部の上昇・下降をするときに使用します。

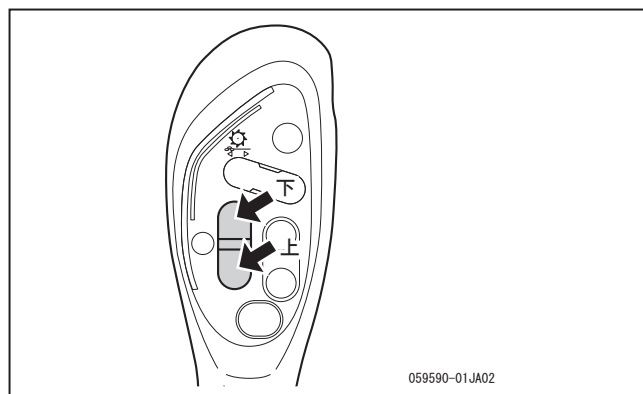


図 2-43 刈取昇降スイッチ

「下」側…………軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く下降します。

「上」側…………軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く上昇します。

《 重要 》

オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチと、マルチハンドル部のステアリング右スイッチを同時に同方向の操作をしたときは、速い速度が優先されます。

異方向の操作では、速度に関係なく上昇側の操作が優先され、表 2-7 のようにはたります。

表 2-7 刈取部の動作

刈取昇降スイッチ (速く動く)	ステアリング右 スイッチ (ゆっくり動く)	刈取部の動作
上昇側	上昇側	速く上昇する
上昇側	下降側	速く上昇する
下降側	上昇側	ゆっくり上昇する
下降側	下降側	速く下降する

刈取オートリフトボタン・刈取オートセットボタン

刈取部を、設定している高さに上昇または下降させるときに使用します。

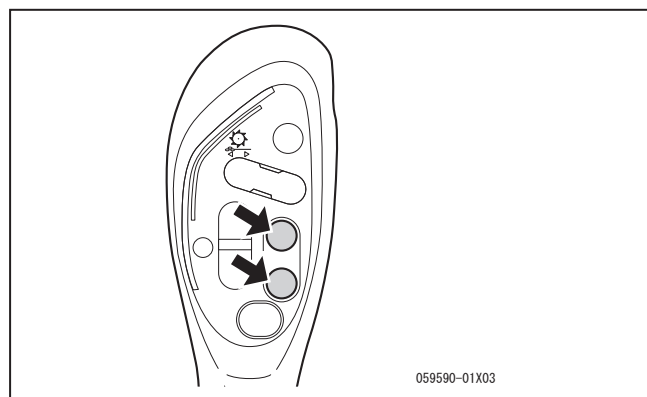


図 2-44 刈取オートリフトボタン・
刈取オートセットボタン

◆ 刈取オートリフトボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、刈取オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。(127 ページ)

刈取部が上昇すると同時に、刈取部およびフィードチェーンの駆動が止まります。(刈取オートクラッチ機構)

《 参考 》

- ・出荷時は分草板先端で、約 40 cm の高さに設定されています。
- ・刈取オートリフトボタンでの設定高さは、約 30 cm から約 75 cm までの範囲で調節できます。

◆ 刈取オートセットボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、刈取オートセットボタンを押すと、オートセット高さ設定位置まで下降します。(127 ページ)

刈取部が下降すると同時に、刈取部およびフィードチェーンが駆動されます。(刈取オートクラッチ機構)

《 参考 》

- ・出荷時は分草板先端で、約 5 cm の高さに設定されています。
- ・オートセット高さ設定できる範囲は、分草板先端で約 5 cm から約 20 cm の高さです。
- ・油温の変化などで刈取部の設定高さが多少ずれる場合があります。

ノークラッチ副変速ボタン

副変速を変速するときに使用します。ボタンを押すだけで移動時の「走行 (H)」、作業時の「作業 (L)」の切り替えができます。走行中でもノークラッチで変速ができます。

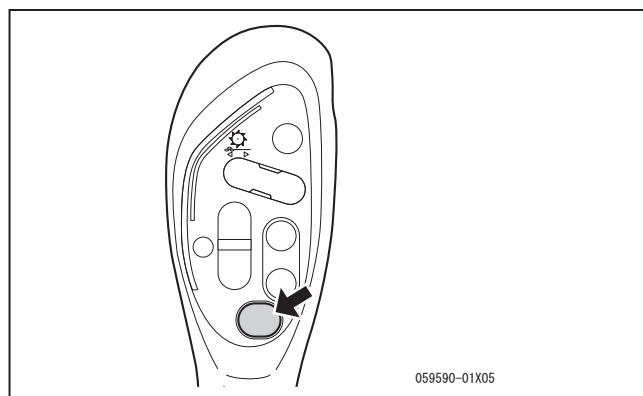


図 2-45 ノークラッチ副変速ボタン

ボタンを押す…副変速が走行 (H) になります。
ボタンをもう一度押す…副変速が作業 (L) になります。

《 参考 》

- ・ノークラッチ副変速ボタンが「走行」(H) のときは、作業クラッチレバーを「刈取」にするとブザーが鳴り、つぎのような画面表示になり、副変速が「走行」になっていることをお知らせします。



図 2-46 副変速「走行」画面

- 移動時は「走行」(H)で、刈取作業時は、「作業」(L)で行ってください。
- 副変速レバーが「畦越」位置のときは、副変速は「作業 (L)」状態に保持され、「走行 (H)」には変速できません。「走行 (H)」状態で副変速レバーを「畦越」位置に変速したときも、副変速は自動的に「作業 (L)」に切り替わります。

2.1.7 その他の操作関係

セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。

セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置に戻り、コンバインが停止し、ブレーキがかかります。

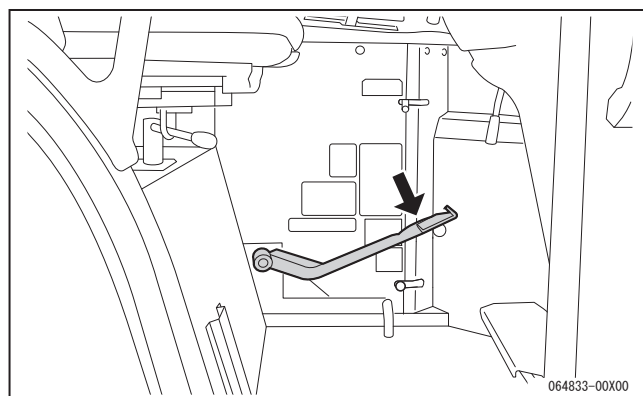


図 2-47 セフティペダル

《 参考 》

通常の走行停止は、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして行ってください。

駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。

セフティペダルをいっばいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

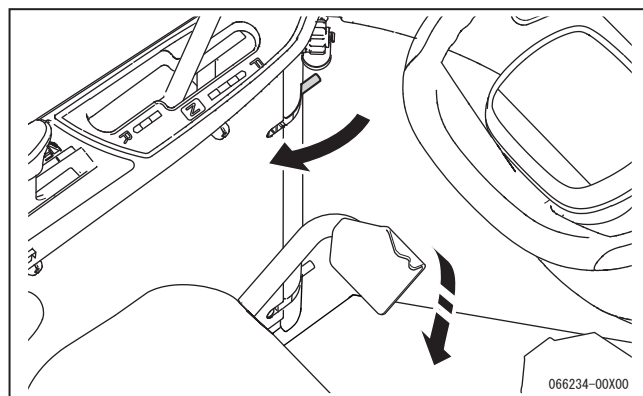


図 2-48 駐車ブレーキロックレバー

解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れて解除できます。

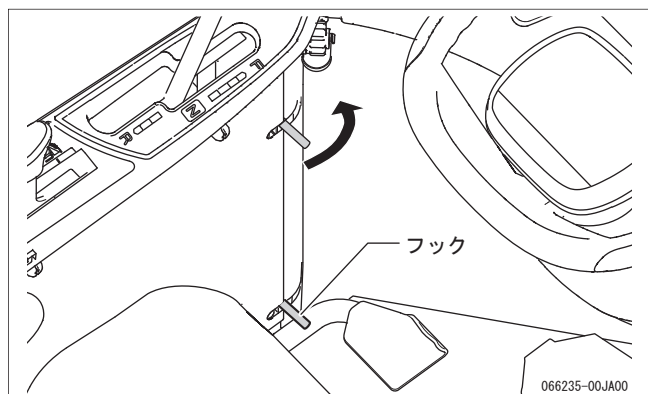


図 2-49 駐車ブレーキロックレバー（解除）

《 参考 》

セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」（中立）位置に戻ります。

引きし変速レバー

作物の状態や使用条件に合わせて、引きしチェンの搬送速度を調節するときに使用します。

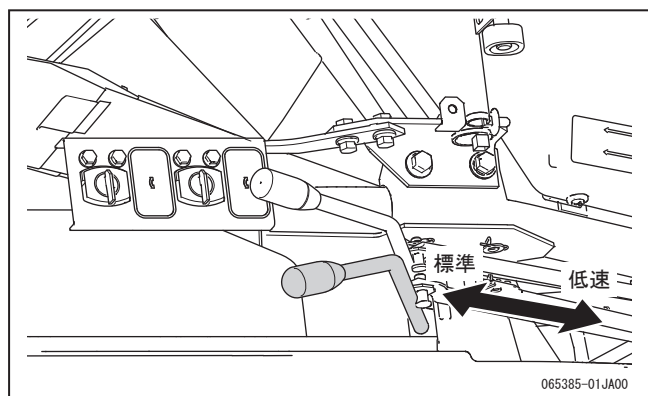


図 2-50 引きし変速レバー

引きし変速レバーを標準または低速位置にします。作物の状態に合った引きし変速の選択については、「作業速度の選びかた」（124 ページ）を参照してください。

《 重要 》

- 引きし変速レバーを操作するときは、レバーを確実に押し引きしてください。
- 引きし変速レバーを操作するときは、刈取部を低速で作動させながら操作してください。

サイドデバイダレバー

サイドデバイダを出し入れするときに使用します。

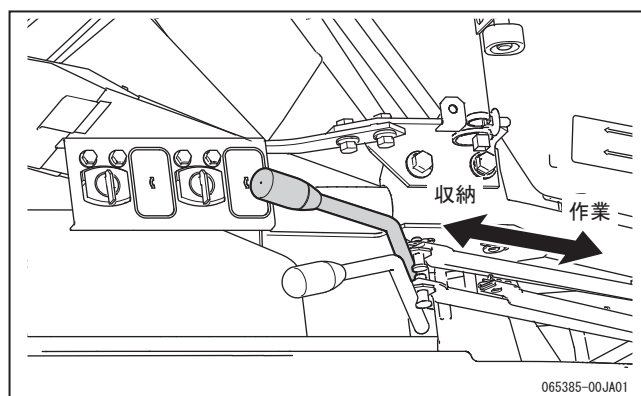


図 2-51

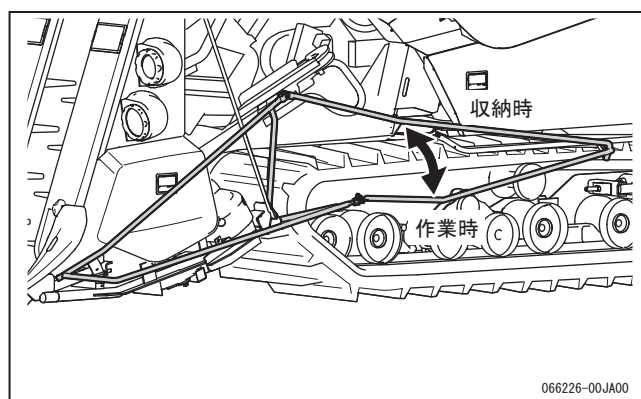


図 2-52

「作業」側…サイドデバイダが作業機外側に出ます。
「収納」側…サイドデバイダが収納されます。

刈取クイックペダル

刈取部の回転速度を、車速に関係なく、一定で回転させるときに使用します。

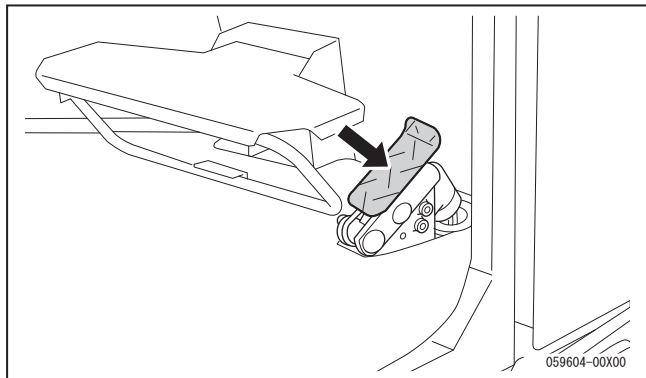


図 2-53 刈取クイックペダル

刈取クイックペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーがどの位置でも刈取部が高速（一定速）で回転し、稈をベアラ部に流し込みます。

刈取クイックペダルは、つぎの状況のときに使用してください。

- ・ 後進時に、稈こぼれが発生するとき
- ・ 前・後進を繰り返すフチ刈りのとき
- ・ 部分倒伏で引きしをスムーズにするとき

《重要》

刈取部で詰まりが発生したときには、刈取クイックペダルを使用しないでください。使用すると、詰まりを悪化させ、刈取部のタインが変形・破損するおそれがあります。刈取部で詰まりが発生したときは、エンジンを停止して、詰まりを取り除いてください。

《参考》

刈取変速が「標準 (L)」で車速 1.1m/s 以上、または刈取変速が「高速 (H)」で車速 0.7m/s 以上のときは、刈取クイックペダルを踏み込んでも、刈取部の回転速度、および搬送速度は変化しません。

エンジン緊急停止スイッチ

定置ベアラなどを行っているときに、緊急事態が発生した場合のエンジン停止に使用します。



図 2-54 エンジン緊急停止スイッチ

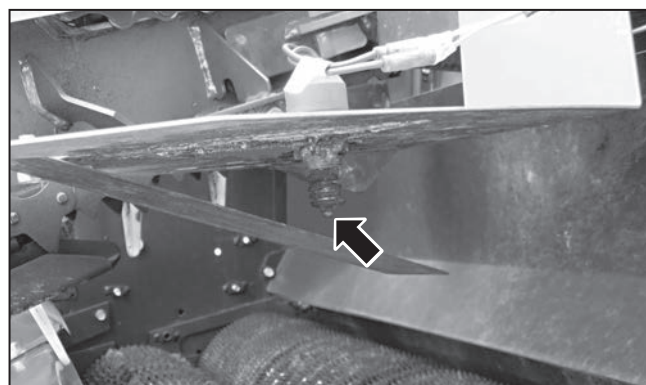


図 2-55 エンジン緊急停止スイッチ

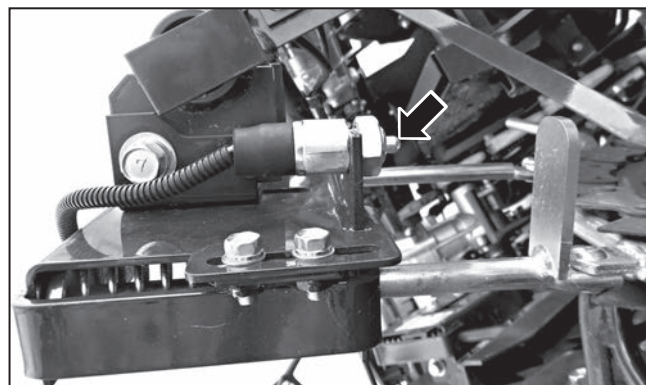


図 2-56 エンジン緊急停止スイッチ

わら押え台カバーにあるエンジン緊急停止スイッチを押すと、「停止」位置になり、エンジンが停止し、液晶モニターにエンジン緊急停止スイッチ警報画面が表示されます。また、画面上部の警報表示ランプが点灯します。

エンジン緊急停止スイッチを押しながら「運転」位置へ回します。その後キースwitchを「切」位置にすると、表示がリセットされます。

エンジン緊急停止スイッチは「運転」位置のとき、浮き上がります。

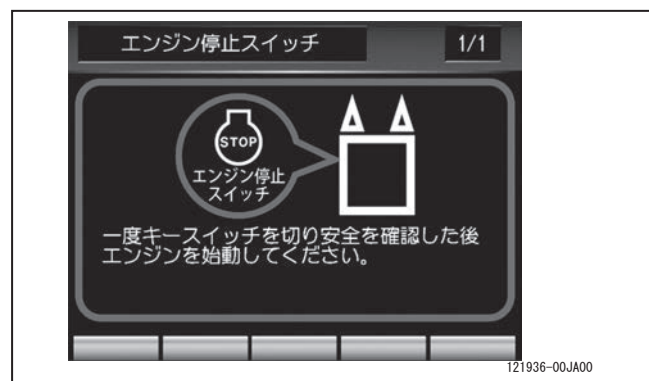


図 2-57 エンジン緊急停止スイッチ警報画面

《 参考 》

エンジン緊急停止スイッチでエンジンを停止したときは、スイッチを押しながら「運転」位置へ回してください。その後キースwitchを「切」位置にしてください。エンジンスイッチが「停止」位置では、エンジンは始動しません。またキースwitchをいったん「切」位置にしないと、キースwitchを「始動」位置にしても、エンジンは始動しません。

2.1.8 その他

集中注油スイッチ

集中注油するときに使用します。

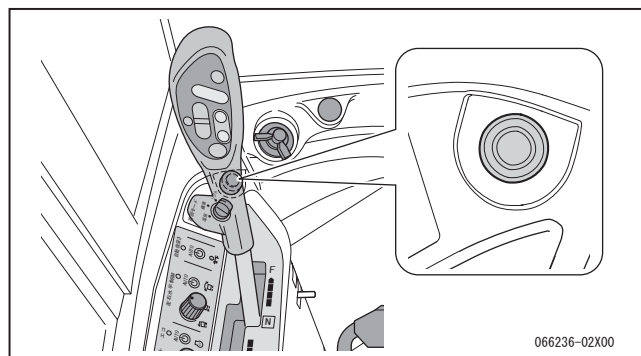


図 2-58 集中注油スイッチ

集中注油スイッチを押している間だけモータが作動して、刈刃や搬送チェーン類に注油できますので、簡単に注油作業が行えます。(集中注油を行うときは、刈取部を駆動させてください。)

◆ 注油箇所

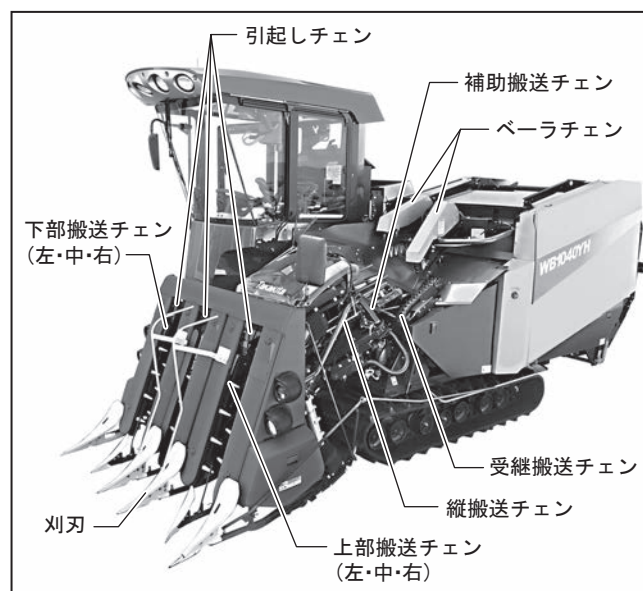


図 2-59 注油箇所

《 重要 》

注油コックを「閉」位置のままで、集中注油スイッチを押し続けしないでください。注油モータの故障の原因になります。

注油切替コック

集中注油装置の注油箇所を、切り替えるときに使用します。

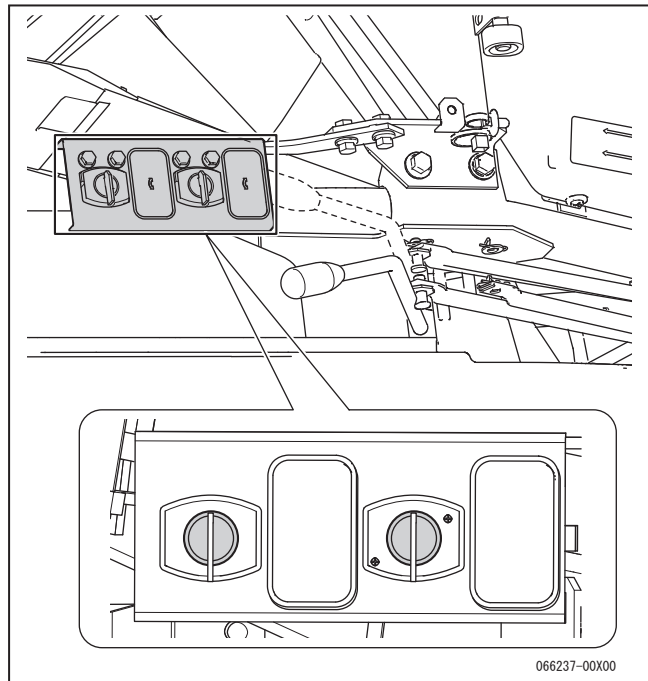


図 2-60 注油切替コック

「開」……オイルが流れます。
「閉」……オイルが流れません。

注油箇所は、「ベアラチェーン」「刈刃」「搬送チェーン」「引起し」の各箇所に切り替えることができます。

「ベアラチェーン」…受継ぎ搬送チェーン
「刈刃」……………刈刃
「刈取搬送」……………上部搬送チェーン・下部搬送チェーン・
縦搬送チェーン・補助搬送チェーン
「引起し」……………引起しチェーン

《重要》

- ・注油スイッチは押し続けないようにしてください。(158 ページ)
- ・使用しない場合は、2カ所のコックを「閉」位置にしてください。

ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、ドライバーシートの位置を調節できます。(81 ページ)

◆ シートの前後調節

前後調節レバーを矢印方向に引き上げ、ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節できます。

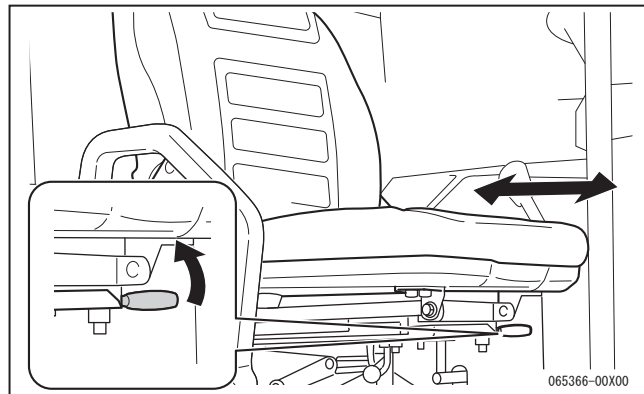


図 2-61 前後調節レバー

◆ シートの上下調節

上下調節レバーを矢印方向に引き上げ、シートの高さを調節できます。

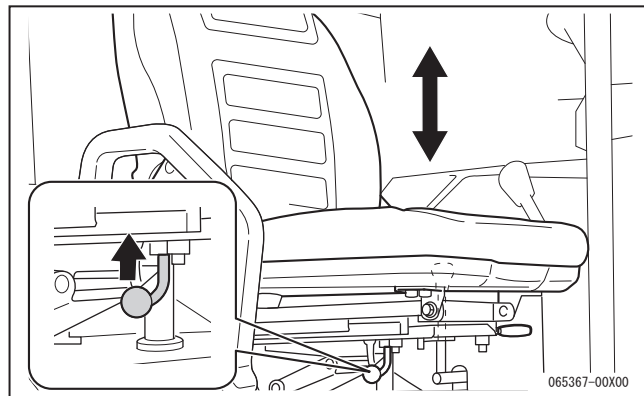


図 2-62 上下調節レバー

◆ シートのチルト調節

⚠ 注意

- チルトアームは、いっぱいまで起こしてください。

※途中の位置でも止まりますが、シートが突然水平状態に戻り、けがをするおそれがあります。

ドライバーシートを前方に倒して、シートスライドの中にある、チルトアームでシート角度を調節します。シート角度は、チルトアームで水平状態・前傾状態の2段階に調節できます。

シート水平状態(出荷状態)

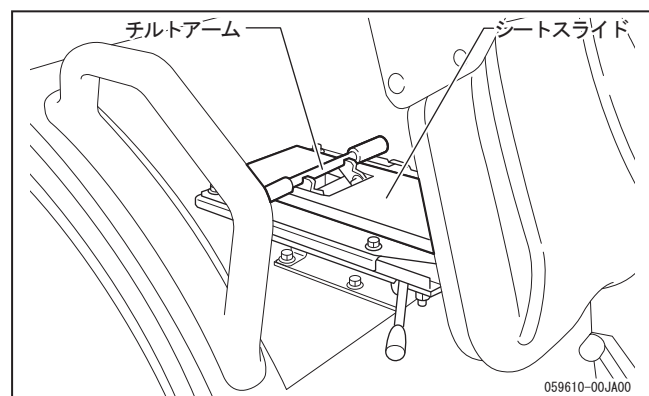


図 2-63 シート水平状態

シート前傾状態

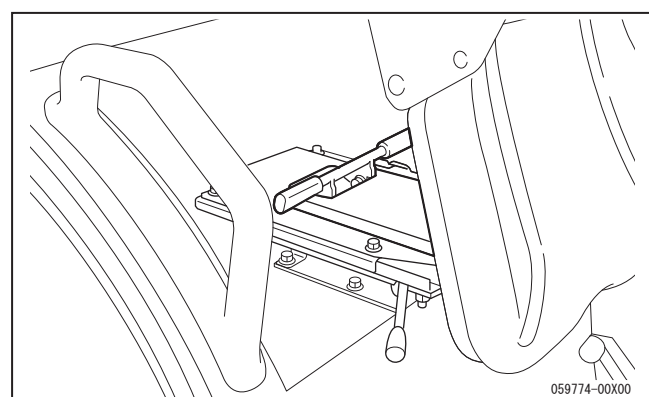


図 2-64 シート前傾状態

◆ シートのリクライニング調節

リクライニング調節レバーを回し、背もたれの傾きを調整することができます。

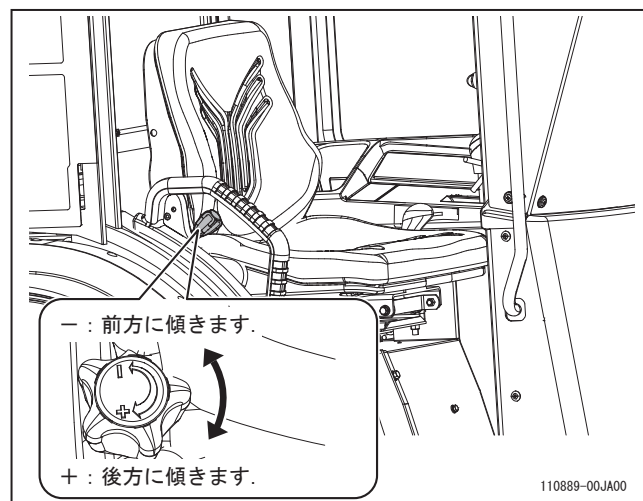


図 2-65 シートのリクライニング調節

乗降ステップ

乗降ステップは、引き上げると収納できます。

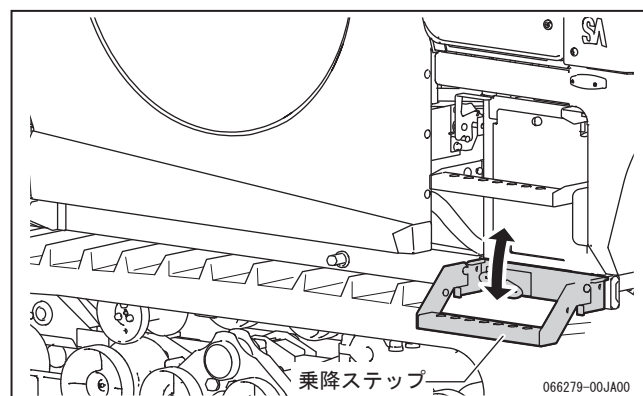


図 2-66 乗降ステップ

《重要》

移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。

《参考》

- ・乗降ステップの出し入れをするときは、乗降ステップ自体を手で持って行ってください。
- ・乗降ステップは、下段のみ出し入れできます。上段は固定されています。

エンジンルームロックレバー

エンジンルームの開閉に使用します。
エンジンルームを開くときは、エンジンルームロックレバーを「開」（解除）方向に引きます。

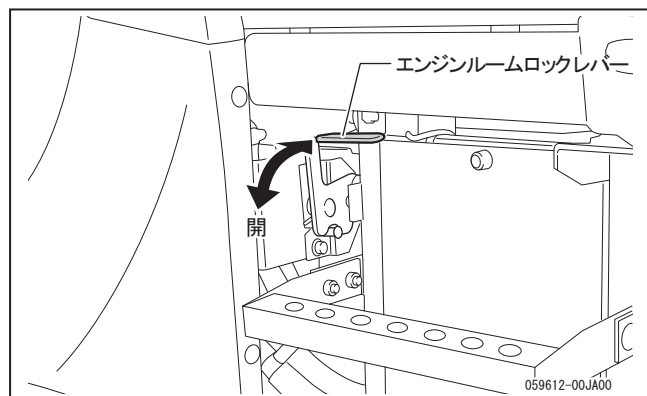


図 2-67 エンジンルームロックレバー

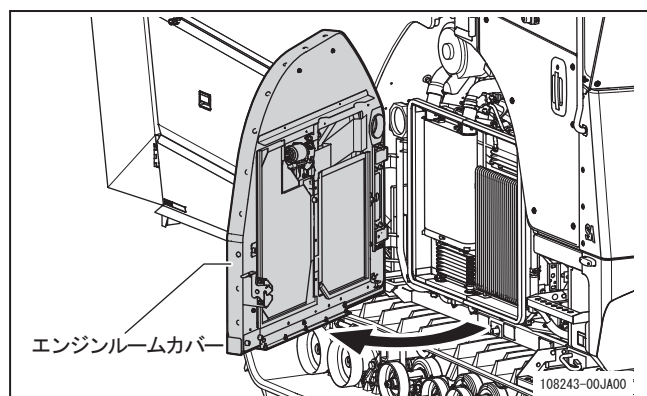


図 2-68 エンジンルームカバー

《重要》

- エンジンルームを閉めたときは、確実にロックされていることを必ず確認してください。(140 ページ)
- トラックに積み込んで移動するときは、ロックを確実にかけてください。(140 ページ)

刈取部ストッパ

刈取部の下降を、機械的に固定するときに使用します。
刈取部の下で点検・整備をするときには、刈取部ストッパを「固定」位置に固定します。(153 ページ)

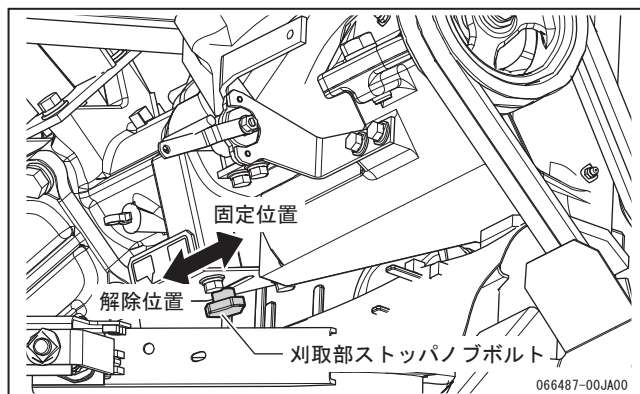


図 2-69 刈取部ストッパ

フットレスト

フットレストは折りたたみ式です。ドライバーシートを上げて、前傾姿勢をとったときなど、必要に応じて使用します。

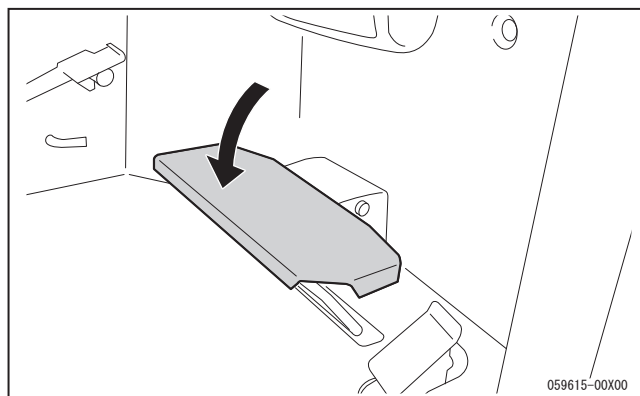


図 2-70 フットレスト

アミポケット（取扱説明書収納用）

取扱説明書を収納するアミポケットが、ドライバーシートの後側にあります。

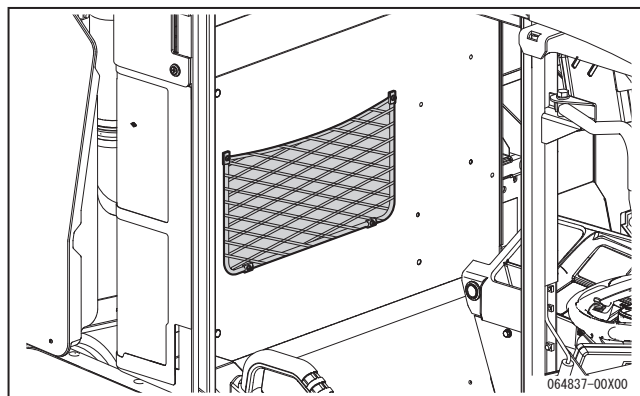


図 2-71 アミポケット

2.1.9 キャビン関係

⚠ 注意

- ドアを閉めるときは、手をはさまないように注意してください。
- ドアを閉めたときは、確実にロックされているか必ず確認してください。

ドアハンドル（車外）

車外からドアを開閉するときに使用します。

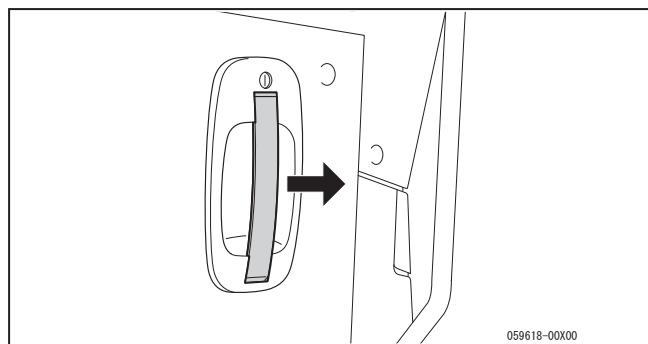


図 2-72 ドアハンドル（車外）

◆ 開けかた

ドアハンドルを引くとロックが解除し、ドアが開きます。

◆ 閉めかた

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

◆ 施錠のしかた

キーを差し込み、右側に 90 度回してください。ドアが施錠されます。

キーを抜いてください。

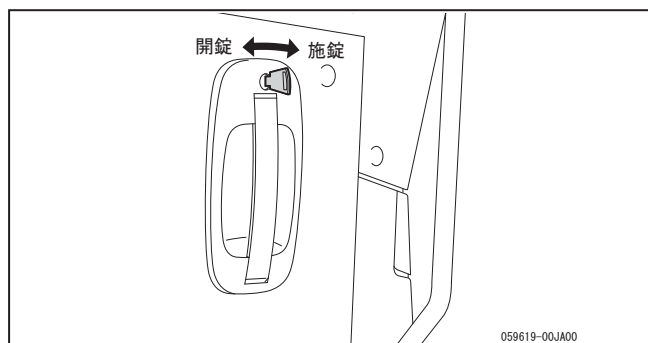


図 2-73 施錠・解錠

◆ 解錠のしかた

キーを差し込み、左側に 90 度回してください。ドアが解錠されます。キーを抜いてください。

《 参考 》

キーの詳細については、31 ページを参照してください。

ドア開閉レバー（車内）

車内からドアを開けるときに使用します。

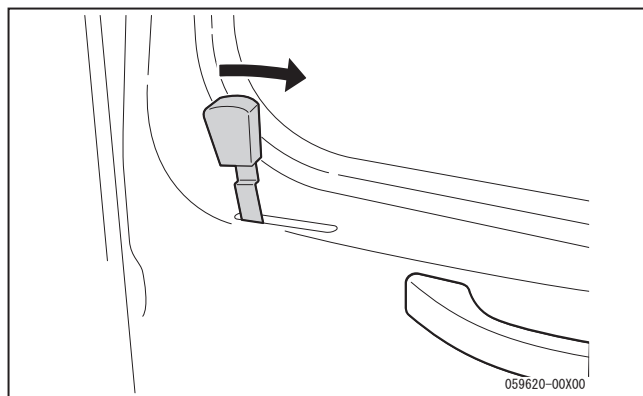


図 2-74 ドア開閉レバー（車内）

◆ 開けかた

ドア開閉レバーを矢印の方向に引いてください。ドアが開きます。

◆ 閉めかた

取っ手を持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

《 参考 》

ドアを閉めたときは、確実にロックされているか必ず確認してください。

ドアウインドウ開閉レバー

ドアウインドウを開閉するときに使用します。

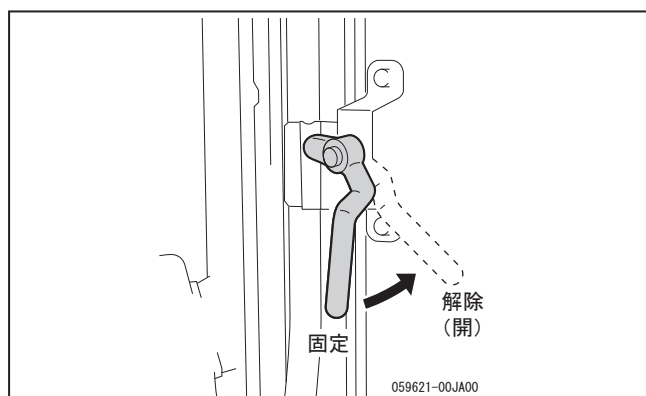


図 2-75 ドアウインドウ開閉レバー

◆ 開けかた

ドアウインドウ開閉レバーを矢印方向に回してロックを解除し、外側に押して開いてください。

◆ 閉めかた

ドアウインドウをいっぱいまで閉めて、ドアウインドウ開閉レバーで固定してください。

◆ ハーフロックのしかた

ドアウインドウを閉めている状態から、約 2cm 開けた状態で固定できます。

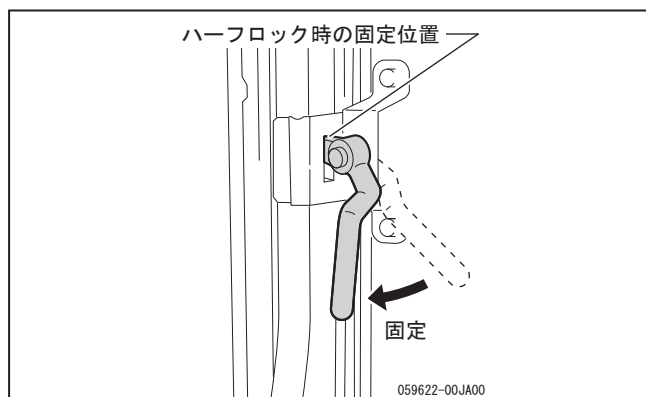


図 2-76 ハーフロック

ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

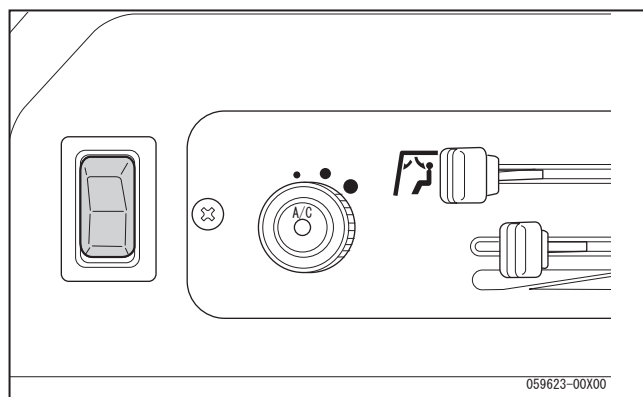


図 2-77 ワイパー&ウォッシャースイッチ

キースイッチが「入」位置のとき

- ・スイッチの上側を 1 段押すと、ワイパーが作動します。
- ・スイッチの上側を最後まで押すと、押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出します。
- ・スイッチの下側を 1 段押すと、ワイパーが停止します。
- ・スイッチの下側を最後まで押すと、押している間は、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出します。

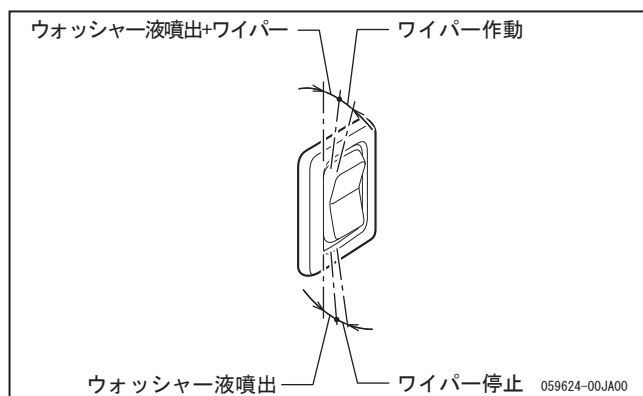


図 2-78 ウォッシャー作動位置

《 重要 》

- ・ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液でぬらしてからワイパーを作動させてください。
- ・ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。

- ・寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがあるので、エアコンの吹出口切替レバーを「フロントガラス側」位置にして、温風でフロントガラスを暖めてください。
- ・エンジン停止状態でワイパーを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ルームランプスイッチ

キースイッチが「入」位置のとき、スイッチでルームランプの点灯・消灯ができます。

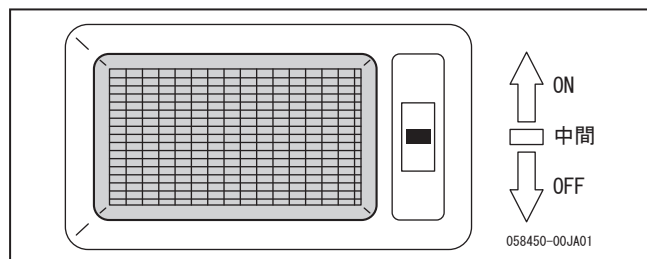


図 2-79 ルームランプスイッチ

キースイッチが「入」位置のとき

「ON」位置…… ルームランプが点灯します。

「中間」位置……ドアを開けたときにルームランプが点灯します。

「OFF」位置…… ルームランプが消灯します。

《重要》

作業機から離れるときは、必ずルームランプを「OFF」にしてください。バッテリーが放電するおそれがあります。

内気・外気切替レバー

外気をキャビン内に取り入れる、または内気を循環させるときに使用します。



図 2-80 内気・外気切替レバー

「外気」位置……外気を取り入れます。

「内気」位置……内気を循環させます。

FM・AM ラジオ

取り扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。



図 2-81 FM・AM ラジオ

◆ バックアップ電源について

バックアップ電源は、ステップ下のヒューズボックスにあるヒューズの抜き差しで切り替えます。

《 参考 》

通常は、FM・AM ラジオ用の「ラジオ常時電源」の 10A ヒューズは抜けている状態です。

この状態では、キースイッチを「切」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。これは、バッテリー放電防止のためにバックアップ電源をキースイッチ「切」位置で切ってしまうためで、故障ではありません。

◆ バックアップ電源の切り替えかた

《 重要 》

「ラジオ常時電源」のヒューズに限り、抜き差しをするときには、必ずキースイッチを「入」位置にしてください。「ラジオ常時電源」のヒューズを抜き差ししたときに、火花が飛び、他の機器を破損させるおそれがあります。

1. キースイッチを「入」位置にします。
2. ヒューズボックスの「ラジオ常時電源」の箇所に予備の 10A ヒューズを差し込みます。
3. キースイッチを「切」位置にします。

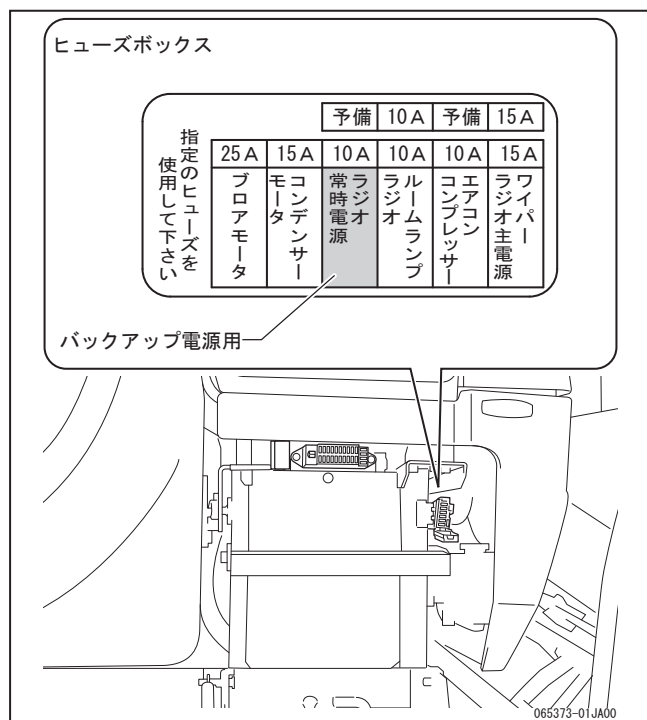


図 2-82 バックアップ電源の切り替えかた

《 重要 》

「ラジオ常時電源」の箇所に 10A ヒューズが差し込まれた状態では、長期間（1 カ月以上）使用しないと、バッテリーが放電して使用できなくなることがあります。必ず 10A ヒューズを抜いて通常の状態に戻してください。

《 参考 》

この状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「入」「切」位置に関係なく作動します。

ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。

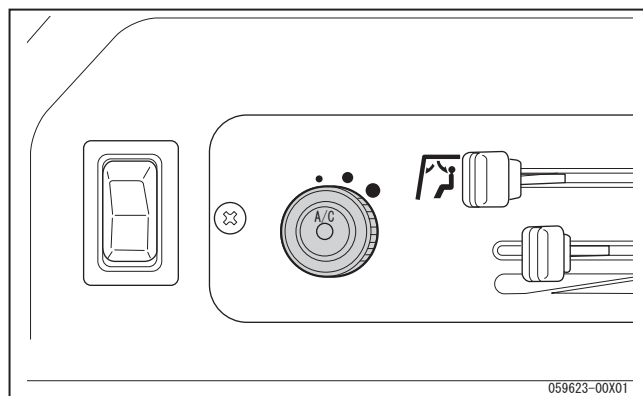


図 2-83 ファンスイッチ

風量を 3 段階に調節できます。

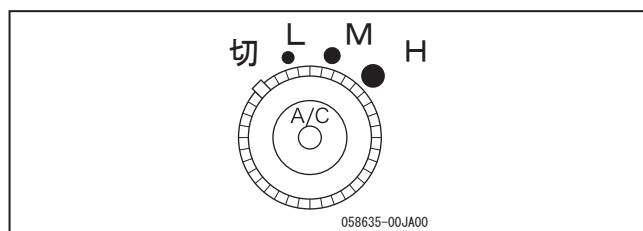


図 2-84

- 「切」位置…… ファン回転停止
(エアクンプレッサーの青ランプが点灯しているとき)
- 「L」位置…… 弱風
- 「M」位置…… 弱風と強風の間
- 「H」位置…… 強風

《 参考 》

エアクンプレッサーを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

エアコンスイッチ

エアコン電源を「ON」「OFF」するとき 사용합니다。

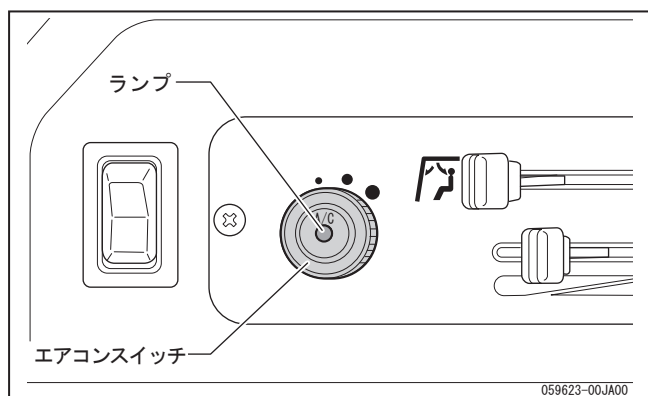


図 2-85 エアコンスイッチ

キースイッチが「入」位置のとき

1 回押す……………エアコン「ON」(ランプ点灯)
ランプ点灯時に押す…エアコン「OFF」(ランプ消灯)

《重要》

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯) にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯) の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯) にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店または、JA(農協)で点検を受けてください。

《参考》

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてもエアコンは作動しません。

温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するとき 사용합니다。

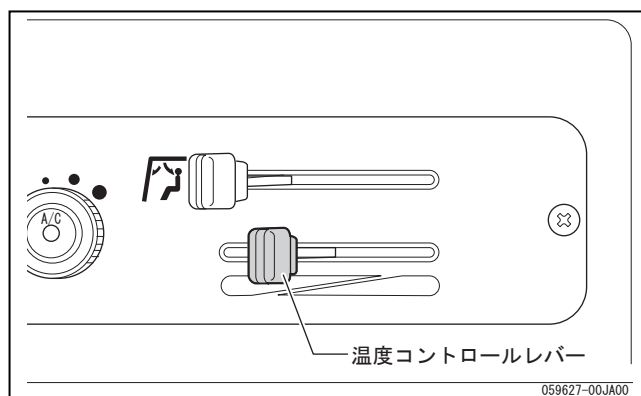


図 2-86 温度コントロールレバー

「WARM」側… 近づけるほど風の温度は高くなります。

「COOL」側… 近づけるほど風の温度は低くなります。

吹出口切替レバー

温風・冷風の吹出口を切り替えるとき 사용합니다。

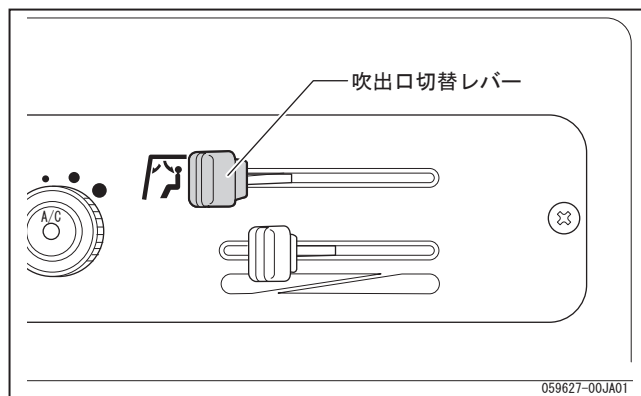


図 2-87 吹出口切替レバー

☞ (オペレータ側) ……オペレータ側(後方吹出口)とフロントガラス側(前方吹出口)から温風・冷風が吹き出します。

☞ (フロントガラス側) …フロントガラス側(前方吹出口)から温風・冷風が吹き出します。

風向グリル

風量と風向きを変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と側面左右にあります。

◆ 前方側

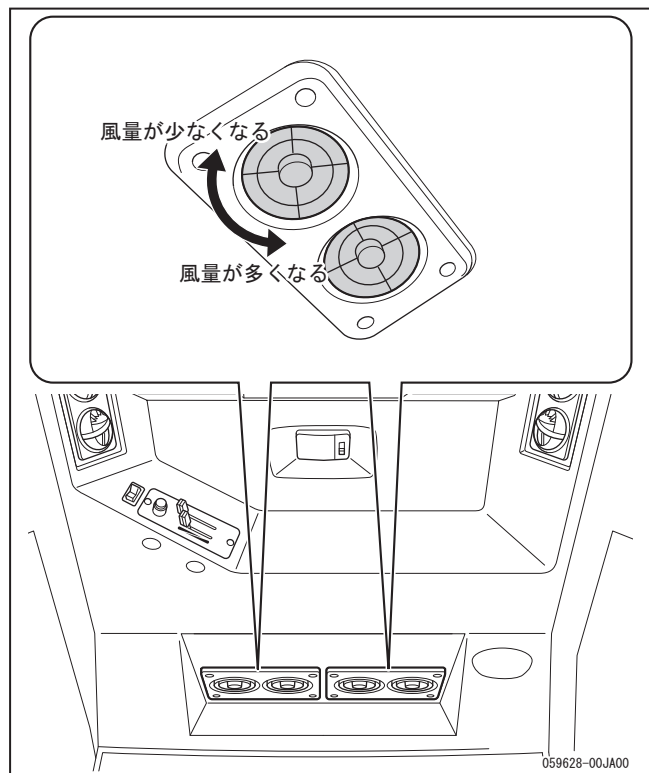


図 2-88 風向グリル

吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

◆ 側面左右側

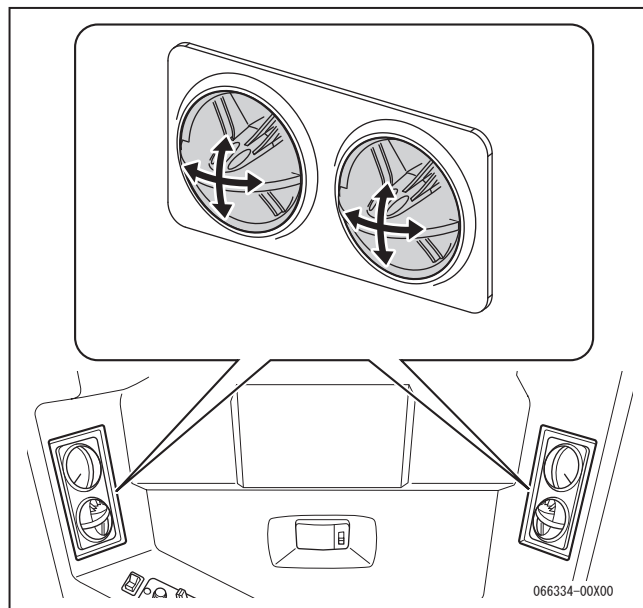


図 2-89 風向グリル

吹出口の風向グリルをお好みの向きにして使用します。風量調節はできません。

サイドウィンドウ開閉つまみ

サイドウィンドウを開閉するときに使用します。

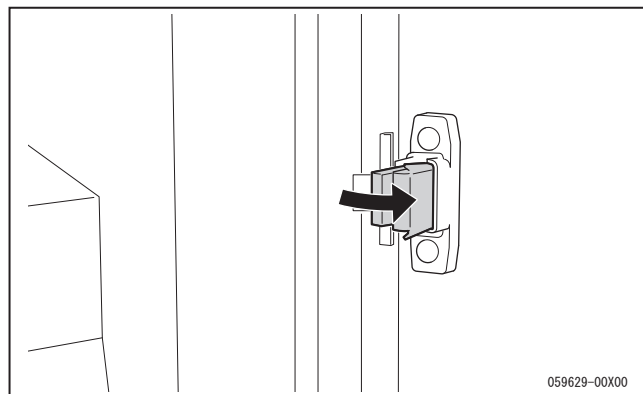


図 2-90 サイドウィンドウ開閉つまみ

◆ 開けかた

サイドウィンドウのサイドウィンドウ開閉つまみを、つまんで横に引きます。

◆ 閉めかた

サイドウィンドウをいっぱいまで閉めると、自動的にロックされます。

リアウインドウ開閉レバー

リアウインドウを開閉するときに使用します。

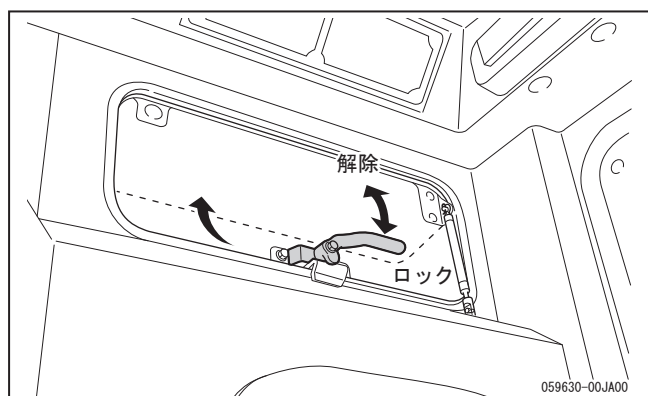


図 2-91 リアウインドウ開閉レバー

◆ 開けかた

リアウインドウ開閉レバーを回してロックを外し、そのまま外側に押します。リアウインドウが自動的に開きます。

◆ 閉めかた

リアウインドウ開閉レバーを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックします。

バック・ベール排出モニター

取り扱い方法については、付属の取扱説明書をお読みください。



図 2-92 バックモニターカメラ

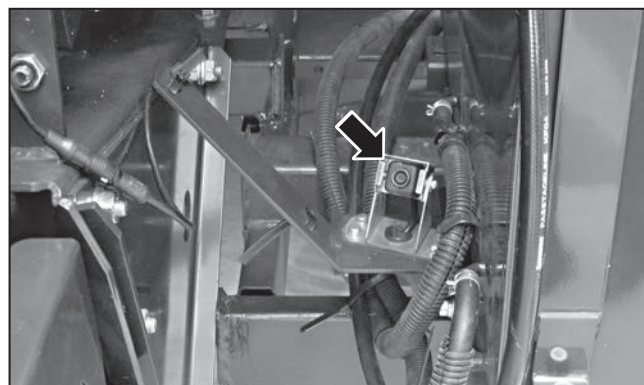


図 2-93 ベール排出カメラ

◆ 液晶モニターの場合

カメラ切替スイッチによりベール排出モニターの画像とバックモニターの画像を表示できます。

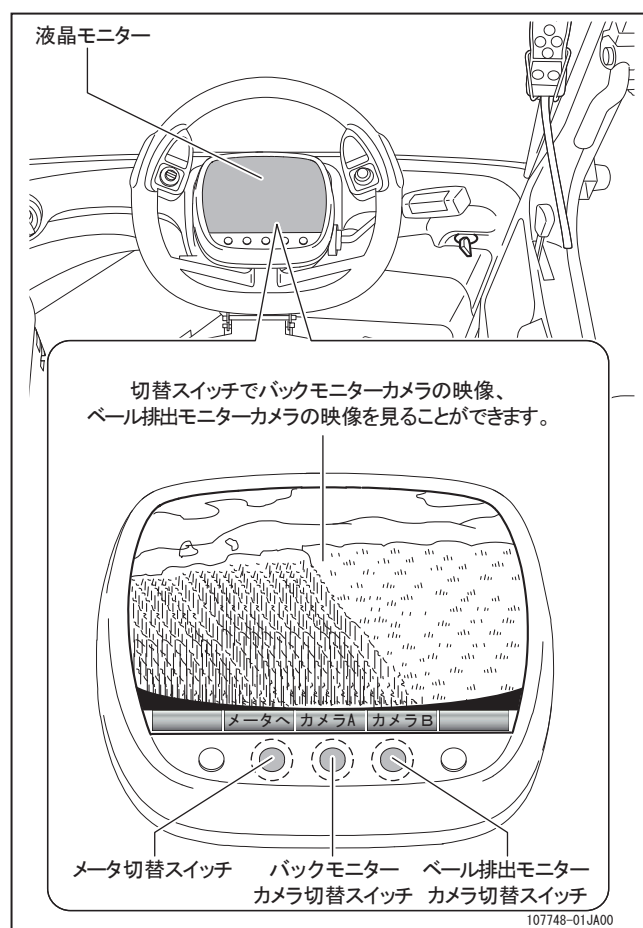


図 2-94 液晶モニター

アクセサリースOCKET

12V84W (7A) の電源を取り出すことができます。
キースイッチが「入」位置のときに使用できます。

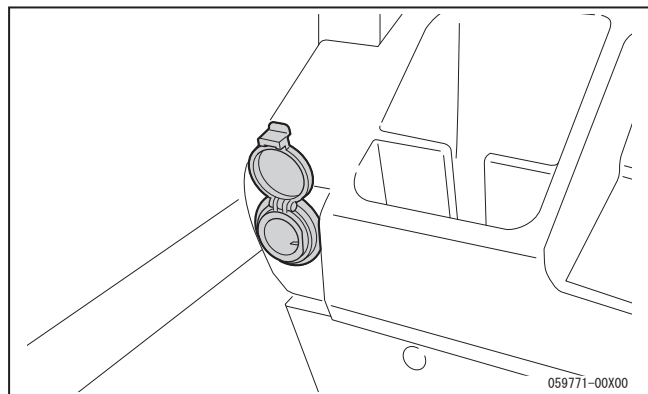


図 2-95 アクセサリースOCKET

※ アクセサリースOCKETを使用しないときは、必ず
カバーをしてください。

2.2 運転に必要な装置の取扱い

2.2.1 チャンバ開閉装置の取扱い

ボタン操作で開閉を行います。

チャンバの開閉操作のしかた

エンジンを始動させ、開閉トグルスイッチを押すとチャンバが開閉します。

(エンジンがかかっていないと油圧は作動しない為、チャンバは開閉しません。)

チャンバを開くと電子ブザーが断続して鳴ります。チャンバを閉じロックがかかるとブザーが止まります。ブザーが止まるまでスイッチを押し続けてください。ブザーが止まりロックがかかってから作業してください。

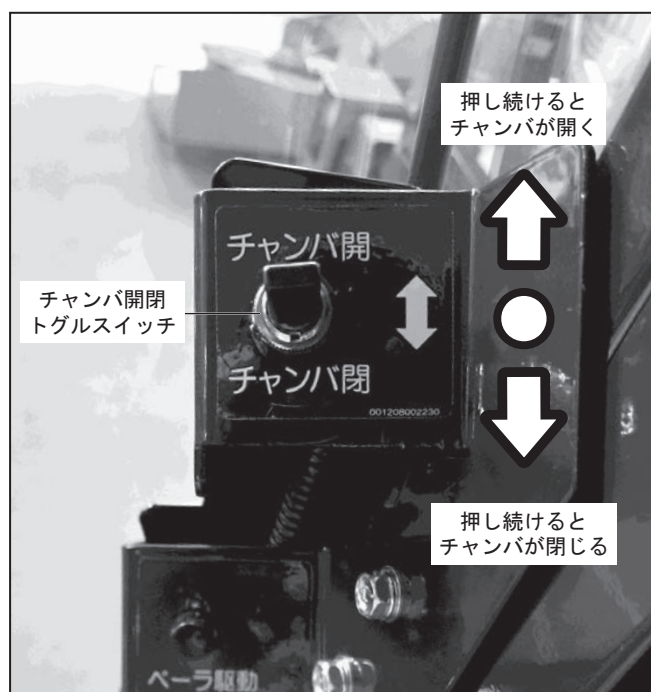


図 2-96

チャンバを開けたままで点検、整備するときは

⚠ 注意

- チャンバを開けた状態での油圧装置の点検整備は、必ずシリンダーストップをセットしてから行ってください。

※ これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- この作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

※ これを怠ると傷害を発生するおそれがあります。

点検・整備等でチャンバを開けたままで作業するときは、シリンダーストップを、①、②共にセットしてください。

《 重要 》

チャンバを開いた状態で移動しないでください。

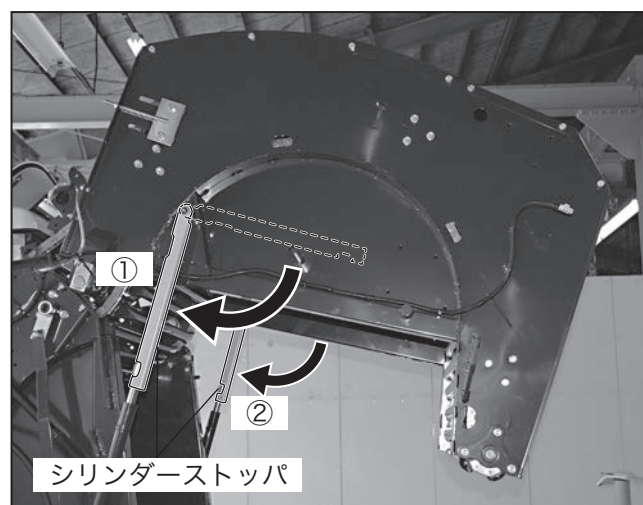


図 2-97

2.2.2 安全装置の取扱い

シャーボルトの交換

この機械には下表のように 3 ヶ所にシャーボルトがあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し、指定のボルトを入れてください。これ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。スピナー部のシャーボルトが折損すると、コントロールボックスに警告が表示されます。

表 2-8 シャーボルト

部分名	場所	ボルトサイズ
タイトバー部	右カバー内	M8×35 – 8T 全ネジ
引き込み搬送チェーン部	左前カバー内	M6×25 – 8T 全ネジ
スピナー部	右前カバー内	M6×30 – 8T 全ネジ

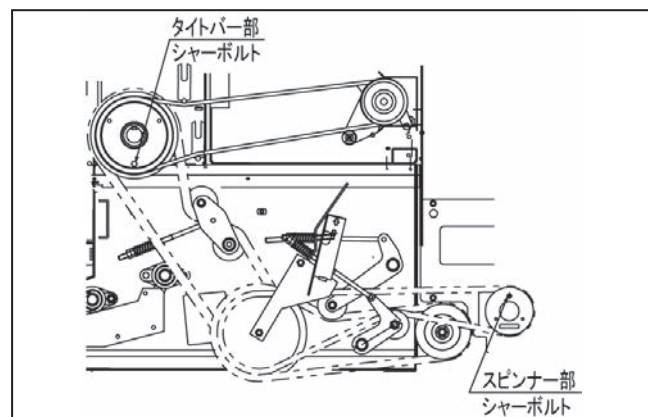


図 2-98

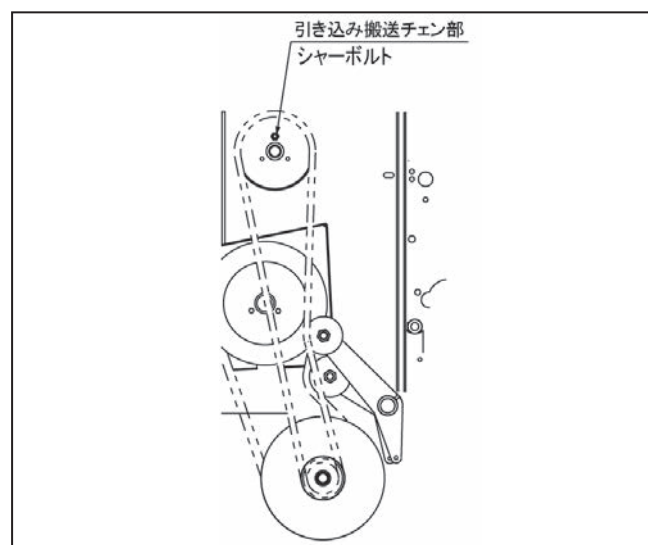


図 2-99

シャーボルトの部品コードは 267 ページに記載

2.2.3 満了感知装置の取扱い

満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。

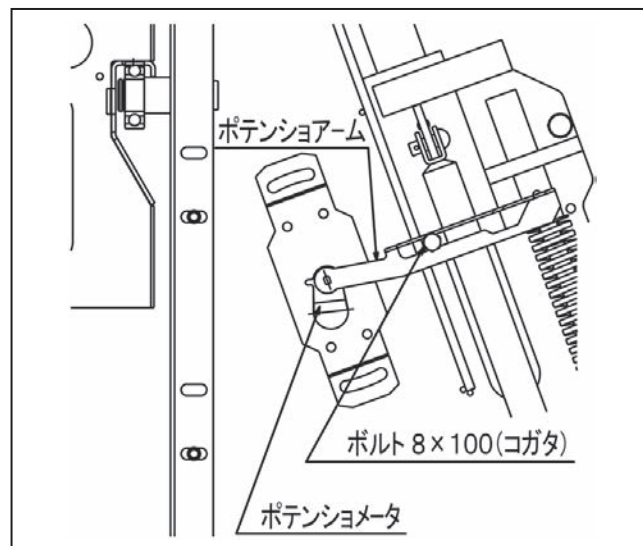


図 2-100

満了感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置です。梱包圧力が高くなると図中のボルト 8×100(コガタ)が下がってきます。圧力感知と同時にブザーが鳴り、パトランプが点灯し、ネットが自動繰出しされます。感知するまでにボルトが移動する距離はコントロールボックスの作業画面に 0/20(現在の移動距離 / 設定した感知までの距離)のように表示されます。コントロールボックスの設定モードから感知距離を変えることで感知のタイミングを調整できます。(コントロールボックスの操作については、コントロールボックスの取扱いを参照してください。(69 ページ))

2.2.4 ネット装置の取扱い

使用できるネットについて

ネットの種類によりトラブルがでることがありますので、必ず指定ネットを使用してください。
タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。
ネット（別売品）は当社で準備しております。

◆ ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。

下記のネットしか使用できません。

- ・ 103cm 幅ネット（タカキタ指定のみ）
- ・ 123cm 幅ネット（タカキタ指定のみ）

表 2-9 ネット寸法

ネットの幅	長さ	部品コード
103cm	2000m	33101-9912-002
123cm	2000m	33101-9911-002

ネット装置の引き出し方法

1. 本体右側のカバーを開けてください。

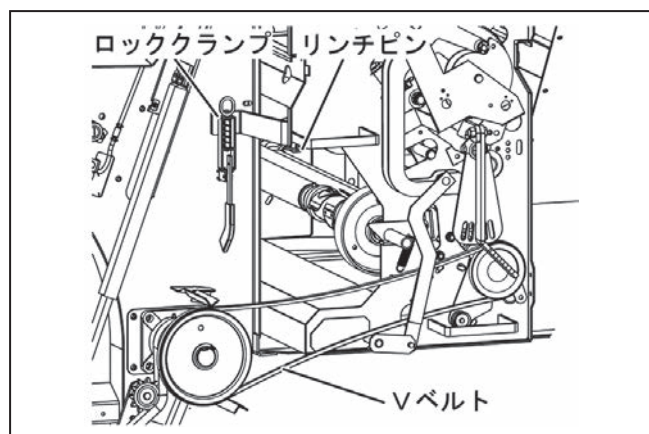


図 2-101

2. 後側のプーリーから V ベルトをはずしてください。

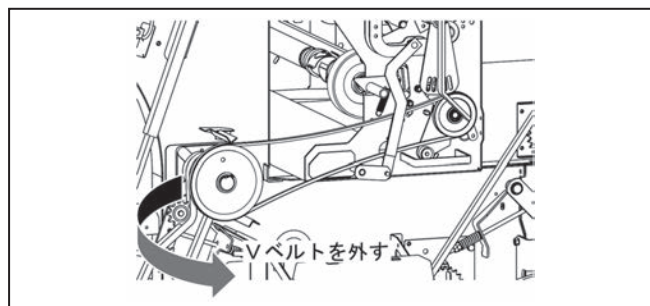


図 2-102

3. ロックをはずしてください。



図 2-103

4. ネット装置を手前に引き出してください。

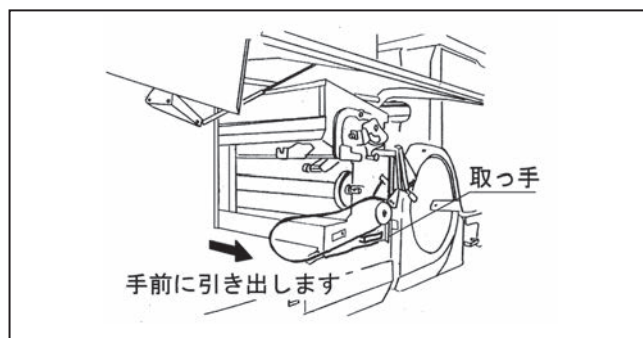


図 2-104

5. ネット装置を戻す場合は、逆の手順で戻してください。

- ・ ネット装置を本体左側に引出す場合は、リンチピンを外し、本体左側のカバーを開けて 2～5 の手順で行ってください。

ベルトの取付け方

ベルトの取付け方は下図のようにベルト押さえ 2 か所の内側を通してください。

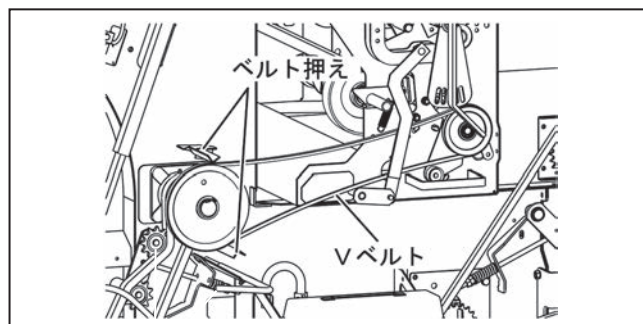


図 2-105

ネットの通し方

⚠ 注意

- ネットを通す場合は、切断用のナイフがローラの後にありますので手を切らないように特に注意してください。
- ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

使用可能なネットは 103cm 幅および 123cm 幅です。

1. 本機右側のカバーを開けてください。
2. ①リンチピンを外して、ブレーキを解除してください。
3. フックを②方向に持ち上げ、アームを③方向に引き出し、④ドラムを矢印の方向（手前）に抜き出してください。
4. アームに⑤カラー長を入れてください。（123cm 幅のネットの場合は⑭カラー短を入れてください）
5. アームに⑥ネットを巻き方向に注意し差し込んでください。
6. ドラムに⑦カラー中を奥まで入れてください。（123cm 幅ネットの場合は不要です）
7. アームにドラムを⑧右に回しながら押し込んでください。

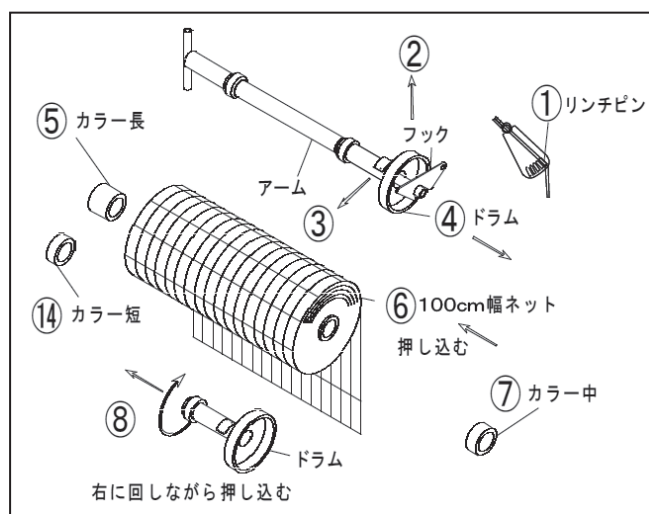


図 2-106

8. ネットを⑨ 100cm 程度引き出してください。
9. ネットブレーキレバーを⑩解除方向へ押しながら、⑪アームを戻し、フックで固定してください。

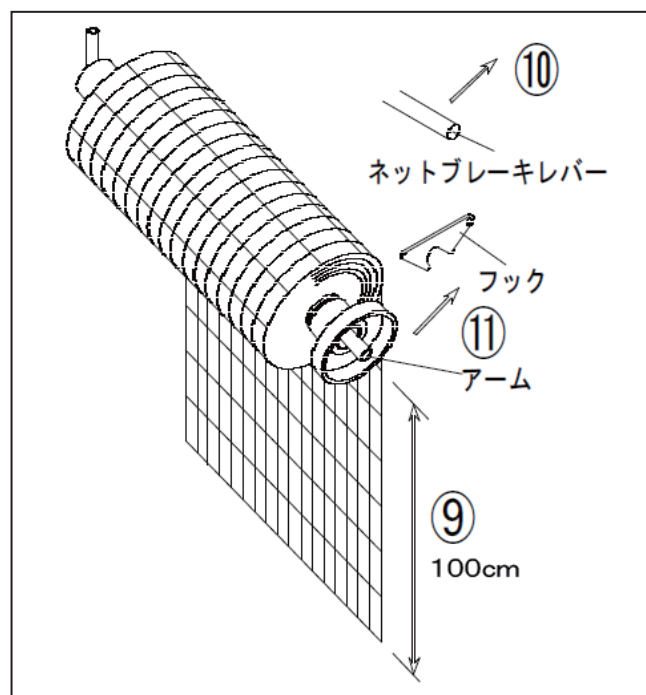


図 2-107

10. ネットを束にして下図のように通してください。
11. 繰出しローラを回してネットのたるみを無くしてください。
12. 繰出しローラから⑫ 20cm 程度ネットが出る状態になっていることを確認してください。

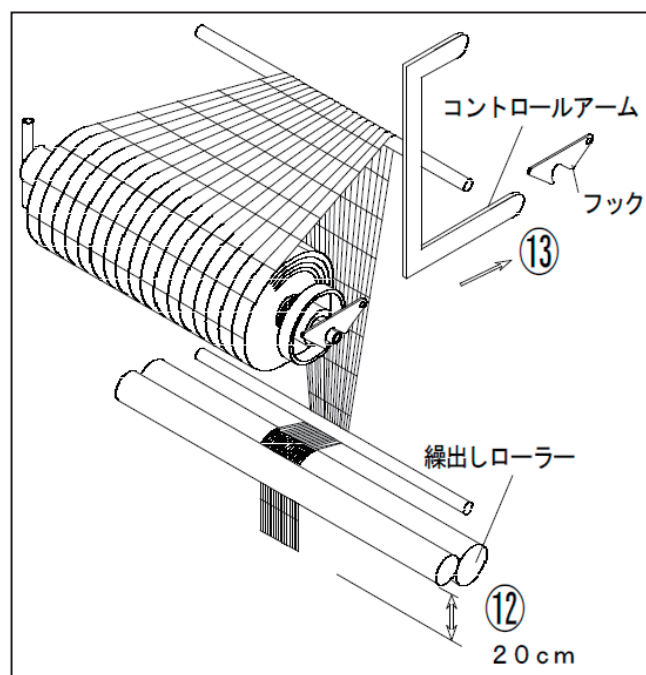


図 2-108

ブレーキの調整方法

- ①ブレーキレバーでネット張力を調整してください。
 - ・ ネットが切れる場合、低位置に設定してください。
 - ・ ネット結束が弱い場合、高位置に設定してください。

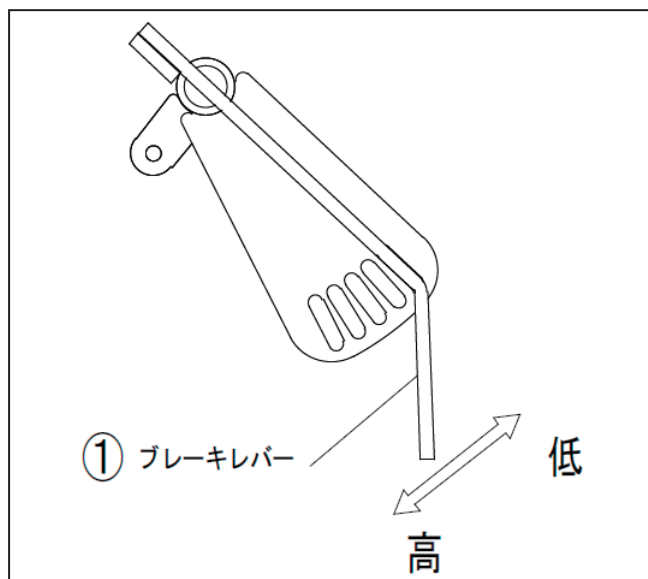


図 2-109

- ブレーキレバーで調整しきれない場合、②ブレーキカナグのバネの位置を変更してください。

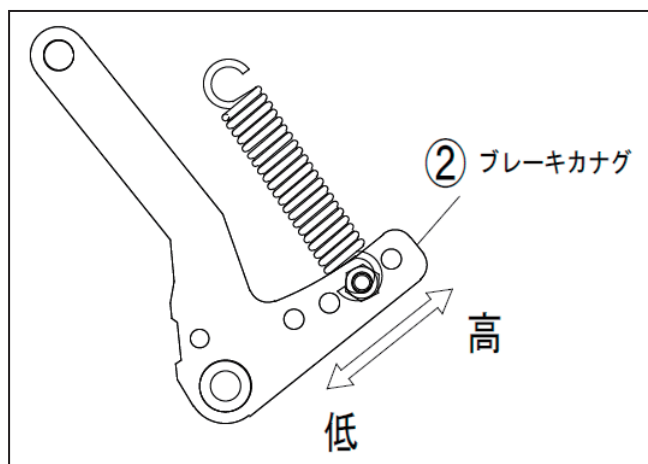


図 2-110

ネット装置の作業前点検

- ・ ブレーキドラムが錆びているときは、ブレーキレバーを低い位置で始めてください。その後、錆が落ちてからブレーキレバーを適正な位置に移動してください。
- ・ ブレーキシューの面にゴミが付着していると適正なネット結束ができなくなります。ネットを交換するときは、必ずゴミが付着していないか確認してください。また、ブレーキシューは消耗部品です。ブレーキシューが減るとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、ブレーキシューを交換してください。
- ・ ガイドカラーは消耗品です。ガイドカラーの内径が削れるとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整しきれなくなった場合、カラーを交換してください。

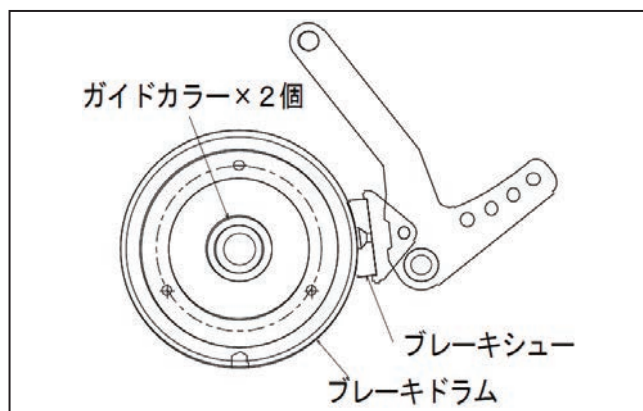


図 2-111

- ・ ゴムローラと鉄ローラにゴミが付着すると、ネット繰出し時にローラに巻き付きます。付着しているゴミはドライバーなどで削り落としてください。
※ゴムローラに傷が付き、巻き付きの原因になるので、カッターナイフは使用しないでください。
- ・ 朝露や材料の水蒸気でそのローラが濡れている場合、濡れタオルで粘り気を取った後、乾いたタオルで拭いてください。
- ・ ゴムローラスクレパー上に材料が付着するとネット繰出し時にローラに巻き付きます。材料が付着している場合、濡れタオルで材料を取った後、乾いたタオルで拭いてください。

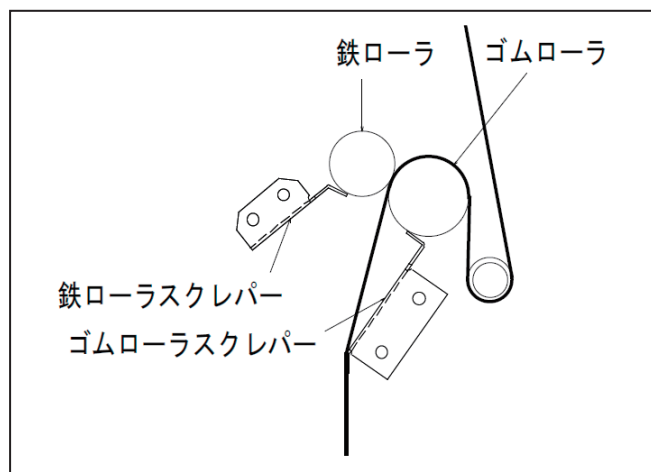


図 2-112

使用時にこれだけは守りましょう

- ◆ ナイフの刃こぼれがある場合は、交換してください。
- ◆ ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

2.2.5 タイトチェン注油装置の取扱い

警告

- 点検・清掃は必ずエンジンを停止してから行ってください。
※これを怠ると傷害が発生するおそれがあります。

注意

- 無注油状態での使用は絶対に行わないでください。
※注油タンクの油不足によりタイトチェンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェンの摩耗が多くなり寿命を低下させます。

- ◆ 作業前に必ず注油してください。

タイトチェンに十分注油してください。ロールベアラ部を回転させながらコントロールボックスの注油ボタンを押してください。(1 回押すと 10 秒程度自動注油)

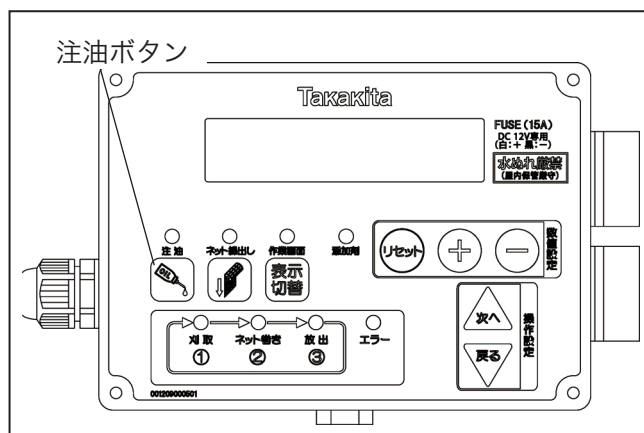


図 2-113

- ◆ 油の残量に注意してください。

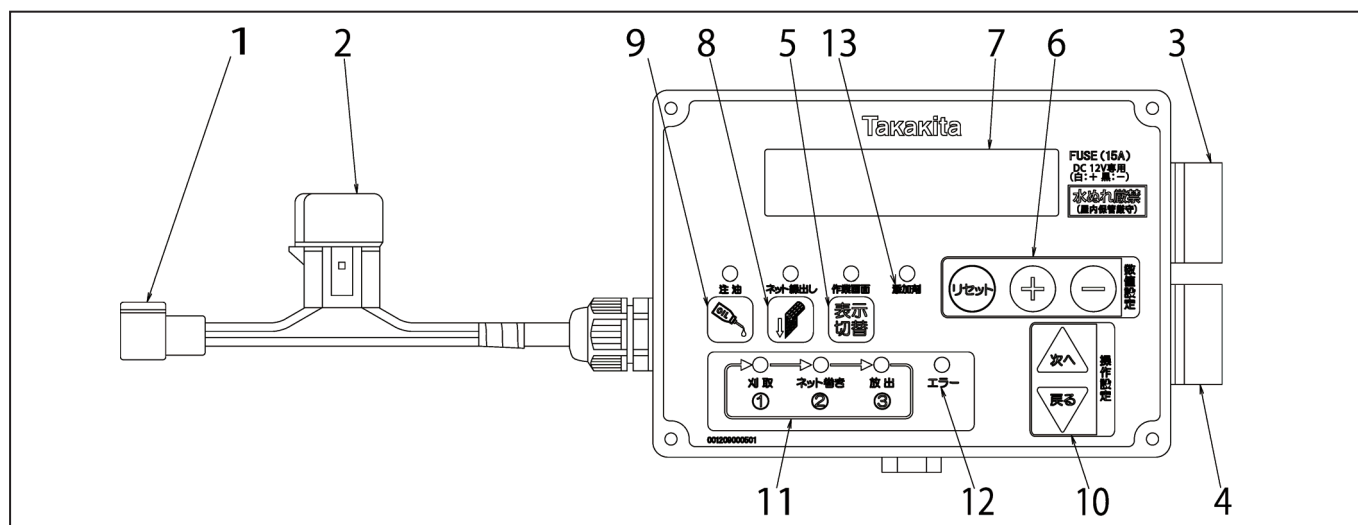
作業中はチャンバを閉じた後 5 秒間自動的に注油されます。注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。
タンクはロールベアラ右後カバーの中にあります。

- ◆ 定期的にノズルの清掃を行ってください。

注油ノズルにはワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェンへの注油がされていないことがあります。定期的に左右のノズル先端部に付着したワラを除去してください。

2.2.6 コントロールボックスの取扱い

◆ コントロールボックス



※コントロールボックス前面のステッカーには保護フィルムが貼られています。
液晶画面が見づらくなりますので、使用前に保護フィルムをはがしてください。

図 2-114

表 2-10

番号	名称	はたらき
1	電源コネクタ	電源の供給を受けます。台車の電源コネクタに接続してください。
2	ヒューズ	異常に高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。(ヒューズ 15A)
3	入力用コネクタ	センサ、台車からの信号を受け取ります。 入力用コネクタに接続してください。
4	出力用コネクタ	モーター、注油ポンプを動かします。 出力用コネクタに接続してください。
5	表示切替ボタン	押す度に、設定モード→入力チェックモード→出力チェックモード→作業画面を切替えます。 LED 点灯：設定、チェックモードになっており、作業不可。
6	リセットボタン	押すと、設定モードの項目の設定値を初期値にリセットします。
	+ボタン	押すと、設定モードの項目の設定値に+ 1 します。
	-ボタン	押すと、設定モードの項目の設定値に- 1 します。
7	液晶画面	作業状態、エラー内容を表示します。
8	ネット繰出しボタン	押すとネット繰出しがスタートします。 LED 点灯：ネット繰出し中。
9	注油ボタン	ボタンを押している間タイトチェンに注油します。 LED 点灯：注油中。
10	次へボタン 戻るボタン	設定モード、入力チェックモード、出力チェックモードで項目を切り替えるのに使います。
11	作業状態 LED	作業の段階ごとに LED が点灯します。 刈取：感知前、ネット巻き：ネット繰出し中、放出：ベール放出し、再び刈取作業可能となるまで点灯。
12	エラー LED	エラーが発生している間点灯します。エラーの種類は液晶画面に表示されます。エラー時の対応は 74 ページを参照してください。
13	添加剤 LED	添加剤が流れている間 LED が点灯します。

コントロールボックスの画面

エンジンがかかっておりコントロールボックスの電源が入っている状態でコントロールボックスの画面が消えている場合は、ロールベアラのヒューズが切れている可能性がありますのでヒューズを交換してください。(203 ページ)

◆ キースイッチを入れると

社名、型式、プログラムのバージョンを表示。

タカキタ

Takakita

47112-9121-002

◆ カムの初期位置合わせ

ネット装置のカムが初期位置にない場合、カムの初期位置を合わせます。

カム ショキイチ アワセ

◆ 設定モードの表示と変更方法

「表示切替ボタン」をもう一度押すと設定モードに入ります。

※無闇な設定変更は動作不良に繋がりますので、しないでください。

1. ロール コスウ

0 コ

以下のボタンで設定変更してください。

- ・「次へボタン」：次の項目を表示
- ・「戻るボタン」：前の項目を表示
- ・「+ボタン」、「-ボタン」：値を変更
- ・「リセットボタン」：値を初期値に変更

表 2-11 設定モード表示画面一覧

No.	表示	内容
1	1. ロール コスウ セッテイチ 0 コ	作成したベールの個数です。 リセットボタンを押すと 0 個にできます。
2	2. ルイセキ コスウ セッテイチ 0 コ	これまでに作ったベールの累積個数です。 メンテナンス時期の目安にしてください。
3	3. ネット マキ カズ セッテイチ 4. 0 ソウ	ネットの巻き数を変更できます。 初期値：4.0 範囲：2.0 ～ 6.0
4	4. チュウユ ジカン セッテイチ 5. 0 s e c	ベール放出後の自動注油の時間を変更できます。 初期値：5.0 範囲：2.0 ～ 10.0
5	5. クリダシ タイキ ジカン セッテイチ 1. 0 s e c	感知後繰出し始めるまでの時間を変更できます。 初期値：1.0 範囲：0.5 ～ 5.0
6	6. カウント SW セッテイチ ON	OFF にすることでネットカウントセンサが壊れた時のバックアップ モードに切り替えられます。 初期値：ON
7	7. ホサキ SW セッテイチ ON	OFF にすることでネットホサキセンサが壊れた時のバックアップ モードに切り替えられます。
8	8. チャンバ ヘイ SW セッテイチ ON	OFF にすることでチャンバ閉スイッチが壊れた時のバックアップ モードに切り替えられます。
9	9. カンチ キョリ セッテイチ 2 0	感知するまでの距離を設定できます。 初期値：20 範囲：8 ～ 30
10	10. マキツケ エラー ジカン セッテイチ 4 5 s e c	ネット巻きのカウントが行われていないときエラーと判断する秒数。 初期値：45 範囲：30 ～ 90
11	11. プレーキ カイジョ セッテイチ 1. 0 ソウ	ベールにネットが入っていくための繰出し量。 初期値：1.0 範囲：0 ～ 2.0
12	12. ツマリ ブザー セッテイチ リョウガワ ON	刈取作業中にネットケースの下に大量に材料が入ってきた際に No.13 で設定した時間後に警告を発します。 片側はホサキセンサ右のみ反応で警告。 初期値：リョウガワ ON 範囲：両側・片側・OFF
13	13. ツマリ ハンノウ ジカン セッテイチ 3. 5 s e c	刈取作業中に大量に材料が入ってきた際に警告を発するまでの時間。 初期値：3.5 範囲：0 ～ 9.9
14	14. シアボルトギレ SW セッテイチ ON	スピナー部のシャーボルトが折損したら警告します。 初期値：ON
15	15. カリトリ レバー SW セッテイチ ON	刈取レバーが切の位置にある間は感知しません。 初期値：ON
16	16. マキツケ カクニン セッテイチ OFF	ネット巻き完了後もベールが放出されていない間はパトライトが回 り続けます。ベール放出忘れ防止。 初期値：OFF
17	17. ポテンショ ショキチ セッテイチ 2. 5 0 V	リセットボタンの長押しで感知のポテンショメータの電圧値を手動 で保存できます。 初期値：保存したときのポテンショメータの電圧値

設定変更が終わったら、「表示切替ボタン」を 3 回押して、「作業状態 LED」を点灯させてください。
作業する前にベールがチャンバに入っていない状態で変更した動作を確認してください。

◆ 入力チェックモードの表示

「表示切換ボタン」をもう一度押すと入力チェックモードに入ります。

センサやレバースイッチが ON 状態だとブザーが鳴り、OFF 状態だとブザーが鳴りません。

センサの入力確認にご利用ください。

ニュウリョク チェック モード

以下のボタンで表示を変更してください。

- ・「次へボタン」：次の項目を表示
- ・「戻るボタン」：前の項目を表示

表 2-12 入力チェックモード表示画面一覧

No.	表示	内容
1	ニュウリョク チェック モード バッテリー 13.70V	台車のバッテリー電圧を表示
2	ニュウリョク チェック モード チャンバヘイSW ON	チャンバ閉センサの状態を ON/OFF で表示
3	ニュウリョク チェック モード カンチp t 2.50V	感知ポテンショメータの値を表示 調整のため 2.4 ~ 2.6V でブザーが鳴ります。
4	ニュウリョク チェック モード ホサキミギ ON	ホサキセンサ右の状態を ON/OFF で表示
5	ニュウリョク チェック モード ホサキヒダリ ON	ホサキセンサ左の状態を ON/OFF で表示
6	ニュウリョク チェック モード カムSW1 ON	ネット装置のカム SW1 の状態を ON/OFF で表示
7	ニュウリョク チェック モード カムSW2 ON	ネット装置のカム SW2 の状態を ON/OFF で表示
8	ニュウリョク チェック モード ネットカウントSW ON	ネット装置のカウントセンサの状態を ON/OFF で表示
9	ニュウリョク チェック モード シアボルトSW ON	シャーボルト切れセンサの状態を ON/OFF で表示
10	ニュウリョク チェック モード カリトリSW ON	キャビン内の刈取りレバーの状態を ON/OFF で表示
11	ニュウリョク チェック モード リュウリョウSW ON	右側面の添加剤流量センサの状態を ON/OFF で表示

入力確認が終わったら、「表示切替ボタン」を 2 回押して、「作業状態 LED」を点灯させてください。

◆ 出力チェックモードの表示

「表示切替ボタン」をもう一度押すと出力チェックモードに入ります。
バッテリー電圧も表示しますので、モータや油圧出力の確認にご利用ください。

シュツリョク チェック モード

!

注意

●怪我をするおそれがありますので、「+ボタン」、「-ボタン」操作の際は、機械の周りに人がいないことを確認してから行ってください。

- 以下のボタンで表示を変更してください。
- ・「次へボタン」：次の項目を表示
 - ・「戻るボタン」：前の項目を表示
 - ・「+ボタン」：各出力を出します。
 - ・「-ボタン」：各出力を切ります。

表 2-13 出力チェックモード表示画面一覧

No.	表示	内容
1	シュツリョク チェック モード モータ セイテン OFF	「+ボタン」を押している間、モータに正転出力を出します。
2	シュツリョク チェック モード モータ ギャクテン OFF	「+ボタン」を押している間、モータに逆転出力を出します。
3	シュツリョク チェック モード チュウユポンプ OFF	「+ボタン」を押している間、注油ポンプに出力を出します。
4	シュツリョク チェック モード パトライト OFF	「+ボタン」を押している間、パトライトに出力を出します。
5	シュツリョク チェック モード カメラレンドウ OFF	「+ボタン」を押している間、バックモニタに連動出力を出します。

出力確認が終わったら、「表示切替ボタン」を 1 回押して、「作業状態 LED」を点灯させてください。

正常時、異常時の画面表示

◆ 感知前（正常時）

ロール コスウ	0 コ
サギョウ OK	0 / 2 0

刈取作業中コントロールボックスに上記画面が表示されます。

- ・ 上段：作成したベール個数
- ・ 下段：現在の移動距離 / 設定した感知までの距離

ロールベールに収穫物が入り圧力がかかると、現在の移動距離の表示が増えるようになっています。作業の目安にしてください。

◆ 電源投入時（異常時）

電源投入時のエラーが発生した際のコントロールボックスの表示の一覧です。

表 2-14 電源投入時エラー表示一覧

表示	内容
バッテリー ヲ カクニン 1 0 . 5 V	バッテリーの電圧が 11.0V ~ 15.0V の範囲内でないときの表示です。
カム ショキイチ エラー カム ヲ カクニン	ネット装置のカムが初期位置にありません。 カムの位置を確認してください。

◆ 感知前（異常時）

刈り取り作業中異常が発生している場合のコントロールボックスの表示、エラー内容の一覧です。

表 2-15 刈り取り作業時エラー表示一覧

表示	内容
ロール コスウ 0 コ チャンバヲトジル 0 / 2 0	チャンバが開いています。 刈取作業する際は閉じてください。
ロール コスウ 0 コ チャンバ カクニン 0 / 2 0	感知のポテンシオメータの電圧値が下がりすぎています。 感知のポテンシオアームが下がりすぎているかを確認してください。
ロール コスウ 0 コ ツマリソクドオトス 0 / 2 0	材料が入りすぎているため走行速度を落としてください。 速度を落としてもエラー表示が消えない場合は詰まりが発生しているため 133 ページの手順に従い詰まりを取り除いてください。
ロール コスウ 0 コ シアボルト ギレ 0 / 2 0	スピナー部のシャーボルトが切れています。134 ページの手順に従い 詰まりを取り除いてください。キースイッチ ON でベール・刈取スイッチ が入っている場合、搬送部の詰まりで非常停止している場合も表示されま す。
ロール コスウ 0 コ チェーン チョウセイ 0 / 2 0	タイトチェンが伸びておりチェンの調整が必要です。165 ページの手順 に従い作業してください。調整後感知ポテンシオメータの初期位置を保存 してください。

◆ ネット結束中エラー表示

ネット結束中異常が発生している際のコントロールボックスの表示、エラー内容の一覧です。

表 2-16 ネット結束中エラー表示一覧

表示	内容
ネット マキ エラー タイムアウト	ネットがチャンバの中に入っていない、6 秒以上ネットが繰り出されていない場合に表示されます。手動繰り出しボタンでもう一度巻いてください。
ネット マキ エラー ネット ヲ コウカン	ネットが無くなった、ネットがゴムローラ等に巻きついた場合に表示されます。ネット装置を確認し処置した後、手動繰り出ししてください。
ネット マキ エラー ネット カタマキ	ネットが片側しか巻かれていません。ネットを切断し手動繰り出しボタンでもう一度巻いてください。

◆ ベール放出後画面表示

ベール放出後のコントロールボックスの表示の一覧です。

表 2-17 ベール放出後表示一覧

表示	内容
チャンバ ヲ トジル	チャンバが開いているもしくはロックがかかっていないためチャンバを閉じきってください。
ポテンショ ショキチホゾン	感知のポテンシオメータの初期値を取り直しています。
カリトリレバー タイキチュウ	ベール放出、感知のポテンシオメータの初期値を取る際、刈取レバーが入っていない時に表示されます。

2.3 ならし運転（最初の 50 時間）について

新車は、最初の 50 時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- ・ 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- ・ 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- ・ 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- ・ 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- ・ 高速での刈取作業はさけてください。
- ・ 最初の 50 時間目になったら、164 ページの「給油・給水一覧表」と 264 ページの「主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

2.4 運転前の点検

⚠ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。
※ 火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。
※ 火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
※ こぼれた燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検し、高圧油に直接、手や体が触れないようにしてください。
※ 万一、触れた場合は、ただちに医療機関を受診してください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動して行う場合は、閉めきった室内で行わないでください。
- 作業機は、常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、排気フィルター周辺部、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着があると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

⚠ 注意

- 作業を行うときは、健康な状態で行ってください。

※ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。
特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・
16才未満の人は作業を行わないでください。

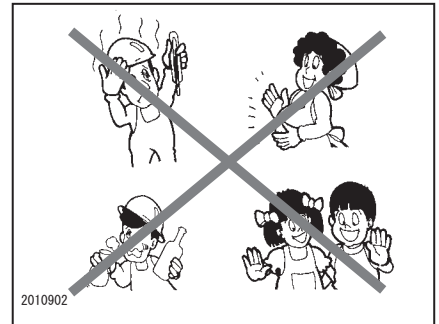


図 2-115

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。

- 安全靴などの滑り止めの付いた靴を着用してください。

- ヘルメットを着用してください。

- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。

- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。

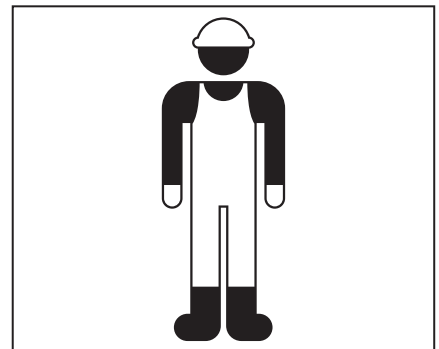


図 2-116

⚠ 注意

- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。

※ 回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。

- 点検・整備・調節を行うときは、排出ガス出口やエンジンなどの高温部分が十分に冷めてから行ってください。

※ ヤケドやけがをするおそれがあります。

- 点検・整備・調節後は、外したすべてのカバー類は、元通りに取り付けてください。

※ 外した状態で運転すると、作業機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

2.4.1 点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、つぎの順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	● 前日の作業中に異常を感じたところはありませんか.....	229
コンバインの周りを回ってみて  1039507D	● 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ● 燃料の量と燃料漏れはありませんか..... ● クローラの損傷・ゆるみはありませんか..... ● 各部注油箇所の油切れはありませんか..... ● 各部ベルト・チェーンのゆるみや折損はありませんか.....	168・199 218 157 205～217
エンジンルームを開けてみて	● エンジンオイルの量と汚れ、油漏れはありませんか..... ● 燃料の量と燃料漏れ、水漏れ、オイル漏れはありませんか..... ● 冷却水の量と水漏れ、ホースの損傷はありませんか..... ● エアクリーナーの汚れはありませんか..... ● エンジン防塵装置のホコリやごみはありませんか..... ● 配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか.....	170 168・199 176 190 192 199
ドライバーシートに座ってみて	● ランプ・ディスプレイ・スイッチの作動状態は正常ですか ● ドライバーシートの取り付け位置が体格にあっていますか..... ● マルチハンドルが、チルト機構により固定されていますか、 また作業に適正な位置になっていますか.....	81 82
エンジンを始動してみても	● エンジン始動後に異音はありませんか ● 排出ガスの色は正常ですか..... ● 各作業クラッチレバー・スイッチの作動状態は正常ですか ● セフティペダルの作動具合は正常ですか..... ● マルチハンドルおよびステアリング右スイッチで 機体の旋回が行えますか..... ● 刈取昇降スイッチまたはステアリング右スイッチで 刈取部の昇降が行えますか..... ● 作業クラッチレバーで、ペーラ部の駆動・停止が行えますか..... ● 作業クラッチレバーで、刈取部の駆動・停止が行えますか.....	220 48 103 34・46 45 45

2.5 運転前の準備

⚠ 警告

- 取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しないでください。また、作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。

※ 誤作動などにより、作業機が破損し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

2.5.1 作業機への乗降のしかた

⚠ 注意

- 作業機への飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。乗降するときは、必ずつぎの手順に従って乗降してください。

乗降のしかた

1. アシストバー(1)とパイプ(2)を持って行きます。

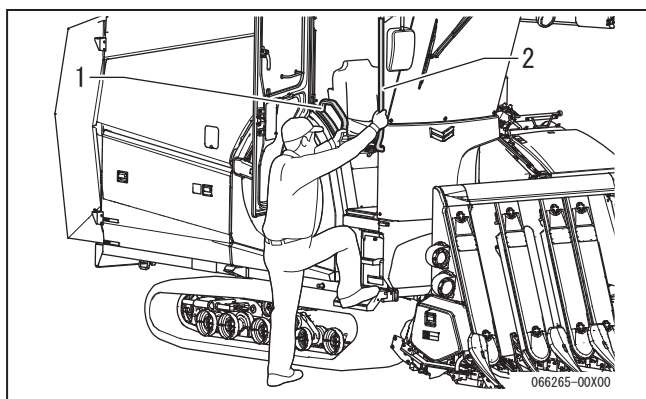


図 2-117

2. 乗り降りるときには、必ず乗降ステップをセットします。

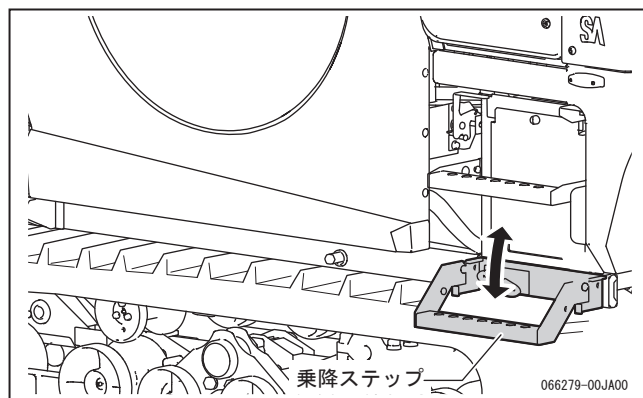


図 2-118

《 参考 》

移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

2.5.2 シート位置の調節のしかた

警告

- ドライバーシートの調節は、必ず作業機が停止した状態で行ってください。

※ 走行しながらの調節は傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ドライバーシートの上下・前後位置および前傾状態を、運転者の体格または作業状態に合わせて調節します。

前後調節のしかた

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げます。

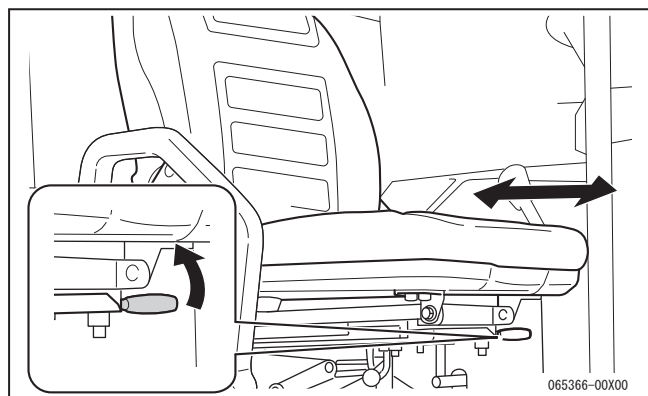


図 2-119

2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に前後移動します。
3. 前後調節レバーから手を離します。ドライバーシートが固定されます。

上下調節のしかた

1. 上下調節レバーを矢印方向に引き上げます。体をシートから浮かすとシートが上昇します。シートに体重をかけると下がります。

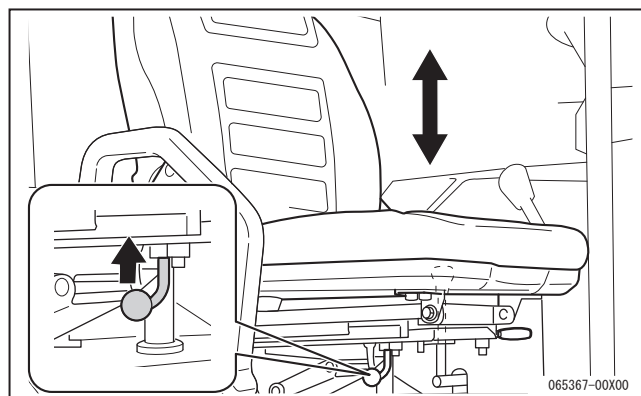


図 2-120

2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に上下移動します。
3. 上下調節レバーから手を離します。ドライバーシートが固定されます。

チルト調節のしかた

⚠ 注意

- 前傾状態にするときは、チルトアームをいっぱいまで起こしてください。
※途中の位置でも止まりますが、シートが突然水平状態に戻り、けがをするおそれがあります。

1. ドライバーシートを前方に倒します。
2. チルトアーム (1) を出し入れして、ドライバーシートを水平状態・前傾状態と、作業しやすい角度に調節します。

シート水平状態

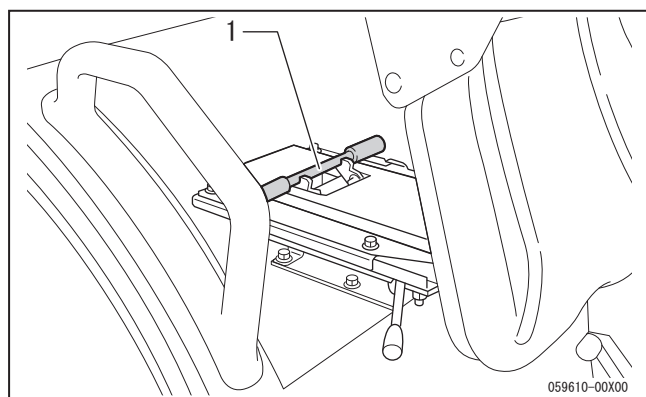


図 2-121

シート前傾状態

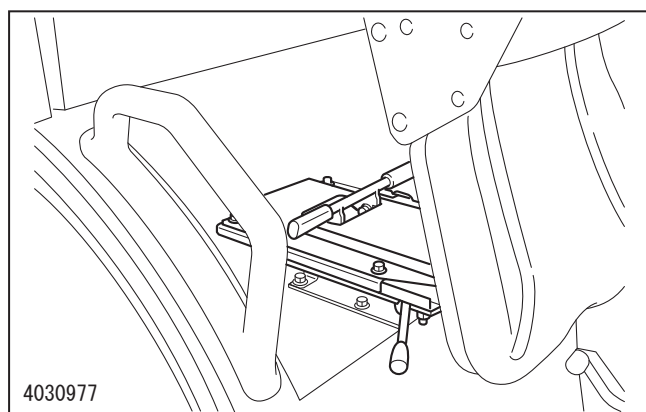


図 2-122

リクライニング調節のしかた

リクライニング調節レバー (1) を回し、作業しやすい角度に背もたれの傾きを調節できます。

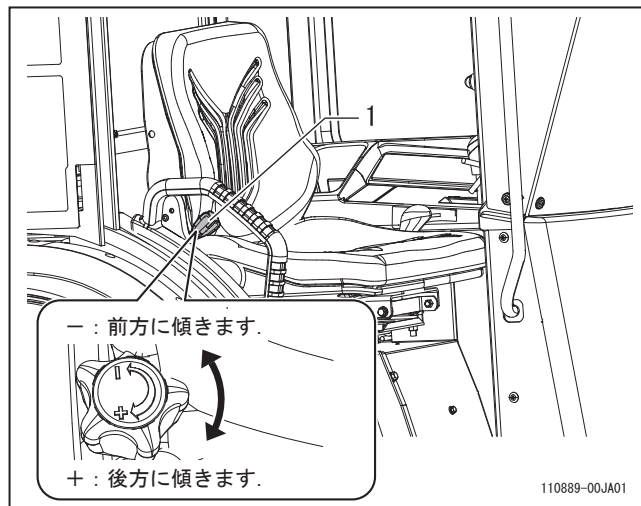


図 2-123

2.5.3 フットレストの使いかた

収納状態

フットレスト (1) を持ち上げて、支えフレーム (2) を収納フック (3) にかけます。

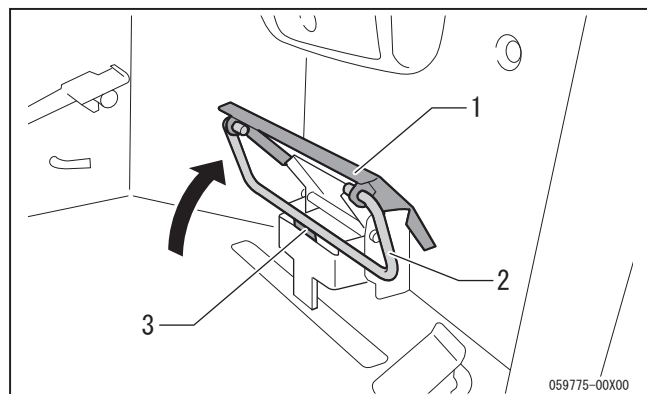


図 2-124

使用状態

フットレスト (1) を前方に押します。収納フックから支えフレーム (2) を解除し、支えフレームを収納フック根元にセットします。

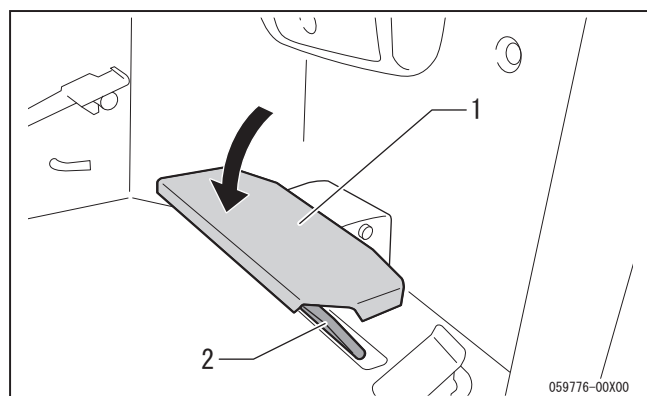


図 2-125

2.5.4 マルチハンドルの前後調節のしかた

⚠ 警告

- マルチハンドルの調節は、必ず作業機が停止した状態で行ってください。
※ 走行しながら調節すると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節します。

調節のしかた

1. チルトレバー (1) を「解除」位置にします。マルチハンドル (2) の固定がゆるみます。

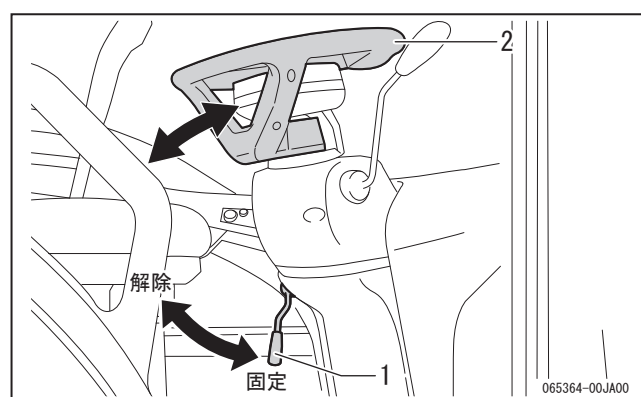


図 2-126

2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節します。
3. チルトレバーを「固定」位置にします。マルチハンドルが固定されます。

《 重要 》

マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

2.5.5 詳細設定メニューについて

！ 警告

- 「詳細設定メニュー」を設定するときは、安全な場所で作業機を停止した状態で行ってください。

※ 不意に作業機が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 設定を変更するときには、変更内容を確認して行ってください。

※ 不意に作業機が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

この作業機には、「詳細設定メニュー」があります。「詳細設定メニュー」には、機能変更や微調整が行える「コンバイン詳細設定」、サービスマンが作業機の点検を行うための「サービスマンモード」があります。（「サービスマンモード」には、お客様が入ることはできません。）

「コンバイン詳細設定」では、エコモードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できる「エコモード設定」の各機能の設定変更ができます。

詳細設定メニューへの切り替えかた

1. 「メニュー」(スイッチ)を3秒以上押し続けます。

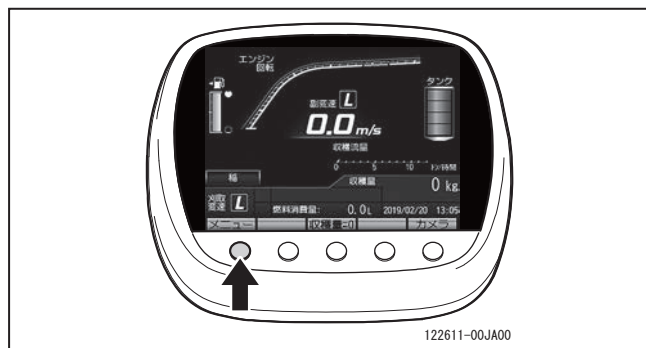


図 2-127

2. はじめにブザーが断続で鳴ってから「詳細設定メニュー」の画面に切り替わります。



図 2-128

《 参考 》

- ・ 詳細設定メニューには2種類のモードがあります。
- ・ センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ1～5で行ってください。

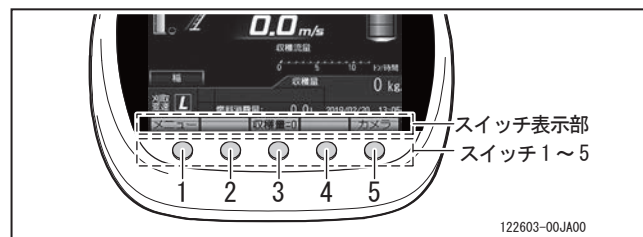


図 2-129

◆ コンバイン詳細設定

このモードは機能変更や、微調整が行えるモードです。

◆ サービスマンモード

サービスマンが機械の点検を行うためのモードです。お客様がこのモードに入ることはできません。

コンバイン詳細設定への切り替えかた

「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン詳細設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。

「コンバイン詳細設定」の画面に表示された設定が行えます。

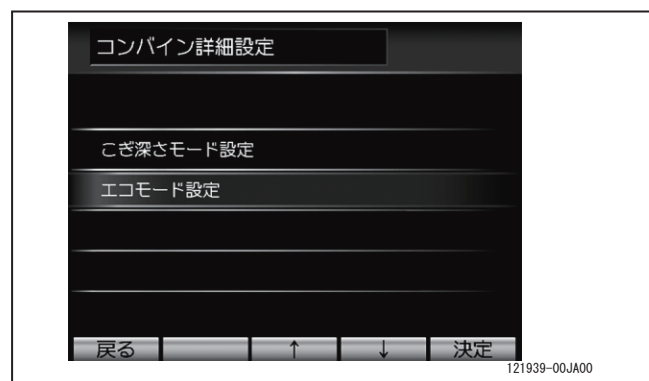


図 2-130

《 参考 》

コンバイン詳細設定で設定を変更した場合は、一度キースイッチを「切」位置にし、約 10 秒以上経過してから「入」位置にしてください。センターディスプレイはキースイッチが「切」位置のときにバックアップ動作を行っているため、十分な「切」の時間がないと、設定変更が反映されない場合があります。

◆ エコモード設定

エコモードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できます。

機能の変更方法について説明します。

《 参考 》

「戻る」(スイッチ) を押すと、「コンバイン詳細設定」の画面に戻ります。

エコモード設定

1. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「エコモード設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。

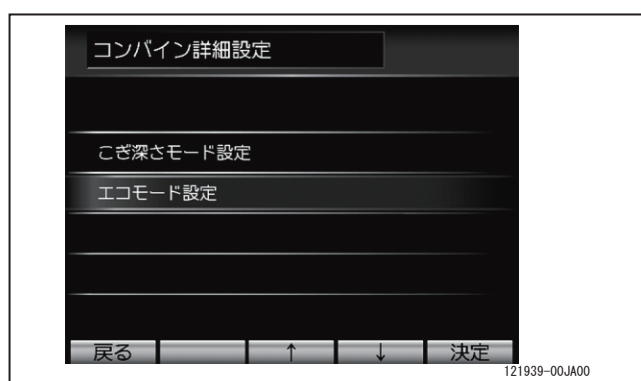


図 2-131

2. 確認画面が表示されますので、「はい」(スイッチ) を押します。
「戻る」(スイッチ) を押すと、「コンバイン詳細設定」の画面に戻ります。

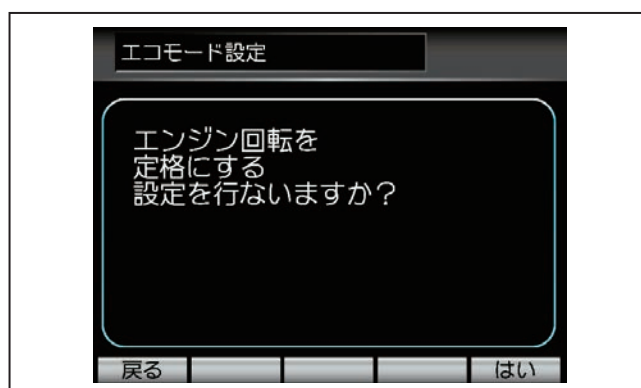


図 2-132

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「設定を変更したい項目」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。

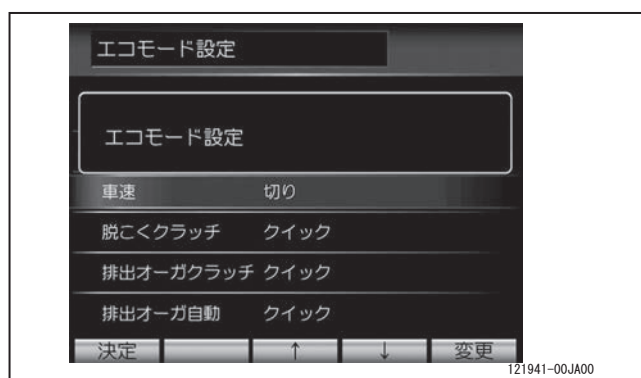


図 2-133

4. 「変更」(スイッチ)を押すごとに「クイック」「スロー」「切り」に切り替わります。

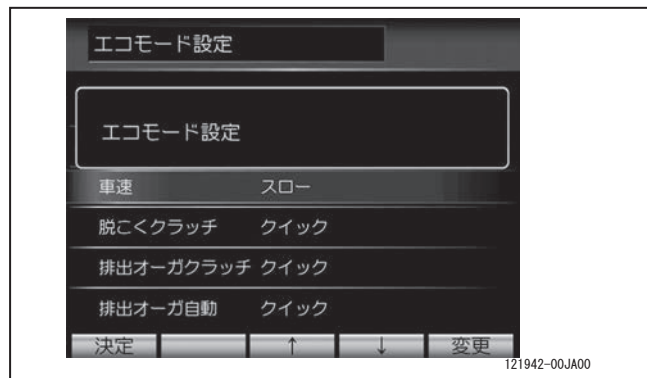


図 2-134

《 参考 》

- ・エコモードの設定は、車速・ベークラッチそれぞれ別々に設定できます。
- ・出荷時は、つぎの状態に設定されています。
 - ・車速 クイック
 - ・ベークラッチ クイック

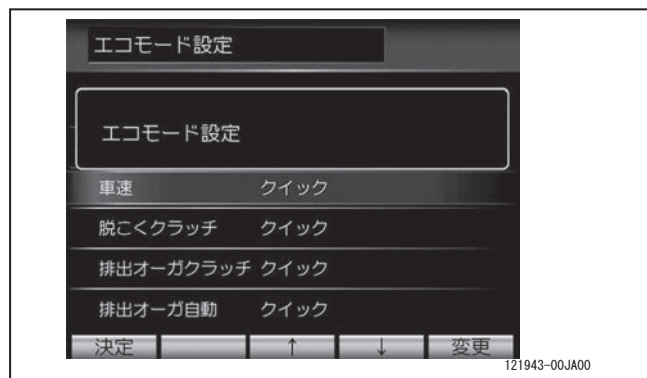


図 2-135

〈クイック〉

エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に瞬時に上がります。

〈スロー〉

エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に5秒かけて徐々に上がります。

〈切り〉

エンジン回転数は、アイドリング回転のまま維持されます。

5. 「決定」(スイッチ)を押して、エコモード設定を確定します。確定後、確認画面が2秒間表示され、「コンバイン詳細設定」の画面に戻ります。

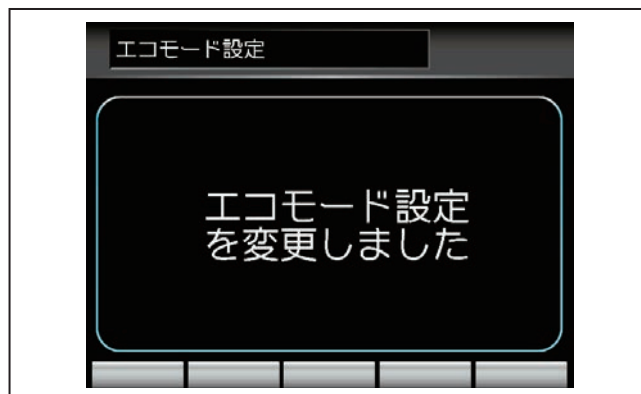


図 2-136

《 参考 》

「切り」に設定した場合は、エコモードスイッチが「入」(エコランプ点灯)の状態でも操作をしても、エンジン回転はアイドリング回転数のままです。エンジン回転を上げる場合は、エコモードスイッチを「切」(エコランプ消灯)にして、アクセルダイヤルでエンジン回転を調節してください。

2.5.6 操作機能の変更のしかた

センターディスプレイで操作機能の一部を変更できます。表 2-18 に変更できる機能と、設定方法について説明します。

表 2-18 変更項目一覧

番号	項目	内容
1	旋回力	各旋回モード「標準モード」「ソフトモード」「湿田モード」それぞれの旋回力を変更できます。 旋回力を「小」にすると旋回半径が大きくなり、「大」にすると旋回半径が小さくなります。 (設定は 87 ページ)
2	快速制御	快速制御 (41 ページ) の「入り」「切り」を設定できます。 (設定は 89 ページ) 「入り」……自動がはたらきます 「切り」……自動がはたらきません
3	快速負荷	快速制御作動時のエンジン負荷率を変更できます。 「高」から「低」までの範囲で、5 段階に設定できます。 (設定は 90 ページ)
4	積算時間	センターディスプレイに表示させる積算時間を、「エンジン」または「作業時間」に設定できます。 (91 ページ) エンジン……エンジンが回転している時間を積算します 作業時間……作業クラッチレバーが「刈取」状態になっている時間を積算します
5	作業時間	上記の「作業時間」の積算を「0」に戻すことができます。 (92 ページ) 「エンジン」の積算時間を、0 に戻すことはできません。

《 参考 》

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1～5で行ってください。

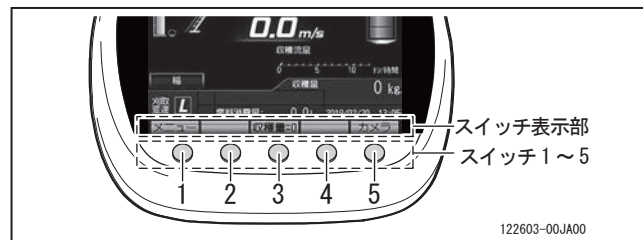


図 2-137

各旋回モードの旋回力を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

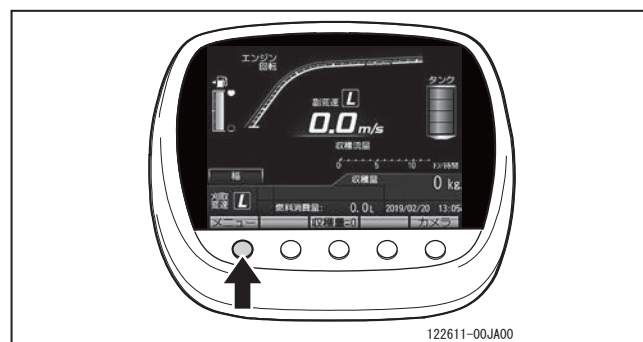


図 2-138

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-139

2. 運転のしかた

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「旋回力」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。



図 2-140

《 参考 》

「↓」(スイッチ) を押しているとき、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、167 ページを参照してください。

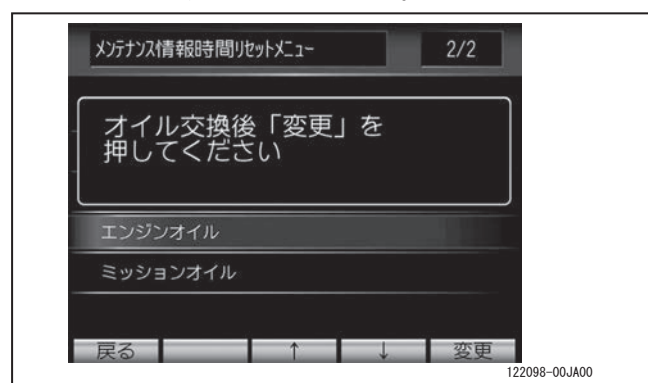


図 2-141

4. 「変更」(スイッチ) を押して、旋回モードを選択します。



図 2-142

5. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して、設定したい旋回力を選択します。「↑」(スイッチ) を押すごとに、旋回力が大きくなります。最大までになると最小になり、また押すごとに大きくなります。

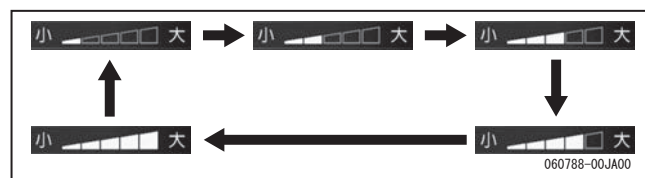


図 2-143

《 参考 》

工場出荷時は、各旋回モード共に、中央値に設定されています。

6. 「戻る」(スイッチ) を押して、旋回力の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。



図 2-144

快速制御の設定を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

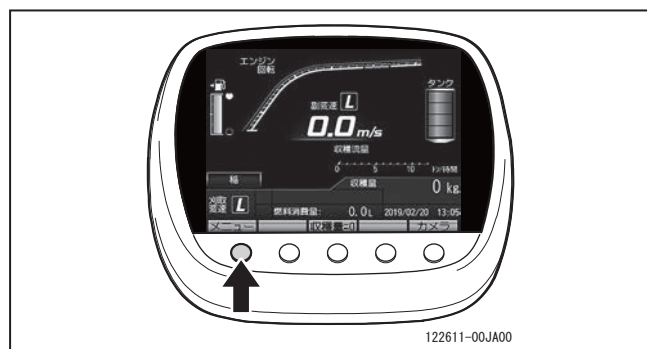


図 2-145

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-146

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「快速制御」を選択します。



図 2-147

《 参考 》

「↓」(スイッチ) を押していると、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、167ページを参照してください。

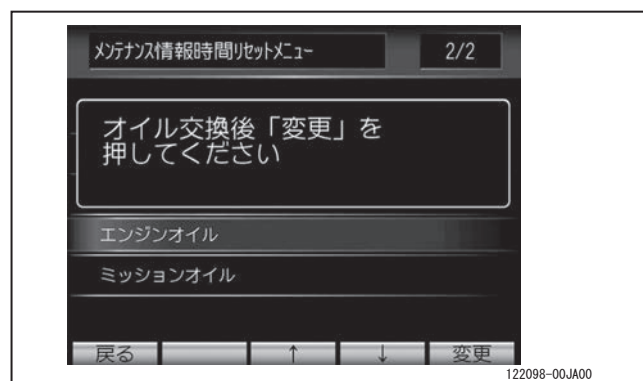


図 2-148

4. 「変更」(スイッチ) を押すごとに、「入り」「切り」を選択できます。
5. 「戻る」(スイッチ) を押して、快速制御の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

快速制御作動時のエンジン負荷率を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

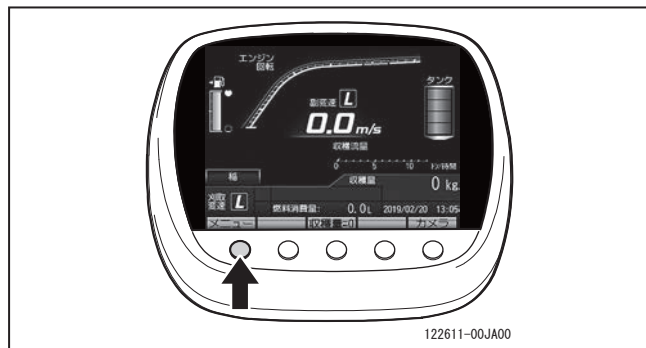


図 2-149

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-150

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「快速負荷」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。



図 2-151

《 参考 》

「↓」(スイッチ) を押しているとき、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、167 ページを参照してください。

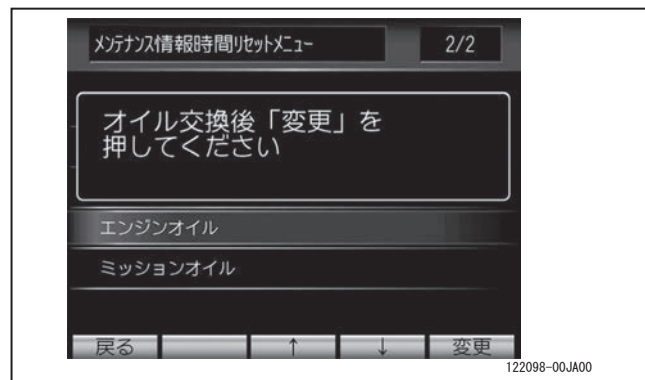


図 2-152

4. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して、設定したい負荷率を選択します。「↑」(スイッチ) を押すごとに、負荷率が大きくなります。最大までになると最小になり、また押すごとに大きくなります。

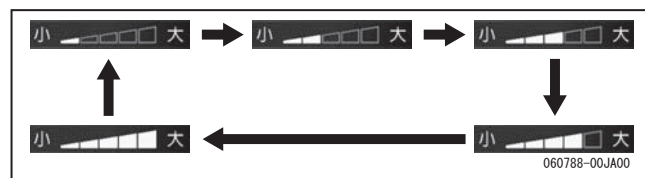


図 2-153

《 参考 》

工場出荷時は、「4」に設定されています。

- 「1」 ……エンジン負荷率 70%
- 「2」 ……エンジン負荷率 80%
- 「3」 ……エンジン負荷率 90%
- 「4」 ……エンジン負荷率 100%
- 「5」 ……エンジン負荷率 100%以上※

※エンジン負荷率が100%になり、さらにエンジン回転が100rpm 下がってから、快速制御が作動します。

5. 「戻る」(スイッチ) を押して、エンジン負荷率を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

アワメータの表示を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

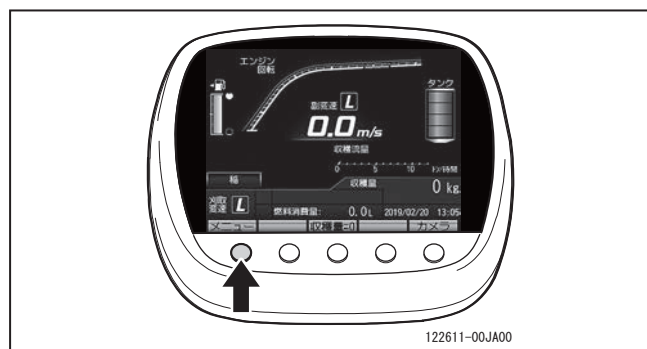


図 2-154

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-155

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「積算時間」を選択します。



図 2-156

《 参考 》

「↓」(スイッチ) を押していると、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、167 ページを参照してください。

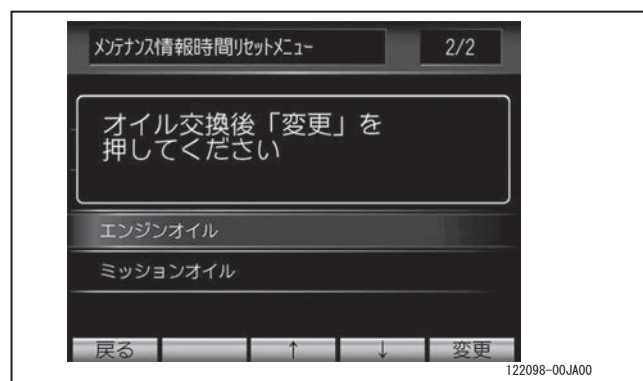


図 2-157

4. 「変更」(スイッチ) を押すごとに、「エンジン」「作業」を選択できます。
5. 「エンジン」を選択すると、通常の画面でアワメータが「砂時計マーク」を表示し、エンジンの使用時間を表示します。「作業時間」を選択すると、通常の画面でアワメータが「作業時間」を表示し、「刈取・入」位置の時間を表示します。(38 ページ)
6. 「戻る」(スイッチ) を押して、積算時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

《 参考 》

通常の画面に戻らないで、キースイッチを「切」位置にすると、設定内容が記憶されません。

作業時間をリセットするには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

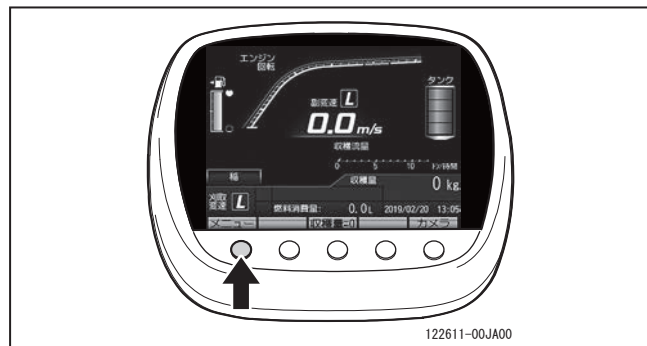


図 2-158

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-159

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「作業時間」を選択します。



図 2-160

《 参考 》

「↓」(スイッチ) を押していると、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、167ページを参照してください。

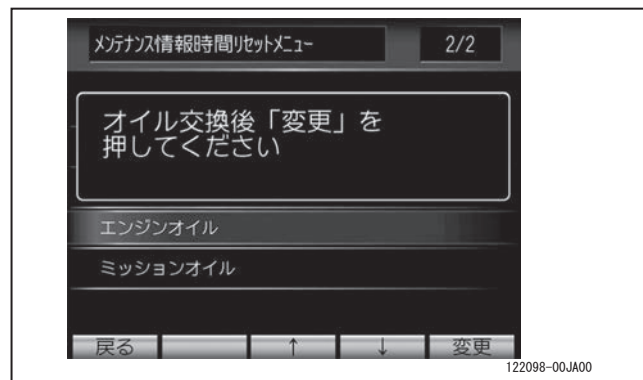


図 2-161

4. 「変更」(スイッチ) を押すと、「リセット」と表示され、作業時間の積算時間のリセットが確定されます。「リセット」の文字は数秒すると消えます。
5. 「戻る」(スイッチ) を押して、作業時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

2.5.7 基本設定のしかた

日付やセンターディスプレイ明るさなどを変更できます。表 2-19 に変更できる機能と、設定方法について説明します。

表 2-19 変更項目一覧

番号	項目	内容
1	明るさ設定	ディスプレイの明るさを設定できます。
2	日付・時間設定	日付、時間を設定できます。

《 参考 》

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1～5で行ってください。

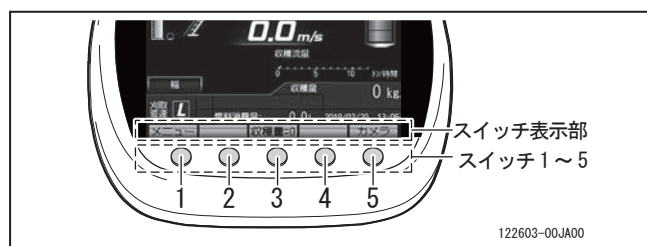


図 2-162

センターディスプレイの明るさを変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

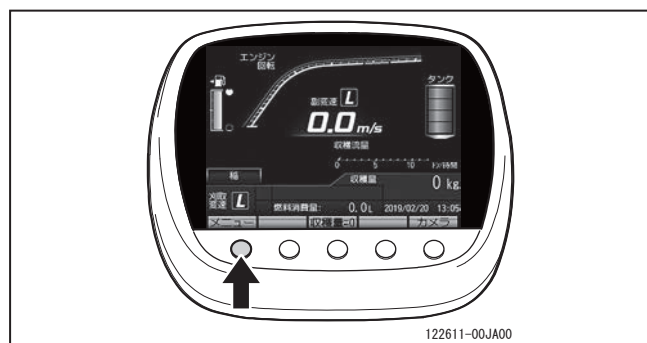


図 2-163

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「基本設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-164

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「明るさ設定」を選択します。



図 2-165

4. 「変更」(スイッチ) を押して、明るさを選択します。
5. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して、設定したい明るさを選択します。「↑」(スイッチ) を押すごとに、明るくなります。
6. 「戻る」(スイッチ) を押して、明るさの設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

日付・時間を設定するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。メニュー画面が表示されます。

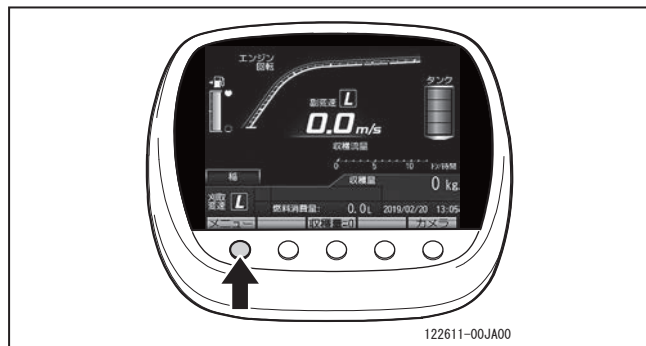


図 2-166

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「基本設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 2-167

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「日付・時間設定」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。

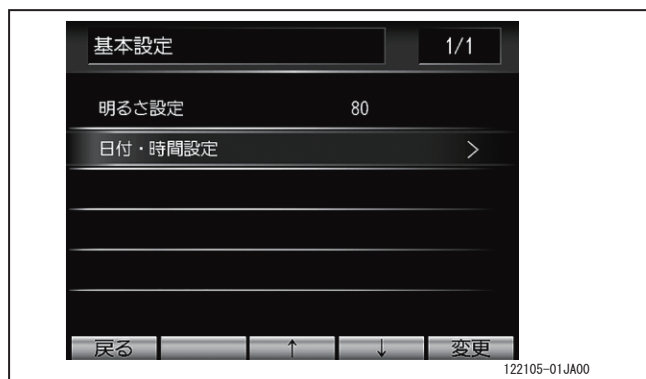


図 2-168

4. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「年」を選択し、「→」(スイッチ) を押すとカーソルが「月」に移動します。



図 2-169

5. 同じ手順で「月」「日」「時」「分」を入力します。
6. 「決定」(スイッチ) を押して、日付・時間の設定を確定します。

2.6 エンジンの始動と停止

2.6.1 始動のしかた

⚠ 警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。

※ やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンを始動するときは、つぎのことを必ず守ってください。急に作業機が動き出して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

・ 平たんな場所で運転席に座ってください。
・ 駐車ブレーキがかかっているか確認してください。

- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。

※ 点検せずにエンジンを始動すると、整備不良により、作業機が故障し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 作業機を使う前と後には、77 ページの「運転前の点検」に従って必ず点検・整備をしてください。特に、セフティペダル・レバーやスイッチなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。

※ 傷害事故を起こすおそれがあります。

- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。

※ それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。

⚠ 注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座って周囲の安全を確認し、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置にあること、各作業クラッチが「切」位置にあることを確認してください。
※ 急に作業機が動き出して、けがをするおそれがあります。
- 周囲の安全を確認し、エンジン始動前にホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

エンジン始動前の確認・準備

1. ウォーターセパレータ (1) のコック (2) を「開」位置にします。

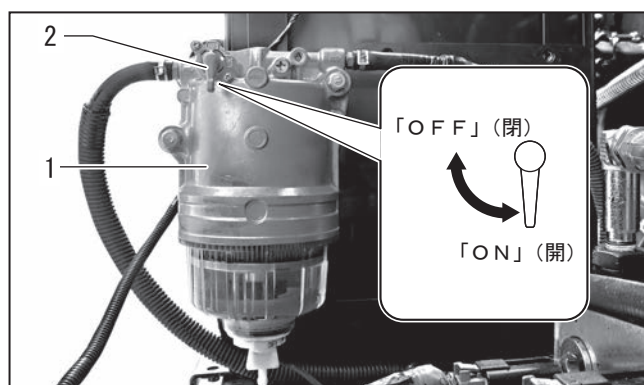


図 2-170

2. ドライバーシートに座ります。

2. 運転のしかた

3. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にします。
4. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にします。

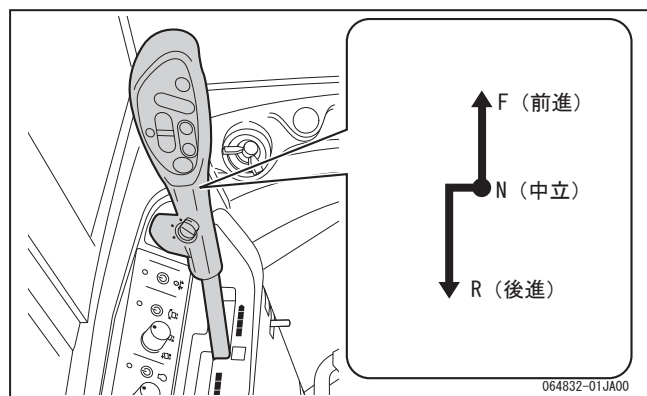


図 2-171

5. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。

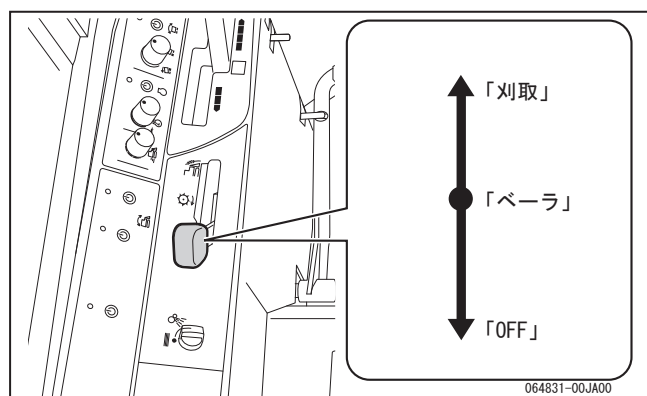


図 2-172

《 参考 》

エコモードスイッチが「入」（エコランプ点灯）でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、エコモードスイッチは「切」（エコランプ消灯）位置で始動してください。

エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。（106 ページ）
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にします。

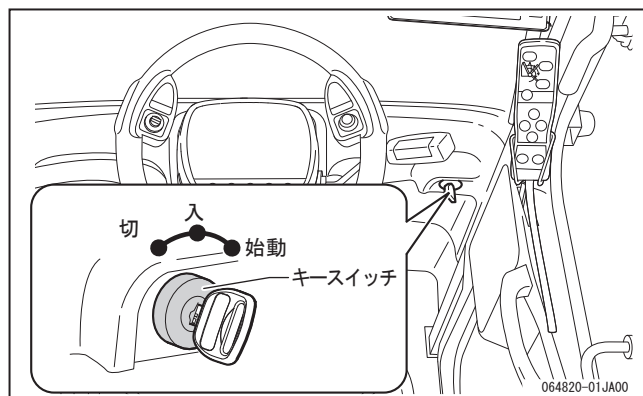


図 2-173

《 重要 》

キースイッチを「入」位置にすると、センターディスプレイ下部に「グロー作動中」の文字が表示されます。



図 2-174

エンジンが冷えているときは、画面下部の「グロー作動中」の文字が消えたことを確認してから、つぎの操作を行ってください。



図 2-175 通常の画面

《 参考 》

メンテナンスが必要な時期になったときは、メンテナンス情報が文字で表示されます。
(167 ページ)

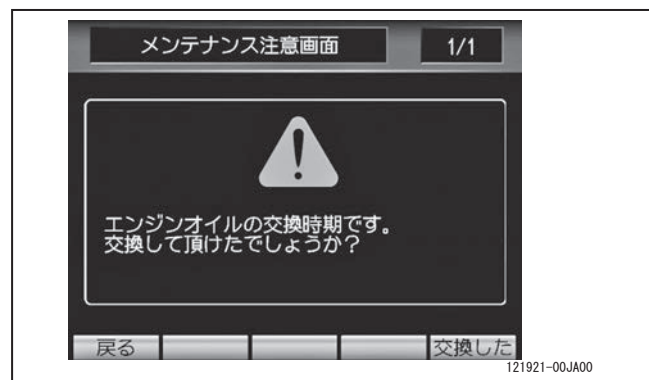


図 2-176

3. エコモードスイッチを「切」(エコランプ消灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にします。

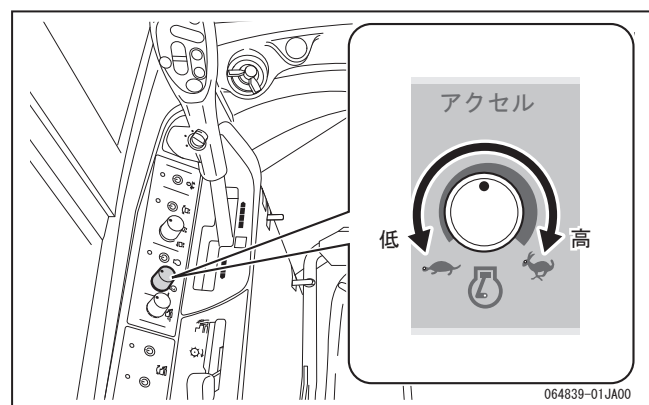


図 2-177

4. セフティペダルをいっばいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回します。

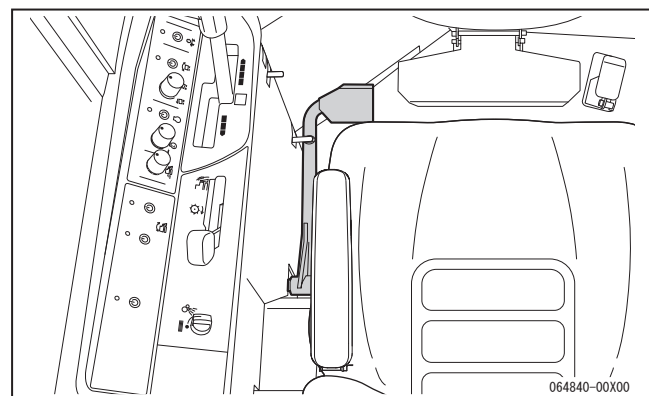


図 2-178

《 重要 》

セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10 秒以内に始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置にして、1 分以上たってから、再び始動してください。

《 参考 》

作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、セフティペダルをいっばいまで踏み込まないと、セルモータが回りません。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離します。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

《 重要 》

エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

2.6.2 暖機運転のしかた

！ 警告

● 倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

※ 排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけます。(106 ページ)
2. エコモードスイッチを「切」(エコランプ消灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。

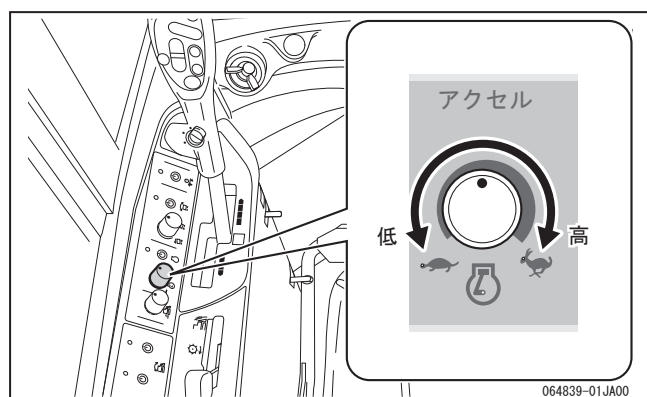


図 2-179

3. 約 5 分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにします。

《 重要 》

作動油タンクが、カウンターケースとなっているため、温度上昇に時間がかかります。暖機運転を行わないと満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

《 参考 》

寒冷時は、表 2-20 を参考に暖機運転を行ってください。

表 2-20 暖機運転時間

気温	暖機運転時間
10 ～ 0℃	10 分以上
0 ～ -5℃	20 分以上
-5℃以下	30 分以上

《 参考 》

- 寒冷時には、エンジンアイドリング回転数が少し上がります。
- 寒冷時は、エンジン始動時にマフラーパイプ内で結露した水分が、水蒸気や水滴として飛散することがあります。
- 寒冷時は、エンジンが十分に暖まってからエンジンの始動・停止を繰り返すと、マフラーパイプ内から飛散する水蒸気や水滴が多くなります。

2.6.3 エンジンの停止のしかた

警告

- 作業機を使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。

※ 子供などが操作し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にします。

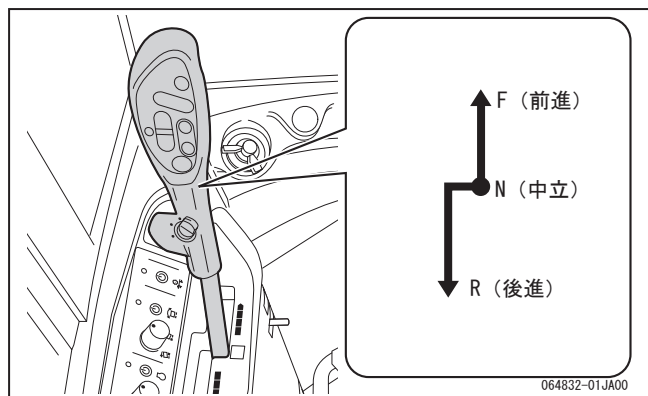


図 2-180

2. エコモードスイッチを「切」（エコランプ消灯）にして、アクセルダイヤルを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。

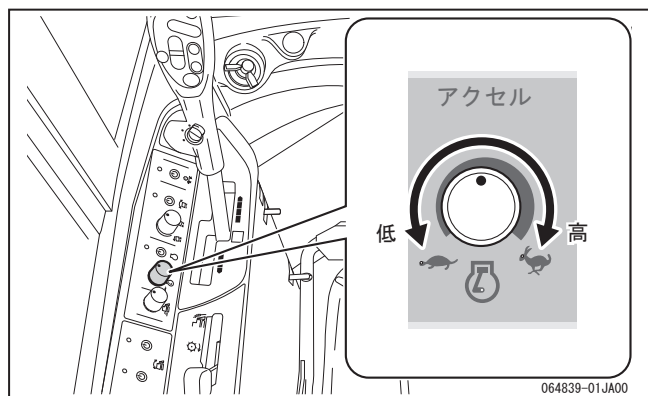


図 2-181

3. キースイッチを「切」位置にします。エンジンが停止します。
4. キーを抜きます。

《 重要 》

オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてから、キースイッチを「切」位置にしてください。オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置以外でキースイッチを「切」位置にすると、エンジンが再始動しにくくなる場合があります。

2.7 運転操作

2.7.1 発進・走行のしかた

⚠ 警告

- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。
- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。
※ それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA（農協）にご相談ください。
- 寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転を必ず行ってください。
※ 駐車ブレーキワイヤなどが凍結していると、誤作動などにより、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 発進するときは、周囲の安全を確認しホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

発進前の準備

1. プレクリーナー（1）が下がっているか確認します。

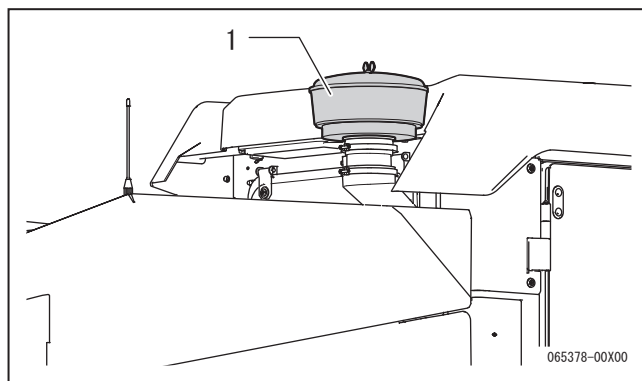


図 2-182

上がっている場合は、つぎの手順に従ってプレクリーナーを下げます。

- (1) ホースバンド（1）をゆるめます。

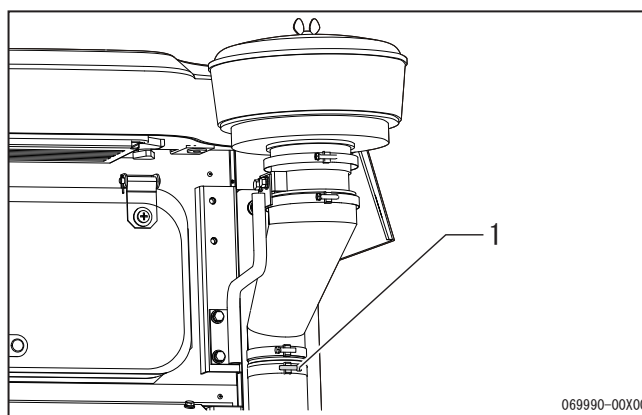


図 2-183

- (2) ボルト (1) (2 本) を外し、プレクリーナー (2) を下げます。

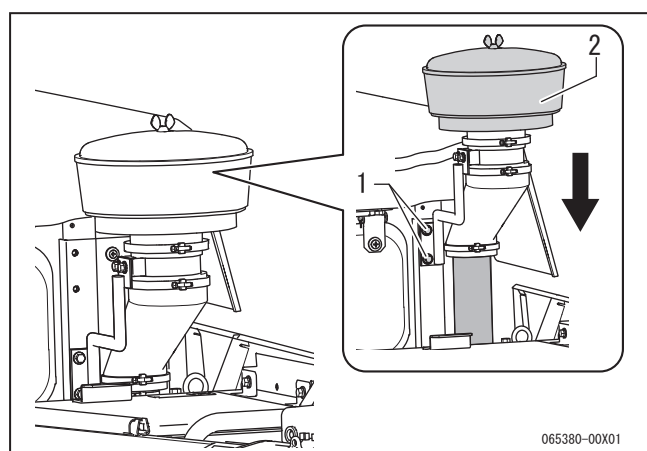


図 2-184

- (3) ホースバンドおよびボルト (2 本) を締め付けます。

2. セフティペダルをいっぱいまで踏み込みます。(48 ページ)
3. エンジンを始動します。(96 ページ)
4. エコモードスイッチを「切」(エコランプ消灯)にして、アクセルダイヤルを「高」位置にします。エンジン回転が上がります。

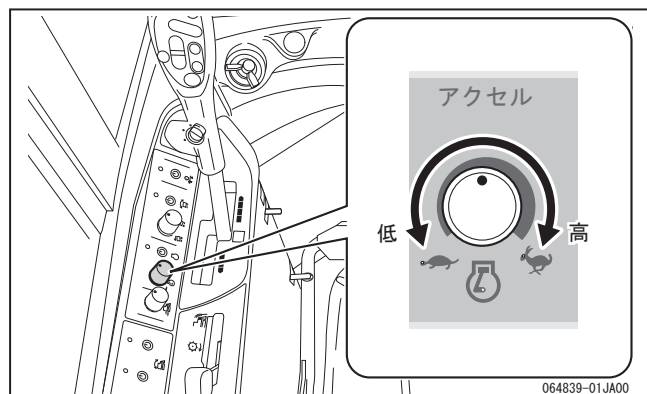


図 2-185

《 参考 》

エンジン回転数は、必ずセンターディスプレイの回転計の示す「グリーンゾーン」の回転数にしてください。



図 2-186

5. ステアリング右スイッチ (1) 「上」側、またはオールマイティシフトレバー (2) の刈取昇降スイッチを「上」側にします。刈取部が上昇します。

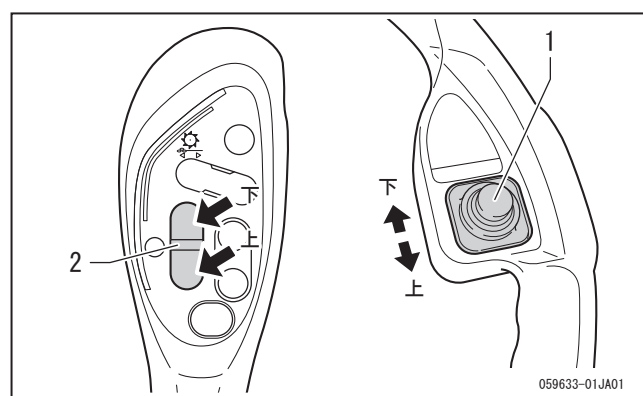


図 2-187

6. 副変速レバーを希望の位置にします。

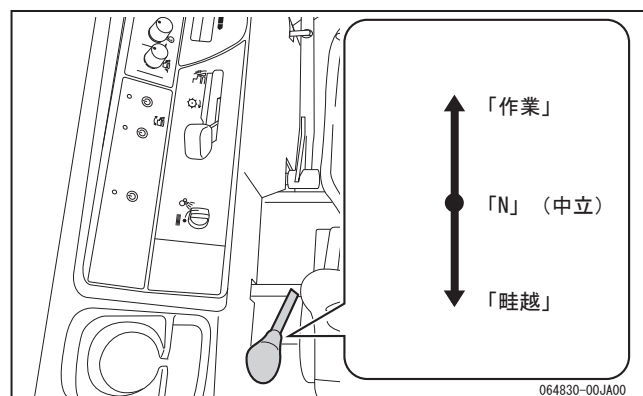


図 2-188

2. 運転のしかた

発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除します。(48 ページ)
2. マルチハンドルを右手で持ちます。
3. 左手でオールマイティシフトレバーをゆっくり前方へ倒します。作業機が発進します。

- (1) 周囲の安全を十分に確認します。
- (2) オールマイティシフトレバーをゆっくり前方に倒して発進します。
- (3) 発進後、必要に応じてオールマイティシフトレバーをさらに前方へ倒してスピードを上げます。

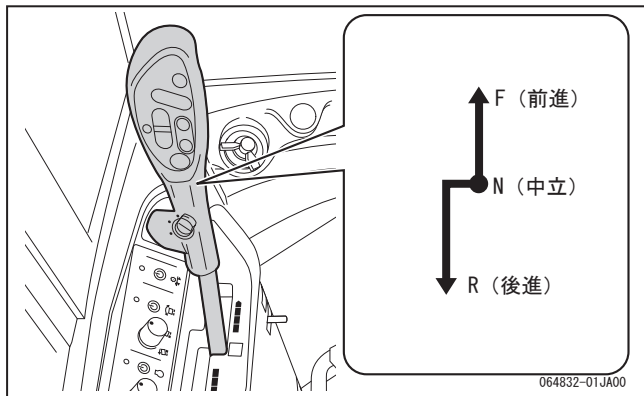


図 2-189

《重要》

- 作業機は HST ミッションのため、走行時はエンジン回転数を、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。
- オールマイティシフトレバーは、セフティペダルを踏まずに操作してください。セフティペダルを踏むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立) 位置で固定されます。
- オールマイティシフトレバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず作業機が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。

2.7.2 変速のしかた

⚠ 警告

- 坂道では、副変速レバーを操作しないでください。

※ 作業機が不意に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

《重要》

副変速レバーを操作する場合は、必ず作業機が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、作業機が破損することがあります。

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にします。作業機が停止したことを確認します。
2. 副変速レバー (1) を希望の位置にします。また、必要に応じてノークラッチ副変速ボタン (2) で「L (作業)」 「H (走行)」を切り替えます。

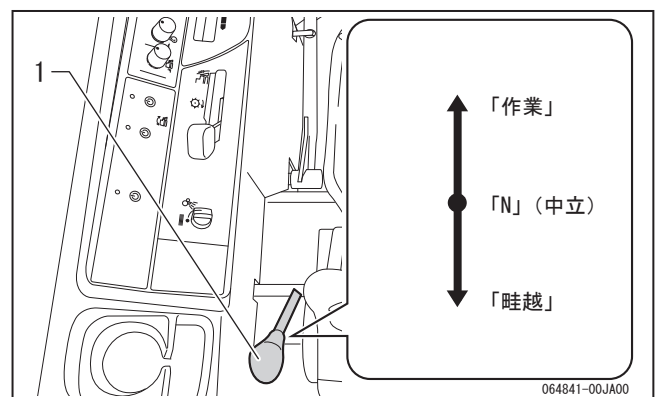


図 2-190

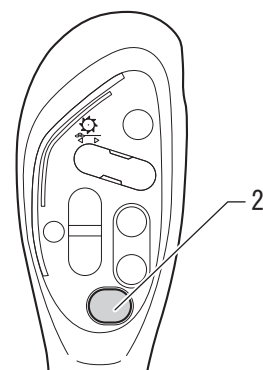


図 2-191

《 参考 》

- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- ノークラッチ副変速ボタンの状態は、センターディスプレイに「L (作業)」または「H (走行)」が表示されます。

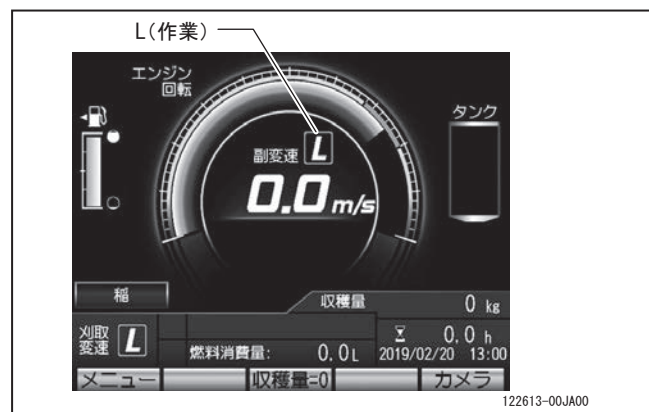


図 2-192

2.7.3 旋回のしかた

⚠ 警告

- 副変速レバーを「作業」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落としてから旋回してください。

※ 接触・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーで走行スピードを下げます。
2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へ作業機が旋回します。

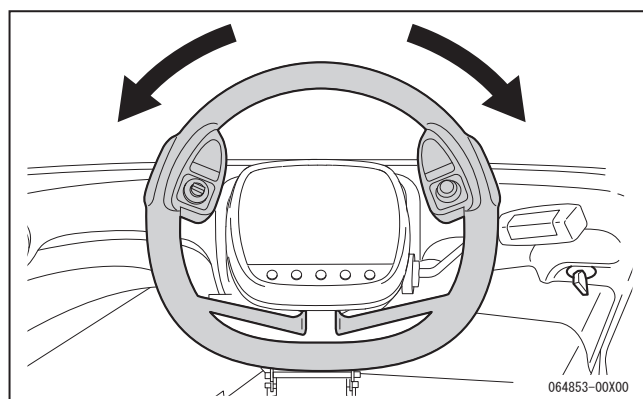


図 2-193

マルチハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約 1/4 回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。

さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転しはじめ、約 135° でスピントーンの状態になります。

◆ ハンドル切れ角と旋回状態

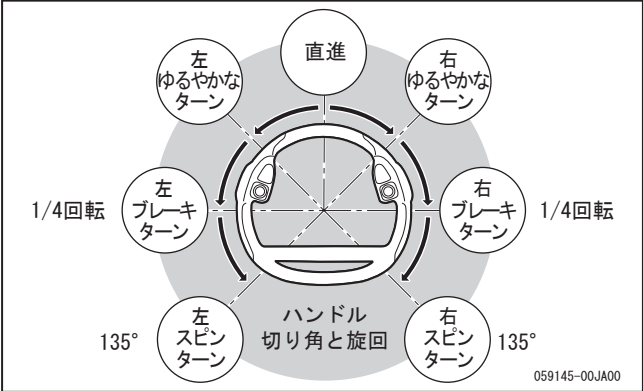


図 2-194

◆ 旋回モードの切り替えについて

旋回モード切替スイッチで、旋回モードを切り替えることができます。

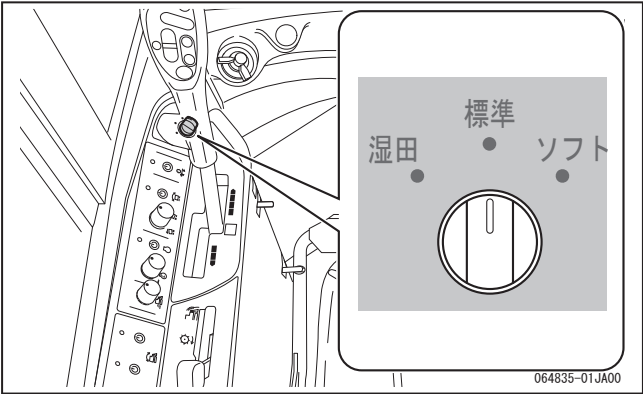


図 2-195

- 「標準モード」位置…… 旋回時に自動減速がはたらかき、小回り（スピントーン）ができます。
- 「ソフトモード」位置… 旋回時に自動減速がはたらかき、「標準」と「湿田」の中間的な旋回ができます。
- 「湿田モード」位置…… 旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

《 参考 》

「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、作業機の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

表 2-21 旋回モード

	標準モード	ソフトモード	湿田モード
旋回時の減速	減速する	減速する (標準モードより小)	減速しない
ノークラッチ 副変速ボタン 「作業」での旋回	スピントーン する (小回り)	スピントーン しない (ブレーキ ターンする) (中回り)	スピントーン しない (大回り)
乾田での旋回	◎	○ ほ場の荒れを 少なく作業す る場合に使用	△ 旋回が大回り なので、操作 性が鈍感
湿田での旋回	○	○	◎ 旋回時に減 速しないの で、湿田で の旋回力大
移動走行	◎	○	× (使用不可) ※1
車庫入れ	◎	○	× (使用不可)

※1 副変速：走行では湿田モードは使用できません。
(標準モードとして作動します。)

2.7.4 停車・駐車のしかた

警告

- 駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてクローラに車止めをしてください。
- オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置になっていることを確認してください。
- 作業機から離れるときは、必ずキーを抜いてください。

※ 作業機が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

停車のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にします。作業機が停止したことを確認します。

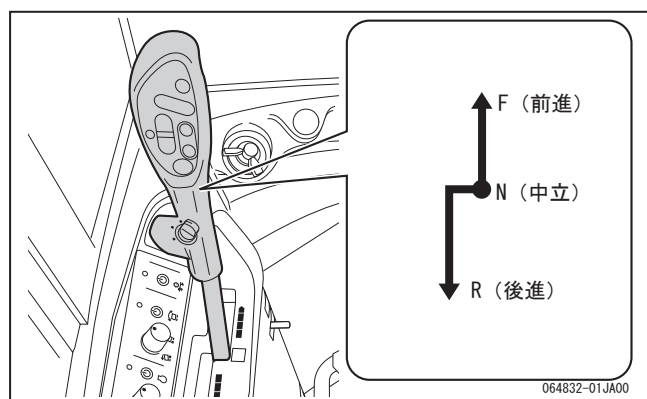


図 2-196

2. 駐車ブレーキをかけます。

3. アクセルダイヤルを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。

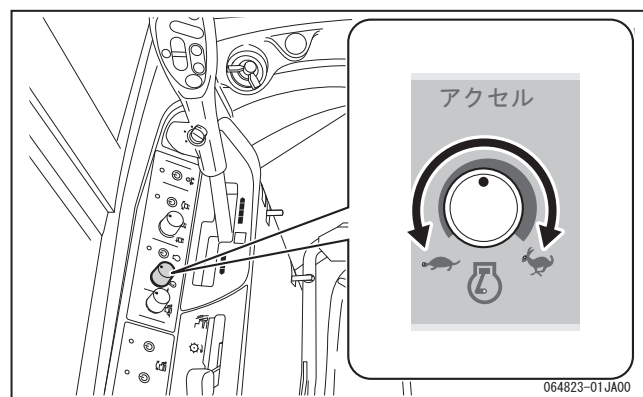


図 2-197

4. キースイッチを「切」位置にします。エンジンが停止します。

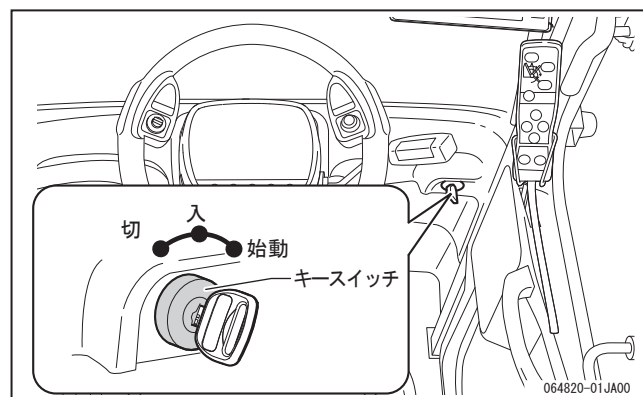


図 2-198

駐車のしかた

⚠ 警告

● 坂道の途中では駐車しないでください。

1. 平たんで安全な場所に作業機を移動します。
2. ステアリング右スイッチ (1) を「下」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) を「下」側にします。刈取部を地面に接地させます。

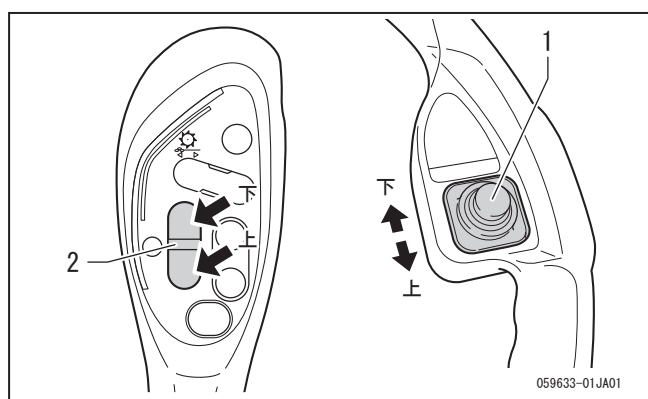


図 2-199

3. エンジンを停止します。(99 ページ)
4. セフティペダルをいっばいに踏み込みます。

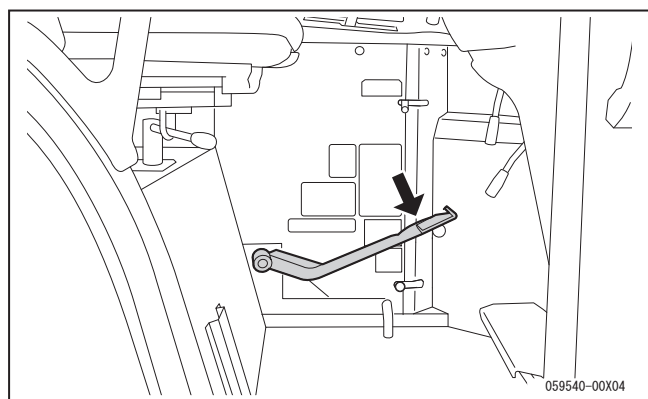


図 2-200

5. 駐車ブレーキロックレバー (1) を手前に引いて、セフティペダル (2) にフック部 (3) をかけると、駐車ブレーキがかかります。

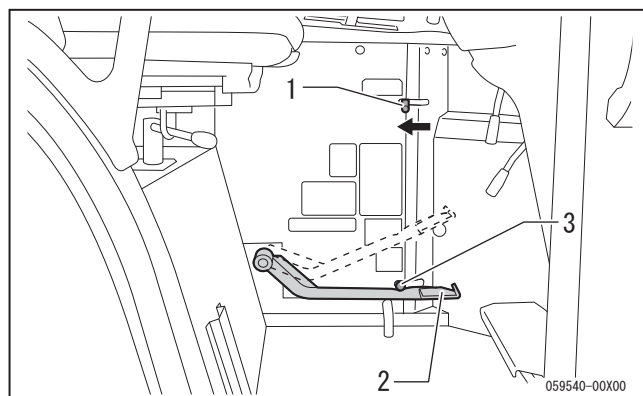


図 2-201

6. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いておきます。

《 参考 》

駐車ブレーキをかけると、オールマイティシフトレバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

2.7.5 移動走行のしかた

！ 警告

- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチ、および自動スイッチを「切」にしてください。自動ランプが消えていることを、確認してください。

※ 急に刈取部が上下に動き、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 作業機が前後・左右とも 11 度を越える傾斜地は走行しないでください。

※ 転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 安全のために、ヘルメットを着用してください。

- 狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっているところは、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。

- エンジン始動時、異常がないことを確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。

※ それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA（農協）にご相談ください。

！ 警告

- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。
- 移動走行中は、作業灯を点灯させないでください。他の交通の妨害になります。

！ 注意

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。

《 重要 》

移動走行する場合は、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。

《 参考 》

移動走行時に、マルチハンドル部のフィットステアリング機能は作動しません。

作業機の走行姿勢について

1. プレクリーナーが下がっていることを確認します。(100 ページ「発進前の準備」)
2. 左右の分草板に、分草板カバー(1)の取付バネ(2)を図のようにかけて、分草板先端に分草板カバーを取り付けます。

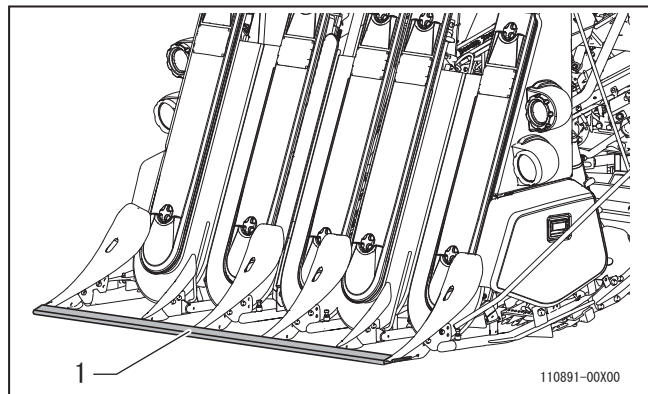


図 2-202

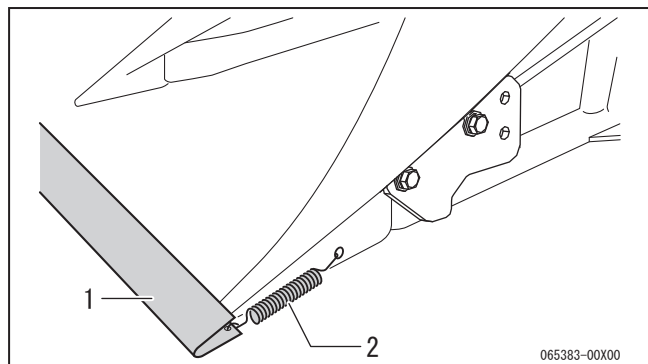


図 2-203

《 参考 》

分草板カバーの取付バネを分草板にかけてから、カバーを分草板に取り付けると容易に行えます。

3. サイドデバイダレバー(1)を「収納」位置にして、サイドデバイダ(2)を収納します。

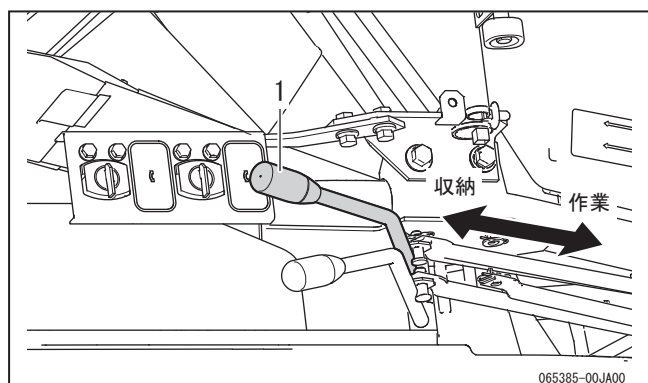


図 2-204

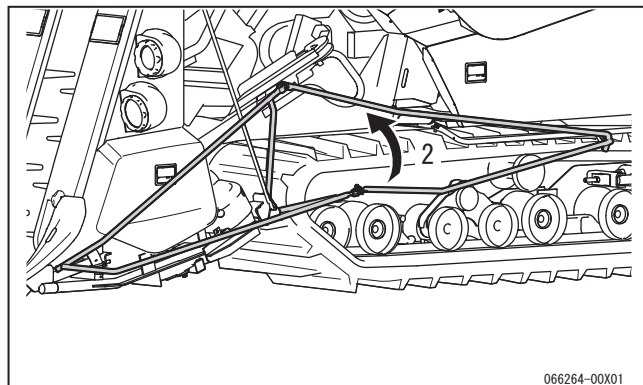


図 2-205

4. 車高が最下位置にあることを確認します。(UFO 昇降スイッチを前方に倒すと、車高は低くなります。(35 ページ))
5. エコモードスイッチ(1)を「切」(エコランプ消灯)(2)にします。

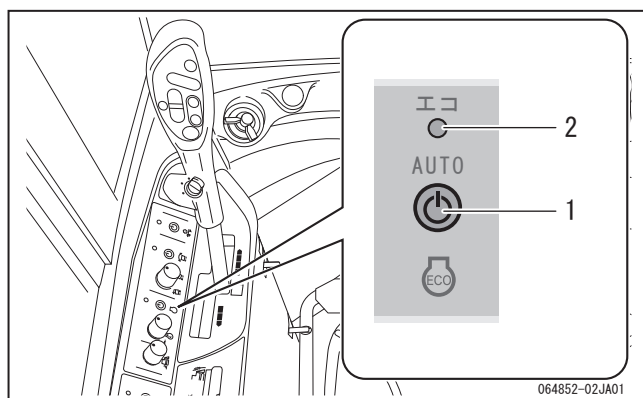


図 2-206

《 参考 》

エコモードスイッチが「入」(エコランプ点灯)のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エコモードがはたらき、瞬時にエンジン回転が定格回転(グリーンゾーン)になります。このとき、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

6. 旋回モード切替スイッチを「標準モード」にします。

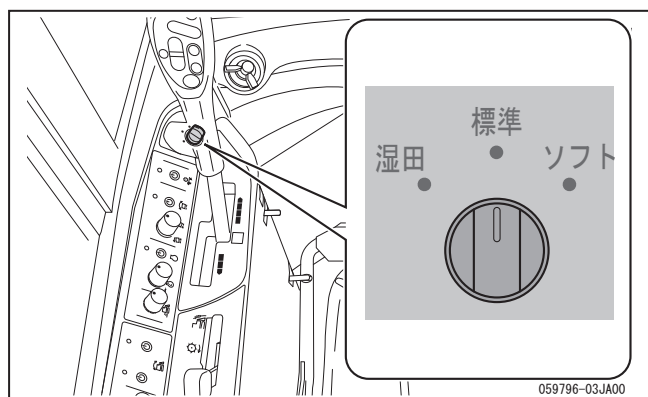


図 2-207

移動走行操作のしかた

1. 乗降ステップを収納します。(53 ページ)
2. エンジンを始動します。(96 ページ)
3. 駐車ブレーキを解除します。(48 ページ)
4. アクセルダイヤルを「高」位置にします。エンジン回転が上がります。(エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置に調節します。)

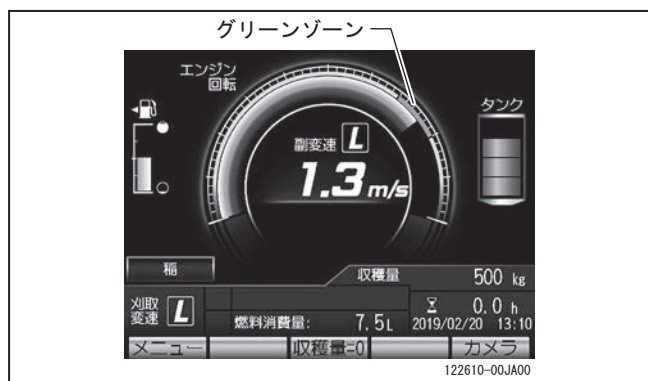


図 2-208

5. ステアリング右スイッチ (1) 「上」側、またはオールマイティシフトレバー (2) の刈取昇降スイッチを「上」側にして、刈取部を地面から 20cm 程度上げます。

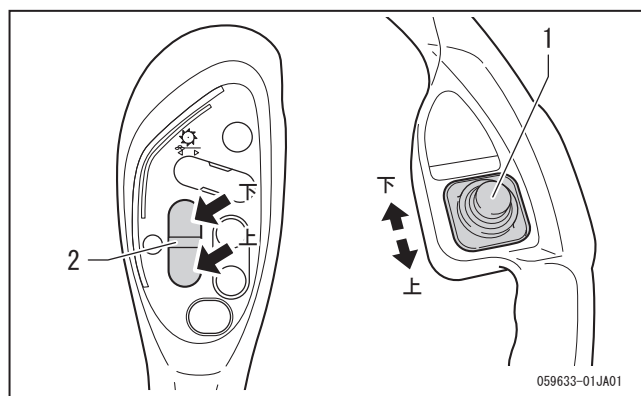


図 2-209

6. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にします。

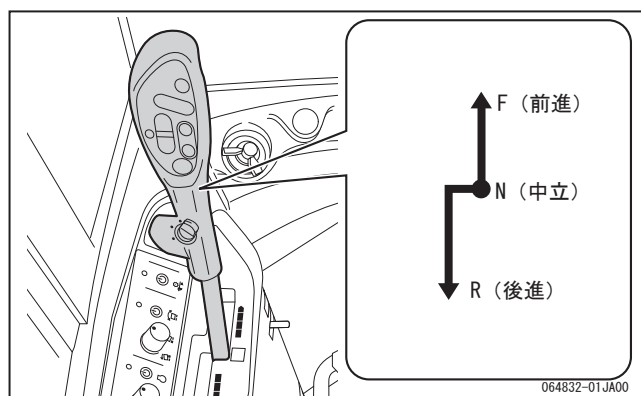


図 2-210

7. 副変速レバーを希望の位置にします。

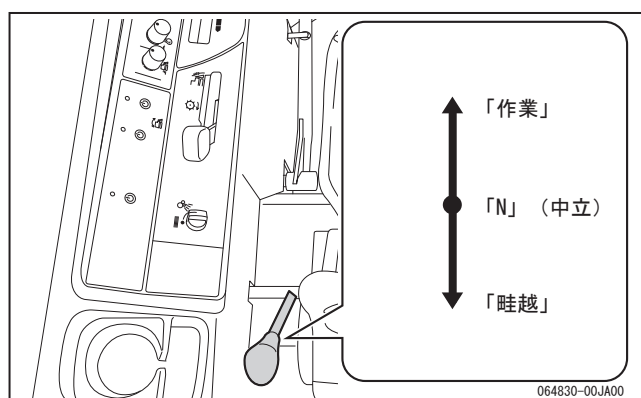


図 2-211

《 参考 》

- セフティペダルを踏み込まなくても変速できます。
- 高速で移動するときは、ノークラッチ副変速ボタンを押して、「H（走行）」にしてください。

8. オールマイティシフトレバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げます。

《 重要 》

- 走行速度は、オールマイティシフトレバーで調節してください。
- エコモードを切って走行する場合は、エンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。
- 移動走行中は、作業灯を点灯させないでください。他の交通の妨害になります。

2.7.6 夜間運転のしかた

《 重要 》

夜間運転時、ヘッドライト、作業灯、エアコンをつけたままで、長時間エンジン低回転域で使用することは、さけてください。バッテリーの早期消耗にいたり、エンジンの始動ができなくなることがあります。

2.7.7 エアコンの使いかた

《 重要 》

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJA(農協)で点検を受けてください。

暖房・冷房・除湿のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチ(1)を希望の風量位置にセットします。

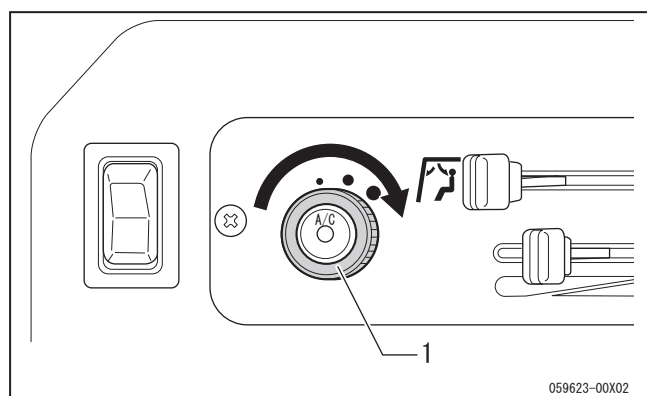


図 2-212

- 「L」位置 …… 弱風
 「M」位置 …… 弱風と強風の間
 「H」位置 …… 強風

3. 温度コントロールレバー(1)とエアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」ができます。

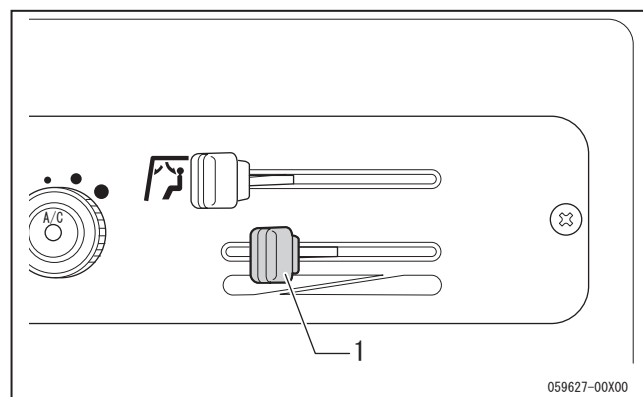


図 2-213

エアコンスイッチを押すことにより、コンプレッサの運転・停止が切り替わります。

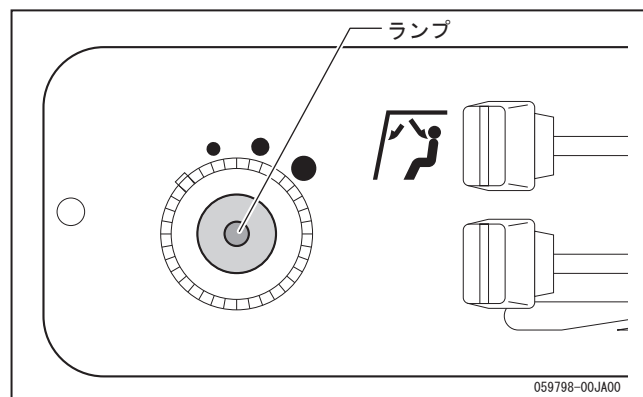


図 2-214

「ON」(ランプ点灯) …… コンプレッサ運転
 「OFF」(ランプ消灯) …… コンプレッサ停止

◆ 暖房にするとき

レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にします。

◆ 冷房にするとき

レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯)にします。

◆ 除湿にするとき

レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯)にします。
 内気・外気切替レバーを「外気」側にします。
 (57 ページ)

温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かします。

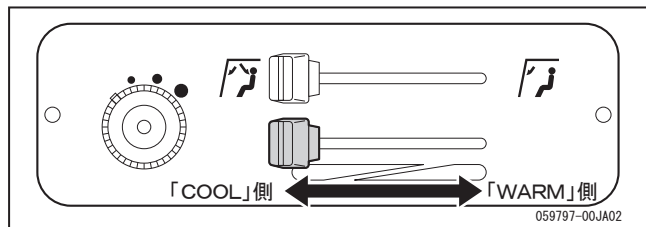


図 2-215

風吹出口の切り替えかた

吹出口切替レバーで温風・冷風の吹出口を切り替えます。

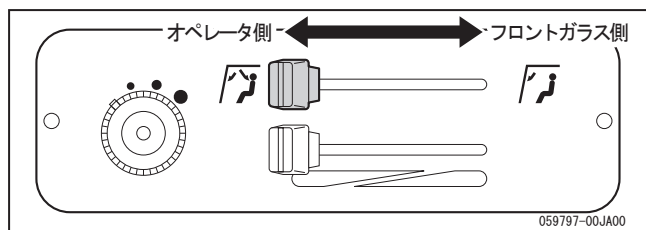


図 2-216

- ・「オペレータ側」にすると
後方の吹出口風向グリルより、オペレータ側に吹き出し量が増えます。(フロントガラス側は少なくなります。)
- ・「フロントガラス側」にすると
前方の吹出口風向グリルより、フロントガラスに向って吹き出し量が増えます。(オペレータ側は少なくなります。)
ガラスが曇っているときや凍結しているときに使用してください。

エアコン吹出口の風力調節のしかた

◆ 前方側

吹出口の風向グリル (1) を矢印の方向 (右回転) (2) に回すと風量が少なくなり、反対の方向に回す (左回転) (3) と風量が多くなります。

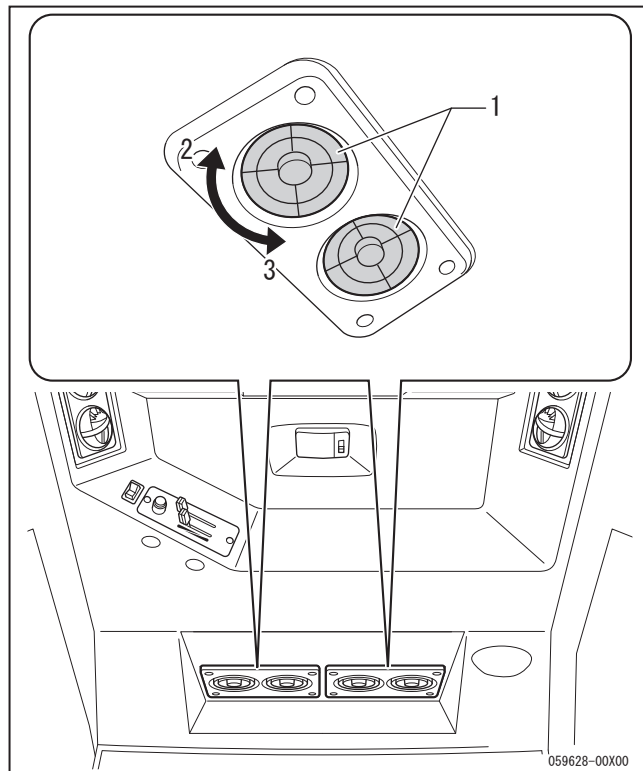


図 2-217

◆ 側面左右側

吹出口の風向グリル (1) をお好みの向きにして使用します。風量調節はできません。

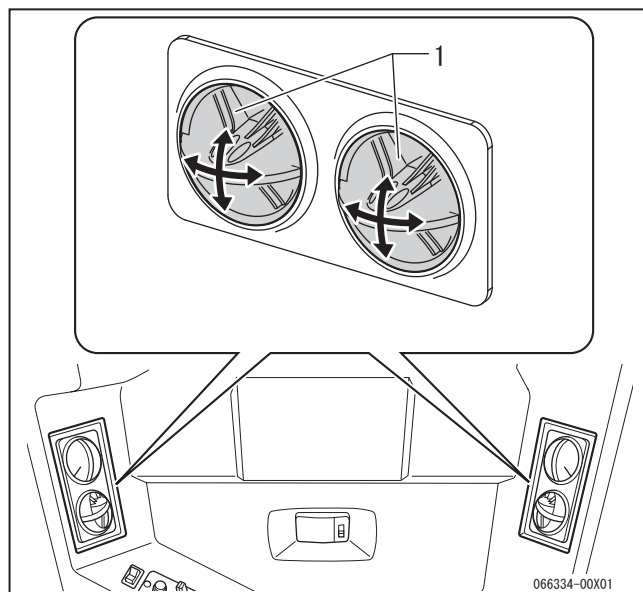


図 2-218

3. 作業のしかた

3.1 刈取作業前の準備

3.1.1 刈取作業ができる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の長さ

刈り取りに適する長さは、標準の刈高で稈長 65 ～ 150cm です。

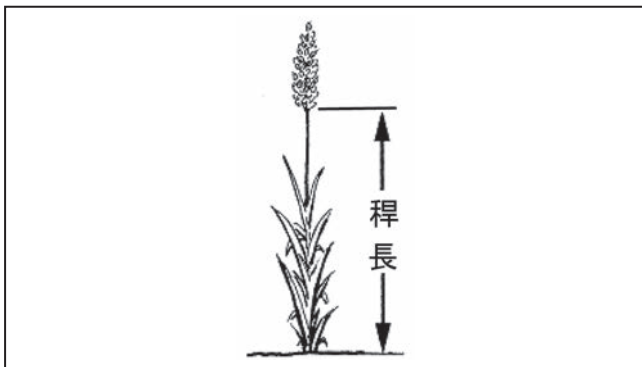


図 3-1 作物の長さ

◆ 作物の長さが 70cm 以下の場合

分草板の先端を、地面すれすれの位置まで下げて刈り取ってください。

作物の水分

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、選別が悪くなることがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎も乾いてから刈り取ってください。

やむをえず、ぬれている作物を刈り取る場合は、作業の状態を見ながらつぎの調節を行ってください。

作物が病虫害にかかっている場合

病虫害にかかっている作物は、ペーラ処理がしにくい場合がありますので、刈取変速を「高速」位置にして作業してください。

《重要》

- 作物の種類、収穫時期、条件によって刈取りロスが発生したり、刈取困難になる場合があります。
- 倒伏状態により作物の搬送姿勢が悪くなると

切断長が長くなるおそれがあります。

- 作物のぬれ…乾いていること。（手でしごいてぬれない状態）
- 湿田や倒伏でぬれた作物を収穫すると、雑菌が混入し発酵品質が悪くなることがあります。

作物の刈取方向

作物の倒伏状態によっては、刈取方向が限定されます。

向い刈り…倒伏角 70° まで

追い刈り…倒伏角 85° まで

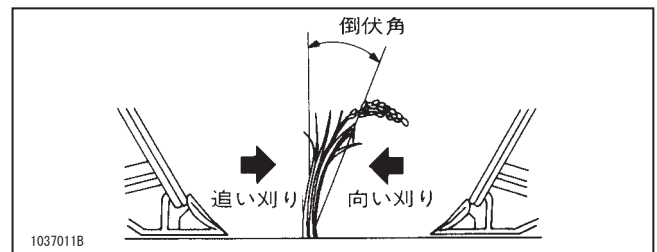
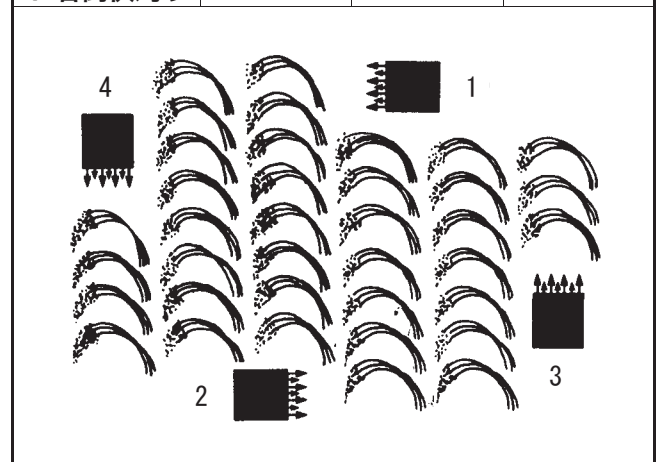


図 3-2

表 3-1 作物の刈取方向

（副変速「低速」）

倒れ具合	完全倒伏 の場合	中倒伏 の場合	やや倒伏 の場合
刈る方向は			
1 追い刈り	△	○	◎
2 向い刈り	×	△	△
3 左倒伏刈り	△	△	○
4 右倒伏刈り	×	△	△



◎…刈り取り OK

○…注意しながら刈り取る

△…注意しながらゆっくりと

×…刈取困難

※ 速度の選定は、作物の状態によって決めてください。

3. 作業のしかた

3.1.2 刈取作業ができるほ場の条件について

足の沈み（10cm）以下までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡はできるだけ通らないようにします。

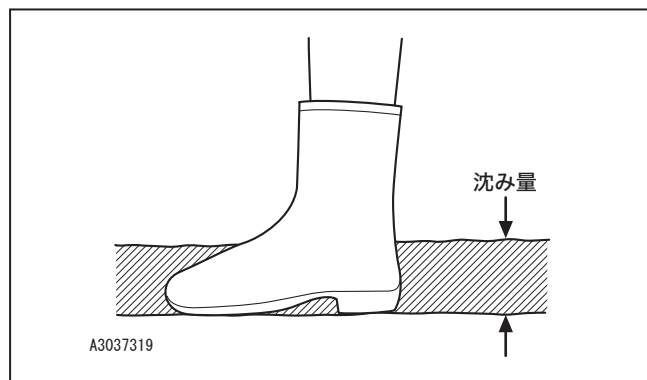


図 3-3 沈み量

《重要》

沈み量が 10cm 以上の悪条件で作業した場合は、作業終了後ただちに点検・掃除・注油を行ってください。そのまま作業を続けていると、刈刃や下部搬送などに泥が詰まり、刈刃や下部搬送の駆動系が破損したり、耐久性が著しく低下する原因になります。

このような条件でも刈取作業はできますが、ベールを放出する時、ベールに泥が付くことで雑菌が混入し、サイレージの品質が悪くなります。条件の良い場所に放出するようにしてください。

《参考》

作業能率を良くするためには、ほ場の水抜きを早めに行い（刈取の約 2 週間前）ほ場を乾いた状態にする事が大切です。

刈取作業が行えるほ場のぬかるみの沈み量は、土の性質によって変化します。

3.1.3 作業機の準備のしかた

！ 警告

- 各部の準備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

※ 回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

！ 注意

- 外したカバー類は、調節後、必ず元通りに取り付けてください。

プレクリーナーの準備

作業するときは、プレクリーナーを上げた状態にします。

1. ホースバンド（1）をゆるめます。

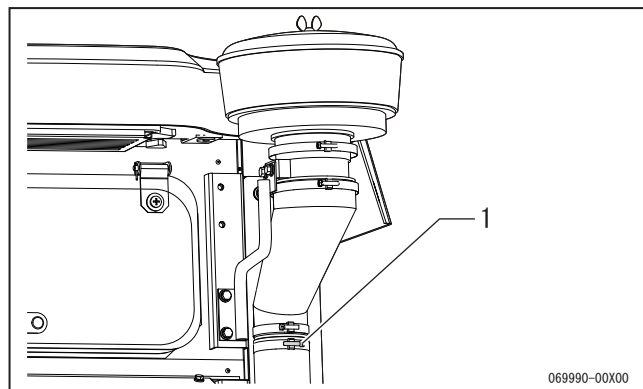


図 3-4

2. ボルト (1) (2 本) を外し、プレクリーナー (2) を上げます。

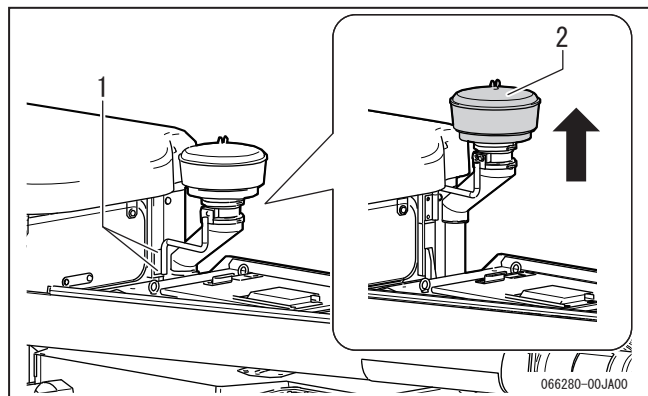


図 3-5

3. ホースバンドおよびボルト (2 本) を締め付けます。

サイドデバイダの準備

サイドデバイダを作業位置まで出します。

1. サイドデバイダレバー (1) を「作業」位置にします。

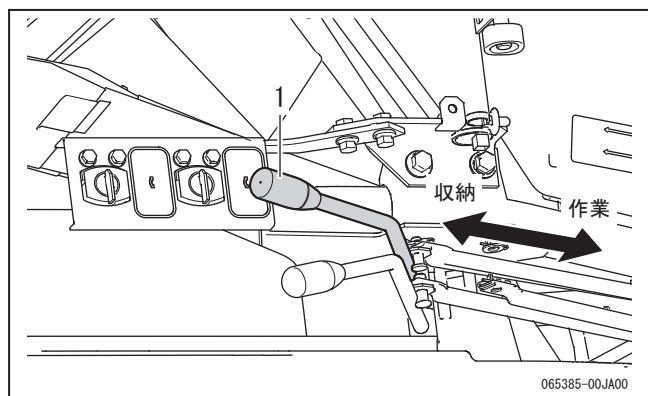


図 3-6

2. サイドデバイダ (1) を作業位置 (2) にします。

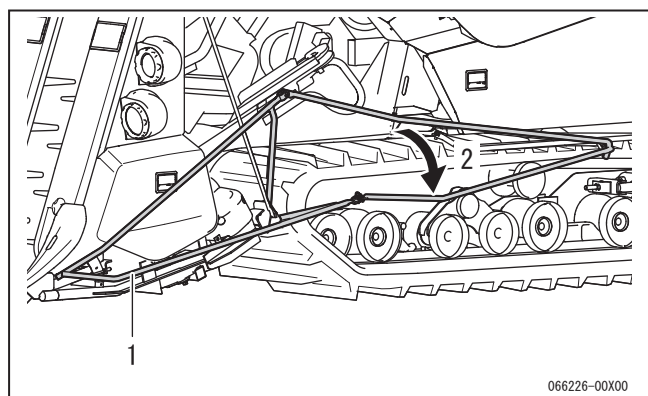


図 3-7

刈刃・チェンへの注油

作業前に集中注油装置で、刈刃や各チェンに注油します。(157 ページ)

倒伏作物に合わせた調節のしかた

分草板先端位置を下位置にします。

《 参考 》

分草板の先端は、すべて同じ高さにしてください。

◆ 分草板小の調節

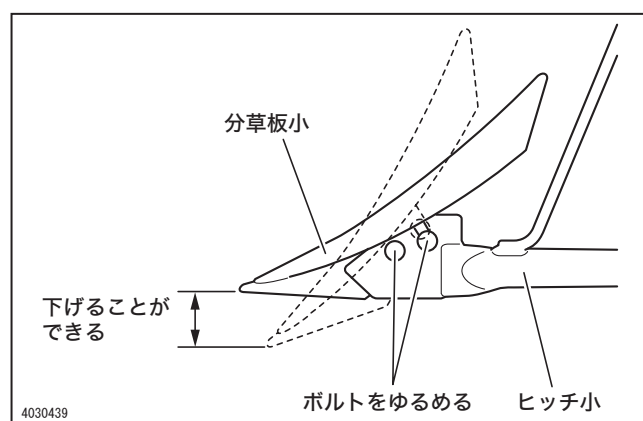


図 3-8 分草板小の調節

◆ 分草板大の調節

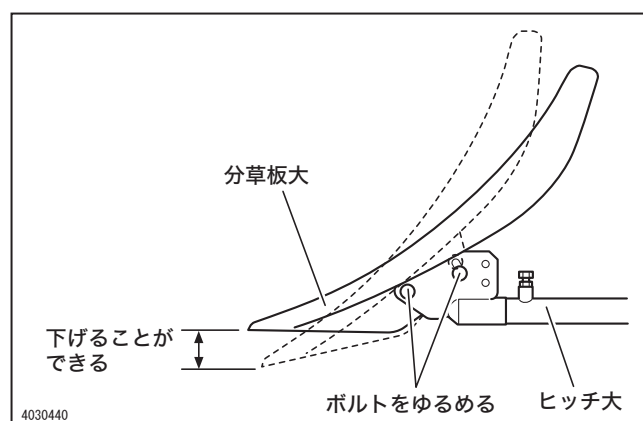


図 3-9 分草板大の調節

3. 作業のしかた

作物の状態に合わせた引起しタインの調節のしかた

作物の状態に合わせて、引起しタインの作用長を調節します。

・ 調節箇所は 5 カ所

長稈作物の場合

… 「外」 位置

短稈で引起しタインでの稈の浮き上がりが多い場合

… 「内」 位置

脱粒しやすい品種の場合

… 「内」 位置

◆ 引起しタインの調節のしかた

1. 引起しケースカバーを外します。(144 ページ)
2. 引起しケースの中にある、補助タインガイド (1) のボルト (2) (2 本) をゆるめます。

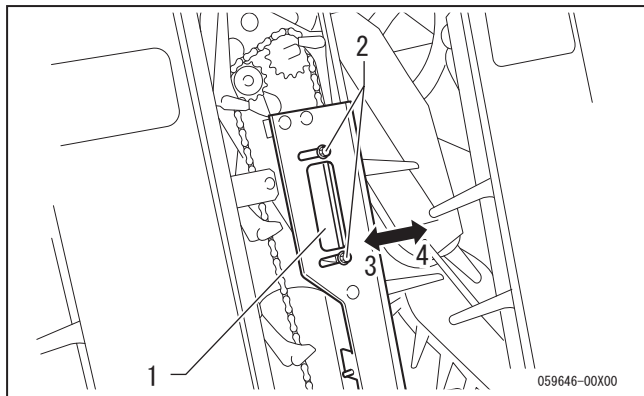


図 3-10

3. 補助タインガイドを「内」位置 (3)、または「外」位置 (4) に調節します。
4. 補助タインガイドをボルト (2 本) で固定します。
5. 引起しケースカバーを取り付けます。

《 参考 》

出荷時は、引起しタインの作用長が長い「外」位置 (長稈作物用) にセットされています。

刈刃高さの調節のしかた

⚠ 警告

- 刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。

※ 固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 刈刃高さ調節をするときは、厚手の手袋を着用し、2 人以上で行ってください。

※ 不用意に刈刃に触ると、けがをすることがあります。

この作業機は刈刃の高さを変えて、刈り高さを調節できます。

◆ 調節のしかた

《 参考 》

刈刃は、中央部で分割されています。片側ずつ外してください。(中央部のボルトは、ゆるめるだけで外す必要はありません。)

1. カラー位置を変えて組み込みます

刈刃高さ高側（出荷時）

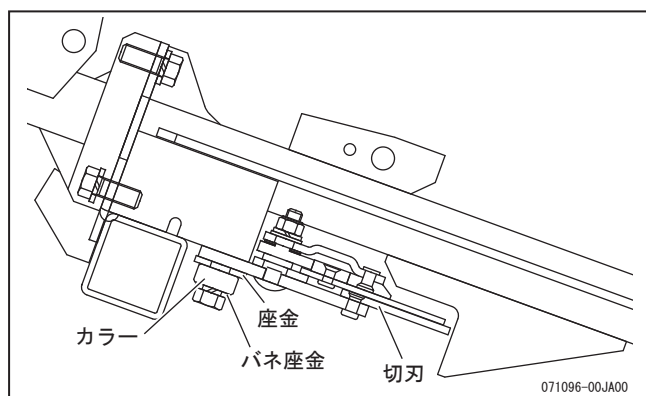


図 3-11

刈刃高さ低側

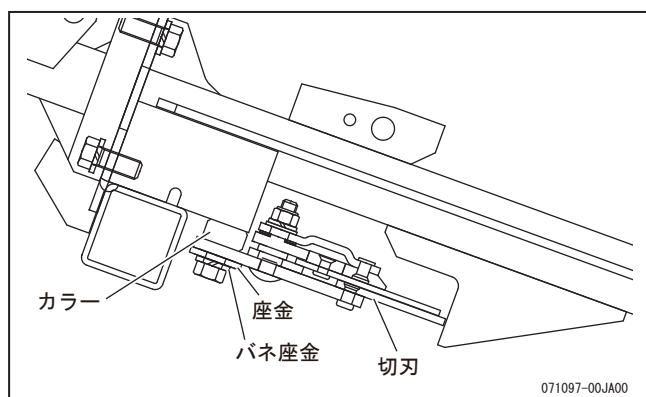


図 3-12

3.1.4 ほ場への出入りのしかた

! 警告

- 急な坂道は走行しないでください。
やむなく走行する場合は、つぎの方法に従ってください。

※ 進行方向や速度を誤って転倒し、
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- ・ 副変速レバーを「畦越」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にしてください。
- ・ あぜに対して直角に出入りしてください。
- ・ 10cm 以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。

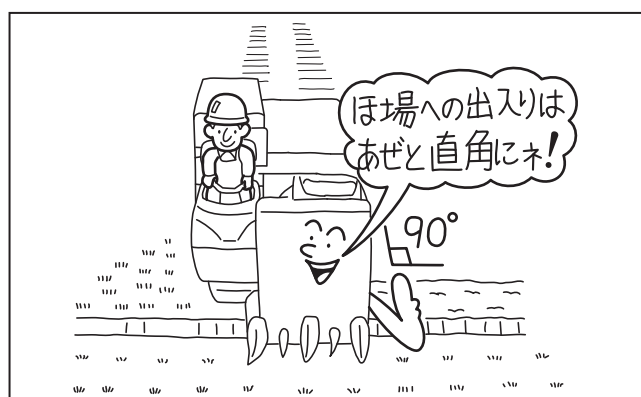


図 3-13

3. 作業のしかた

〈急な坂道の場合〉

表 3-2 進行方向

	進行方向
登り	前 進
降り	後 進

・ 移動速度

副変速レバーを「畦越」位置、オールマイティシフトレバーは最低速でゆっくり登り降りしてください。

！ 警告

- アユミ板の上では、ハンドルを持たずにアシストバー（1）を持ってください。

※ハンドルを持っていると、作業機の重心が変わったときに思わずハンドルを切ってしまい、思わぬ方向に旋回し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

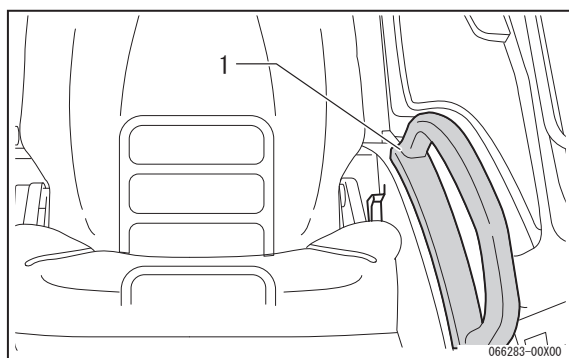


図 3-14

3.1.5 バック・ベール排出モニターについて

エンジン始動時や狭い納屋での格納時、ほ場の四隅や枕地での切り返し時に、作業機後方の状況が確認できません。

3.2 作業について

3.2.1 刈取操作のしかた

危険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

※ 回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触などにより、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

警告

- 後進するときは、後方の安全を確認し、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業クラッチレバー・スイッチをすべて「OFF」または「切」位置にしてから点検してください。

- わらくずを取り除く場合や、排わらが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業クラッチレバー・スイッチをすべて「OFF」または「切」位置にしてください。

- 2人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図し合ってから行ってください。

※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 刈取部の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

※ 万一、刈取部が下がったときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- わき見、手放し運転はしないでください。

作業の手順

ほ場に入った後の作業の手順について説明します。

1. ステアリング右スイッチ (1) を「下」側、またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) を「下」側にします。刈取部が下がります。

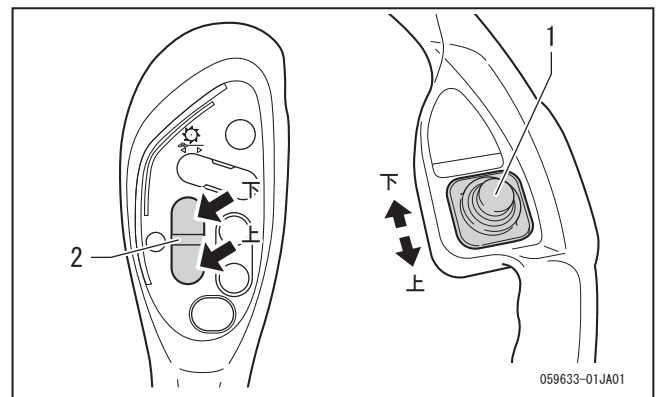


図 3-15

《 参考 》

- ・ 刈取部の位置は、分草板先端をほ場表面から 5 ～ 10 cm の高さにしてください。
- ・ 倒伏および短い作物の場合の刈取部の位置は、分草板先端を地面すれすれに調節してください。

3. 作業のしかた

2. 引きし変速レバーを作物条件に合わせて、「低速」・「標準」位置のいずれかにします。

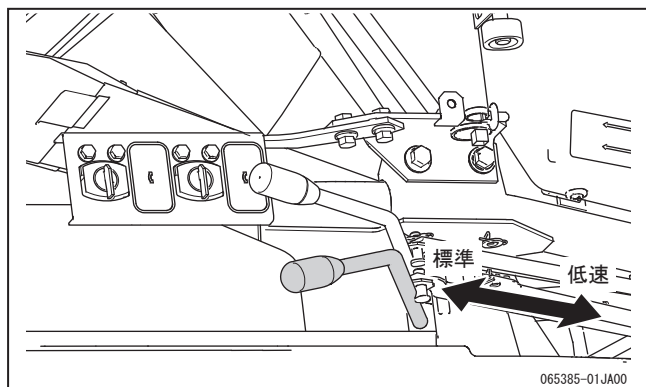


図 3-16

《重要》

引きし変速レバーを操作するときは、刈取部を低速で作動させながら操作してください。

3. 副変速レバーを「作業」位置に入れます。

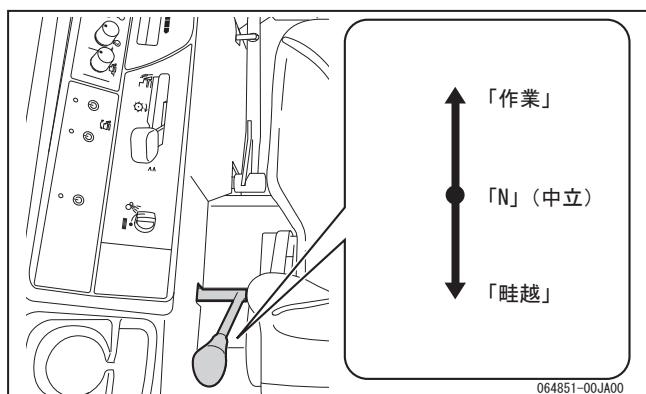


図 3-17

4. ノークラッチ副変速ボタンは「L (作業)」、ノークラッチ刈取変速ボタンは、作業の状態に合わせて「L (標準)」または「H (高速)」を選択します。(124 ページの「作業速度の選びかた」を参照)

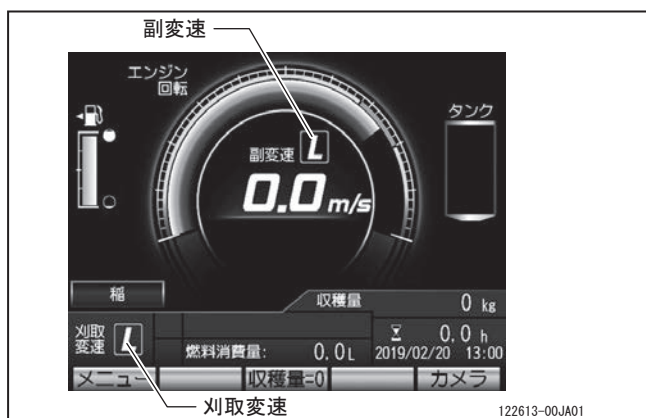


図 3-18

5. アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置 (1) を示すように調節します。または、エコモードスイッチ (2) を「入」(エコランプ点灯) (3) にします。

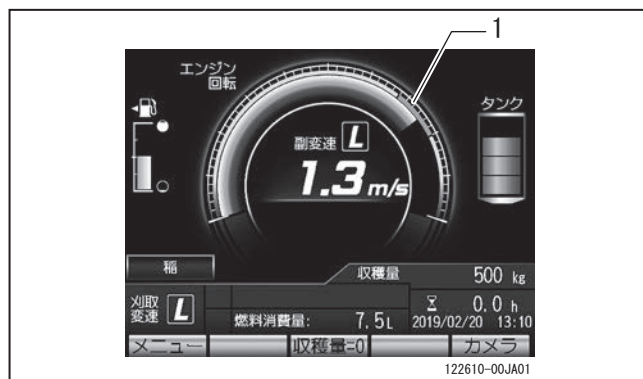


図 3-19

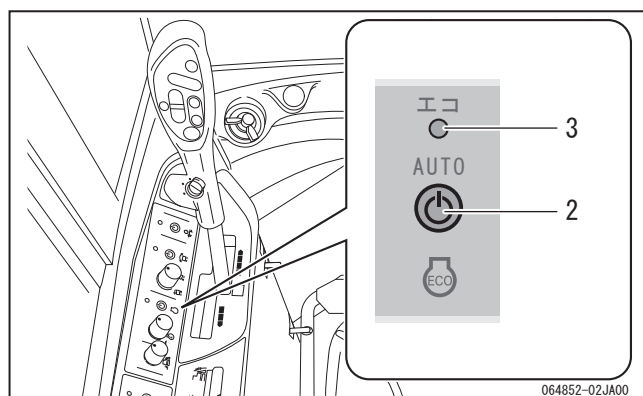


図 3-20

《重要》

センターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」の位置より低い、または高いとつぎの現象が発生します。

「グリーンゾーン」位置より低いとき

- 選別が悪くなる。
- こぎ残しが多くなる。
- 能率が上がらない。
- ベーラ部の内部に詰まりが発生する。

「グリーンゾーン」位置より高いとき

- 脱ぶやロスが多くなる。

6. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。

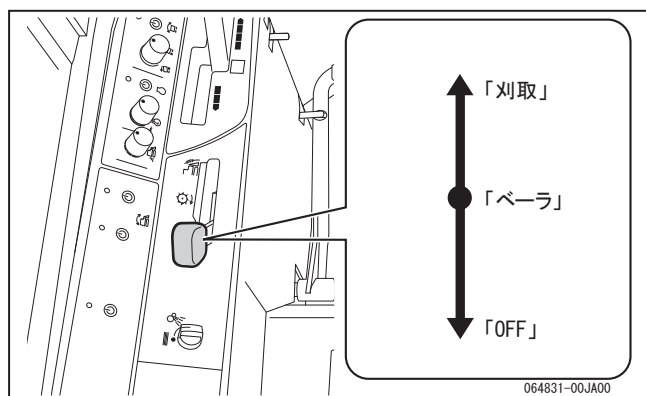


図 3-21

7. こぎ深さ調節スイッチで、こぎ深さを稈長に対し、やや深めにセットします。

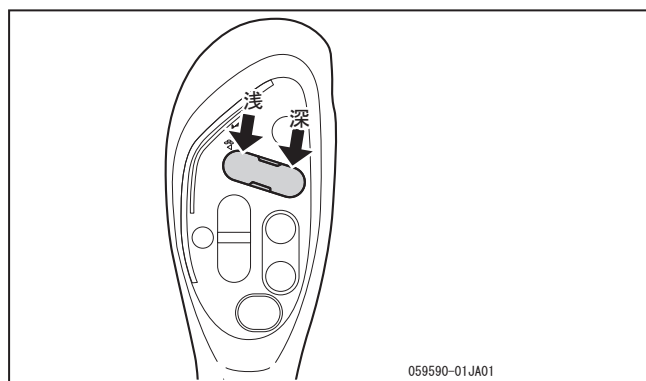


図 3-22

8. オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」側に倒して、刈りはじめます。

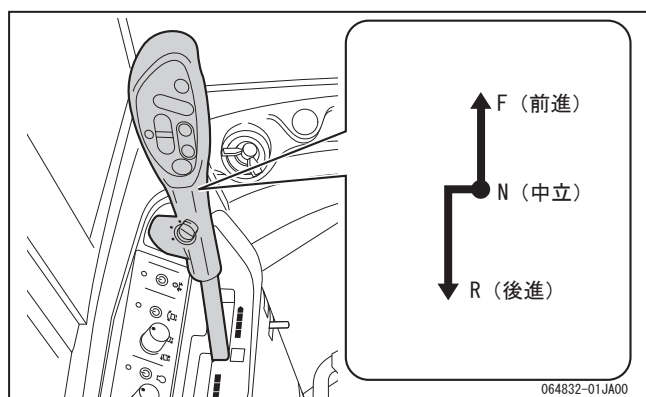


図 3-23

9. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで作業速度を調節します。

10. 刈り終わったら、つぎの操作をします。

- 1) 作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。
- 2) エンジンを停止します。(99 ページ)

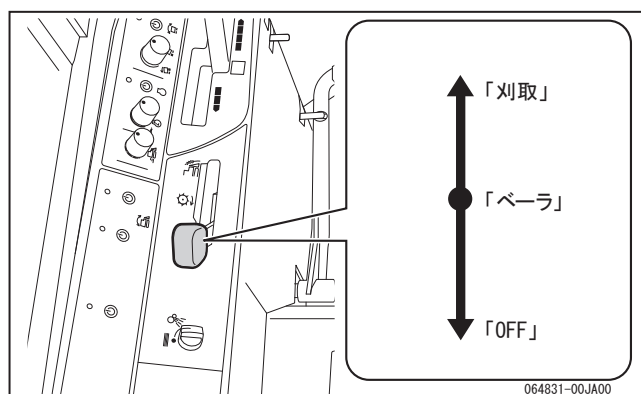


図 3-24

3. 作業のしかた

作業中の条合わせのしかた（ステアリング右スイッチの使いかた）

ステアリング右スイッチは、刈取作業中の条合わせなど微妙な方向修正、ゆるやかに旋回したいときに使用します。

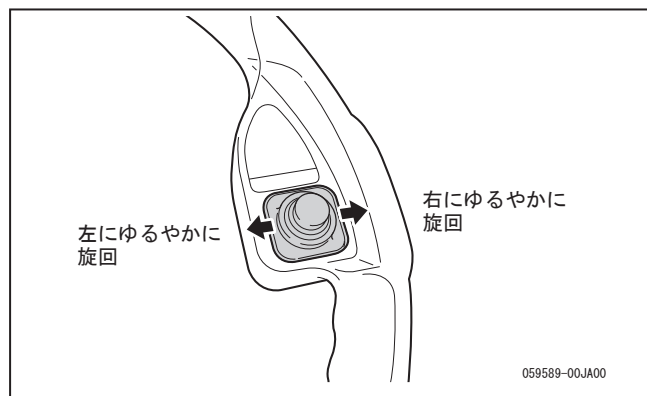


図 3-25

《 参考 》

ステアリング右スイッチでの旋回操作は、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときにのみ作動します。

湿田ほ場の刈り取りかた

- ・ 作業機が後傾する場合は、分草板先端を下げて使用します。(115 ページ)
- ・ 刈刃が泥をすくわないように、刈刃高さを調節します。(116 ページ)

《 参考 》

- ・ 超湿田作業で旋回しにくいときは、マルチハンドルを切りすぎている場合があります。ハンドルの切れ角を小さくして、旋回半径を大きくとってください。スピントーン状態になると、思うように旋回できません。
- ・ 湿田作業でコンバインの沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替スイッチを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。(43 ページ)

倒伏作物の刈り取りかた

- ・ 刈高さは、刈り残しのないように地面すれすれに調節します。
- ・ 作業速度は刈り残しの出ない範囲で、できるだけ遅く刈り取ります。
- ・ 倒伏追い刈りでは、ノークラッチ刈取変速ボタンを押して、刈取変速を「高速 (H)」にすると、作業速度を落とさずに作業ができます。

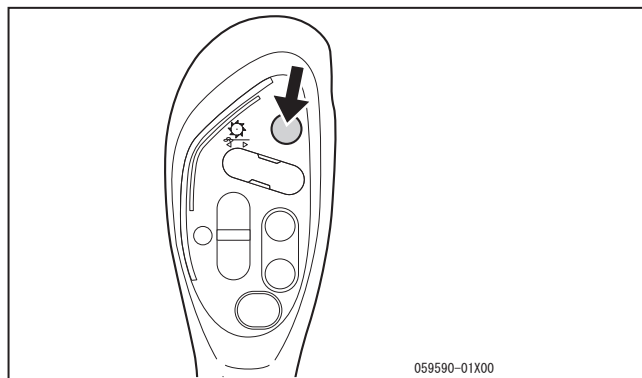


図 3-26

- ・ 刈取方向は、「作物の刈取方向」を参照してください。(113 ページ)

《 参考 》

刈刃で泥をすくわないように注意してください。刈り残しや株の引き抜きの原因になります。

刈取クイックペダルの使いかた

刈りはじめや枕刈りなどで、前進・後進を繰り返して刈り取りを行うときに、刈取クイックペダルを踏むと、作業機が「停止」または「後進」状態でも、刈り取られた稈が高速で搬送され、未刈稈とのもつれがなくなりきれいに刈り取ることができます。

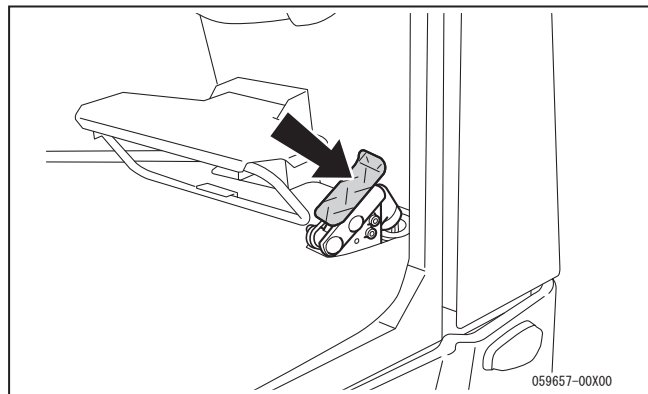


図 3-27

《重要》

- 刈取部で詰まりが発生したときには、刈取クイックペダルを使用しないでください。使用すると、詰まりを悪化させ、刈取部のタイヤが変形・破損するおそれがあります。刈取部で詰まりが発生したときは、エンジンを停止して、詰まりを取り除いてください。
- 倒伏作物の刈り取りなどで、刈取部での搬送が乱れ、刈取部に詰まるおそれのある場合には、刈取クイックペダルで無理に搬送させないでください。刈取部が速く回るため、タイヤなどを破損するおそれがあります。
- 刈取クイックペダルを踏み続けても、5 秒後には刈取部とフィードチェンの駆動は停止します。

作業中の方向転換

刈り取っている条が終わり、作業機を方向転換する場合は、ステアリング右スイッチ (1) またはオールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチ (2) で、刈取部が刈株や排わらを引っかけない程度 (10～15cm) に上げます。

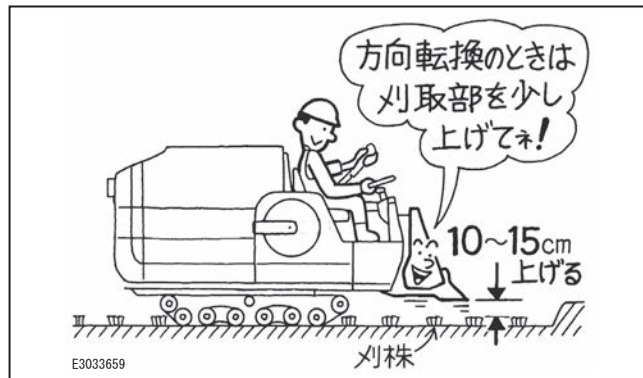


図 3-28

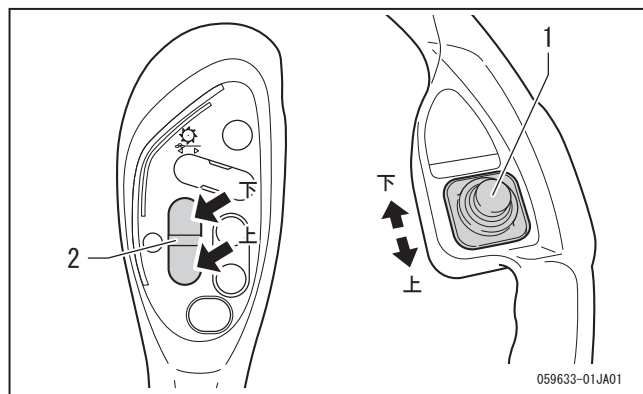


図 3-29

《重要》

刈り取りが終了した旋回中でも、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしたり、エンジン回転を下げないでください。ベアラ部では、作物の処理が続いています。

《参考》

刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇し刈取クラッチが停止します。(127 ページ)

3. 作業のしかた

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、つぎのレバー、ボタンで最適な状態で作業をします。

- ・ 副変速レバー
- ・ ノークラッチ副変速ボタン
- ・ ノークラッチ刈取変速ボタン
- ・ 引起し変速レバー

表 3-3 作業速度の選びかた

引 起 行 し 速 度 に 対 す る	使用条件 (作物の状態)	変速レバー位置			
		副 変 速 レ バ ー	副 変 速 ボ タ ン	刈 取 変 速 ボ タ ン	主 変 速 レ バ ー
遅い ↑	1 脱粒しやすい品種を刈り取る場合。	作業(L)	標準(L)	低速	「N」から発進。刈取作業を行い、稈の搬送状態、およびエンジン馬力の余裕に応じて順次速度を上げていく。
	2 倒伏向刈りなどで株抜けや、稈の浮き上がりが目立つ場合。				
	3 根腐れや根付きが悪く、株抜けが発生する場合				
標準	1 直立・半倒伏の場合			標準	
↓ 速い	1 倒伏追い刈りなどで穂先が極端におくれている場合。または整然と搬送されない場合。			標準	
	1 全倒伏の場合。			高速(H)	標準
	2 周囲刈りで、低速作業をする場合。 3 稈のボリュームが多く、ペーラ部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。				
	1 移動走行 2 長距離の回行	走行(H)	—	—	レバーをゆっくり倒して、適当な速度で保持してください。
	1 積み・降ろし	畦越え	—	—	エンジン定格回転で微速

《重要》

副変速レバーを「畦越」位置にして、刈取作業をしないでください。搬送姿勢が乱れて、詰まりが発生する可能性があります。

3.2.2 警報装置が作動したときの処置のしかた

警告

- 詰まりなどを取り除く場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェーン部に手を入れないでください。
※ 傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 排わら部の清掃は、カッタ刃に十分注意してください。回転刃へのわらの巻き付きや詰まりを取り除くときは、厚手の手袋を着用し、少しずつ取り除いてください。
※ 素手で取り除くと、刃先に触れて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中の各部の状態に異常があった場合は、異常箇所を警報表示（センターディスプレイ下部）とブザーで知らせます。「不調診断のしかた」（229 ページ）に従って確認し、処置をしてください。

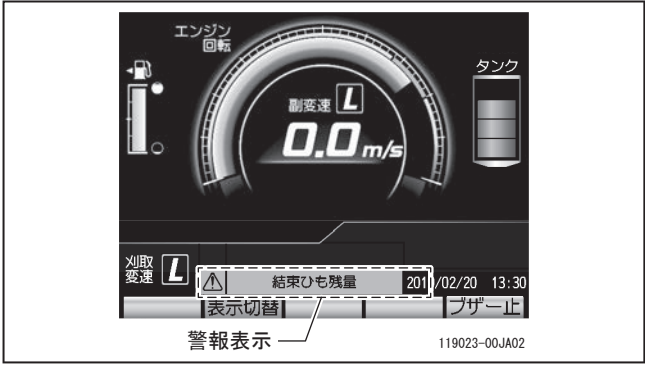


図 3-30

3.2.3 自動装置について

刈取作業を行う前に、自動装置について説明します。
自動装置を使うと、能率よく作業が行えます。

車体水平制御（UFO）装置

警告

- 路上や傾斜地での走行、およびトラックなどへの積み・降ろしをする場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、UFO 自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。

※ 作業機が急に傾いて転倒し、けがをするおそれがあります。

- 作業クラッチレバーを「べーら」位置にしたとき、作業機が昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。

車体水平制御装置は、ほ場の条件が変化しても、常に作業機を水平に保ちます。

また、傾斜角調節ダイヤルにより、作業機を希望の角度に調節できるので、精度の高い刈取作業が行えます。

◆ 操作のしかた

1. エンジンを始動します。
2. 傾斜角調節ダイヤルを「水平」位置にします。

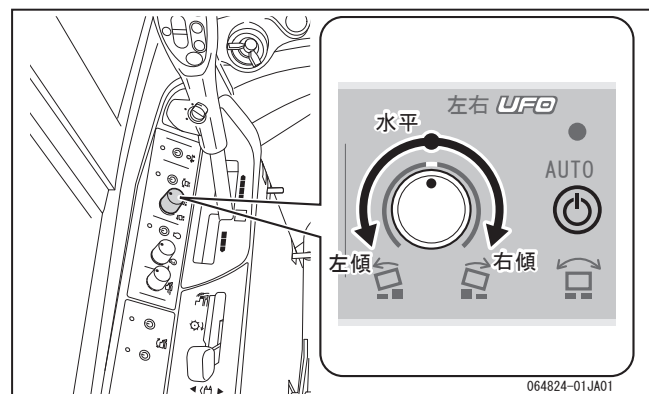


図 3-31

3. 作業クラッチレバーを「べーら」位置にします。

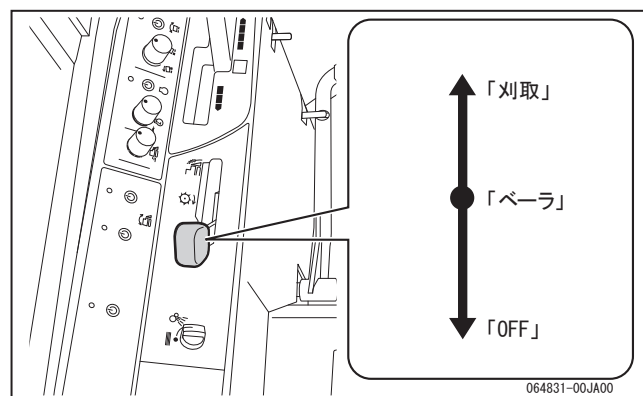


図 3-32

4. 左右 UFO 自動スイッチ（1）を押して「入」（ランプ点灯）（2）にします。車体を左右方向に水平制御します。

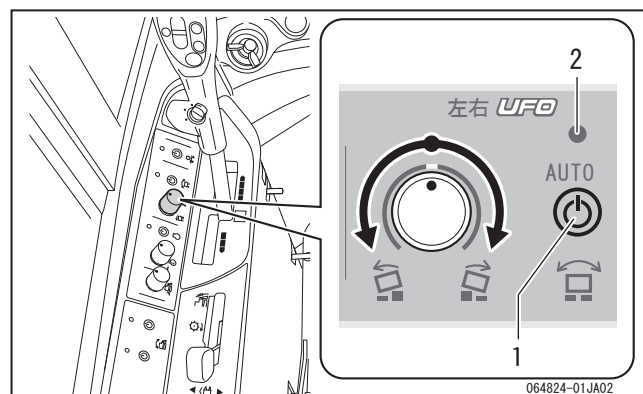


図 3-33

5. 作業機を左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり左側（☞）へ回し、右に傾斜させたいときは右側（☞）へ回します。

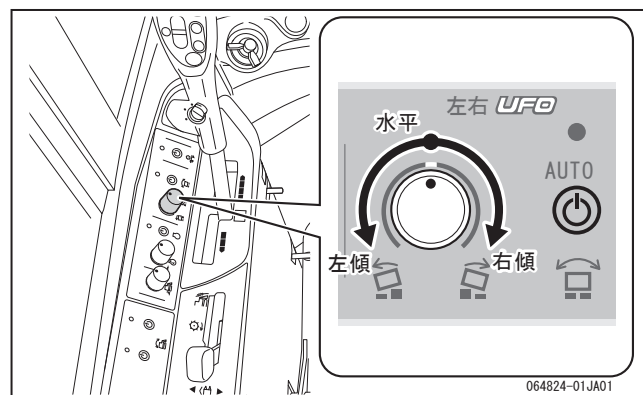


図 3-34

6. 作業機の車高を調節するときは、UFO 昇降スイッチを上下に操作します。

《 重要 》

作業機を水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ・センターディスプレイ付近に水がかからないように注意してください。

《 参考 》

- ・車体水平制御装置には、自動制御中でも UFO 手動（左右）調節レバー（1）と UFO 昇降スイッチ（2）を操作すると、手動で作業機の角度変更や昇降が行えます。

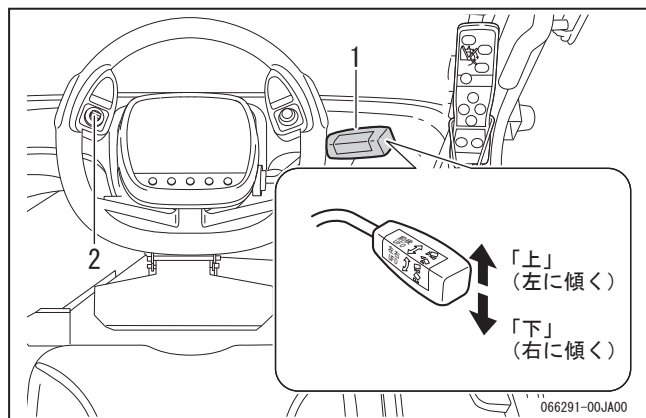


図 3-35

- ・車体水平制御装置は、自動・手動共に左右のクローラの高さを上下することで傾きを制御しています。
- ・UFO 自動スイッチの「入」「切」に関係なく、作業クラッチレバーを「OFF」位置にすると、作業機は最下位置まで下降します。この後、再び作業クラッチレバーを「ベアラ」位置にすると、元の高さ（最後に UFO 昇降スイッチおよび UFO 手動（左右）調節レバーで車高を調節した高さ）に戻ります。
- ・UFO 自動制御は、UFO 自動スイッチが「入」（ランプ点灯）、作業クラッチレバーが「ベアラ」にあるときに作動します。

《 参考 》

- ・車体水平制御の基準となる高さは、UFO 昇降スイッチにより、作業機の高さが変わるとそれに応じて変わります。作業機の傾きのみが変わる場合には、基準の高さは変わりません。
- ・自動制御中に手動で作業機の角度や車高を変更したときは、自動制御を 2 秒間停止し、その後自動制御状態に復帰します。

刈取オートクラッチ機構

作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、つぎの動作を行います。

- ・刈取部およびフィードチェンが駆動されます。
- ・刈取部を刈取オートリフトボタン（1）で上昇させると、刈取部およびフィードチェンの駆動が停止します。

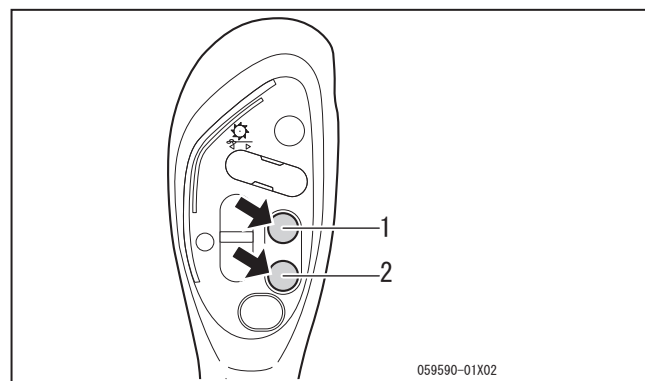


図 3-36

- ・刈取オートセットボタン（2）で下降させると、刈取部およびフィードチェンが駆動します。
- ・刈取オートリフトボタンで刈取部を上昇させて、刈取部およびフィードチェンの駆動を停止した後に、刈取昇降スイッチで刈取部を下降させると、再び刈取部およびフィードチェンの駆動を開始します。

《 参考 》

刈取オートクラッチ機構でクラッチが切れている状態でも、刈取クイックペダルを踏んでから 5 秒間は刈取部およびフィードチェンが回ります。

刈取オートリフト・刈取オートセット装置

刈取オートリフト・刈取オートセットボタンを押すだけで、設定している高さに刈取部が上昇・下降します。

1. エンジンを始動します。
2. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。

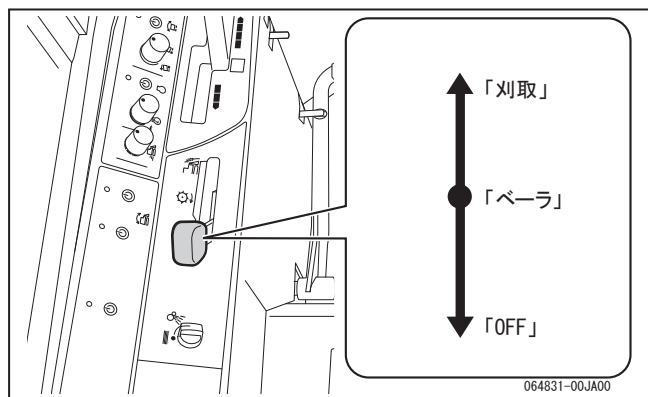


図 3-37

3. 刈取オートリフトボタン (1) を押します。刈取部が設定位置まで上昇します。

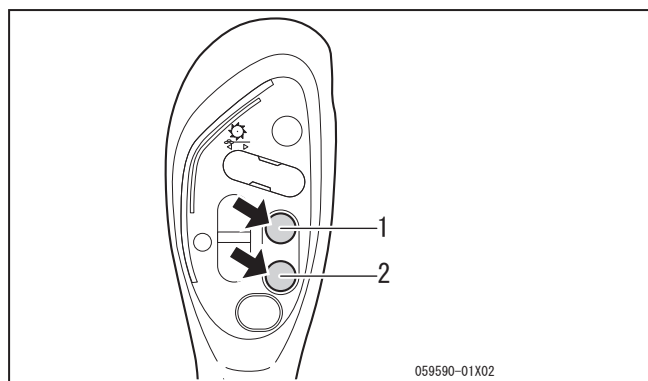


図 3-38

4. 刈取オートセットボタン (2) を押します。刈取部が設定位置まで下降します。

《 参考 》

- 刈取部が上昇すると同時に、刈取部およびフィードチェンが停止します。(刈取オートクラッチ機構)
- 刈取部が下降すると同時に、刈取部およびフィードチェンが駆動します。(刈取オートクラッチ機構)

《 参考 》

- 刈取オートリフト・刈取オートセットで刈取部が昇降中に、刈取昇降スイッチを操作すると、手動操作が優先します。再度、刈取オートリフト・刈取オートセットを行う場合は、刈取オートリフトボタン・刈取オートセットボタンのいずれかを押してください。
- 刈取昇降スイッチで刈取部を上下した場合は、刈取駆動は停止しません。停止させるためには、刈取オートリフトボタンを押してください。

◆ 刈取オートリフト位置の設定のしかた

刈取部の刈取オートリフト位置を自由に設定できます。設定した位置は、キースイッチを切っても記憶されています。

1. エンジンを始動します。
2. 作業クラッチレバーは「OFF」位置のままにします。

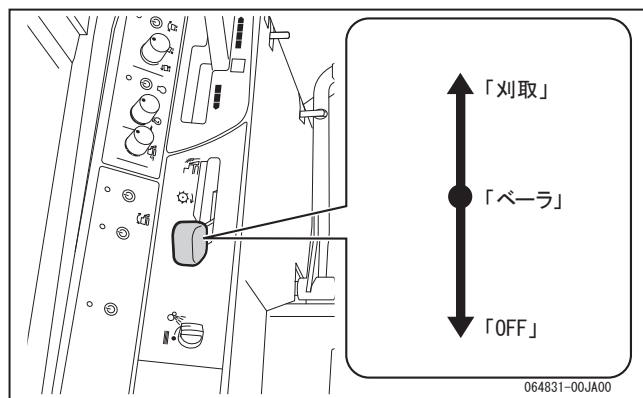


図 3-39

3. 刈取昇降スイッチで設定したい高さまで、刈取部を上昇させます。

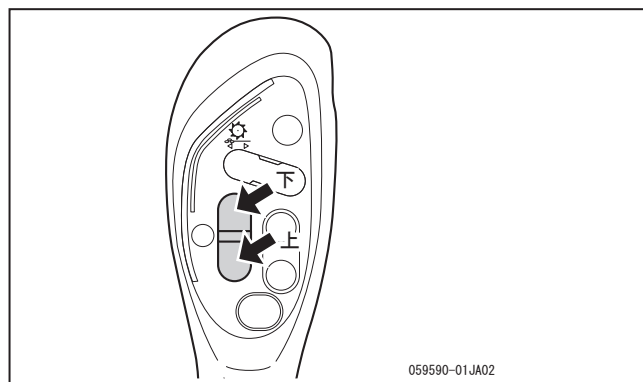


図 3-40

3. 作業のしかた

- 刈取オートリフトボタンを5秒以上押し続けると、はじめにブザーが断続的に鳴り、設定が完了すると、約1秒間ブザーが連続で鳴ります。

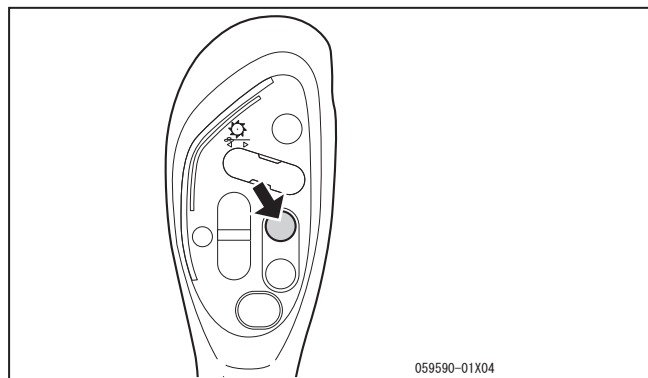


図 3-41

《 参考 》

- 出荷時は分草板先端で約40 cmの高さに設定されています。
- 刈取オートリフトボタンでの設定高さは、約30 cmから約75 cmまでの範囲で調節できます。

◆ 刈取オートセット位置の設定のしかた

刈取部の刈取オートセット位置を自由に設定できます。設定した位置は、キースイッチを切っても記憶されています。

1. エンジンを始動します。
2. 作業クラッチレバーは「OFF」位置のままにします。

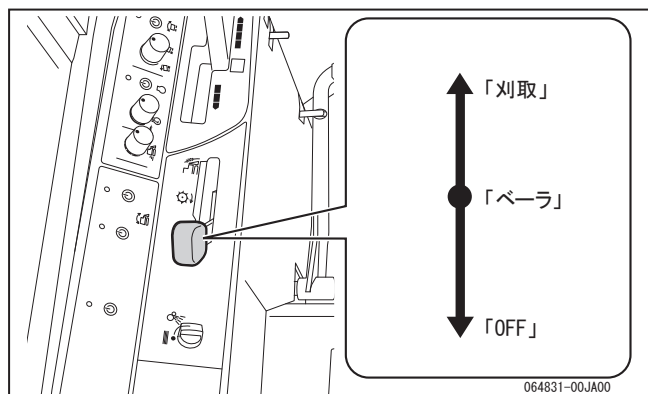


図 3-42

3. 刈取昇降スイッチで設定したい高さまで、刈取部を下降させます。

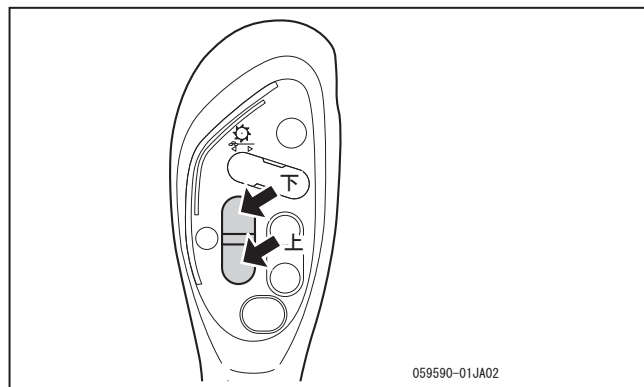


図 3-43

4. 刈取オートセットボタンを5秒以上押し続けると、はじめにブザーが断続的に鳴り、設定が完了すると、ブザーが連続で鳴ります。

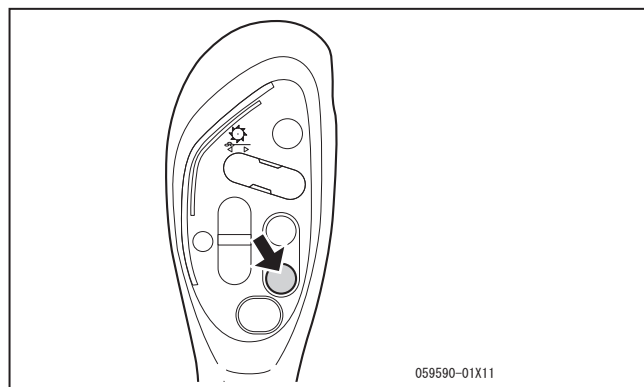


図 3-44

《 参考 》

- 出荷時は分草板先端で約5 cmの高さに設定されています。
- 刈取オートセットボタンで設定高さは約5 cmから20 cmの範囲で調節できます。

自動定回転・快速制御

⚠ 注意

- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、エコモードスイッチを「切」（エコランプ消灯）にしてください。

※ 車速がかってに変化し、けがをす
るおそれがあります。

- ・ 自動定回転は、自動的にエンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」位置（定格回転）の状態に保つ制御です。
- ・ 快速制御は、ほ場条件が変化してエンジンが過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷に戻れば、車速を元のオールマイティシフトレバーの位置の速度に戻す制御です。減速時、センターディスプレイに表示します。



図 3-45

1. エンジンを始動します。
2. エコモードスイッチ(1)を「入」(エコランプ点灯)(2)にします。

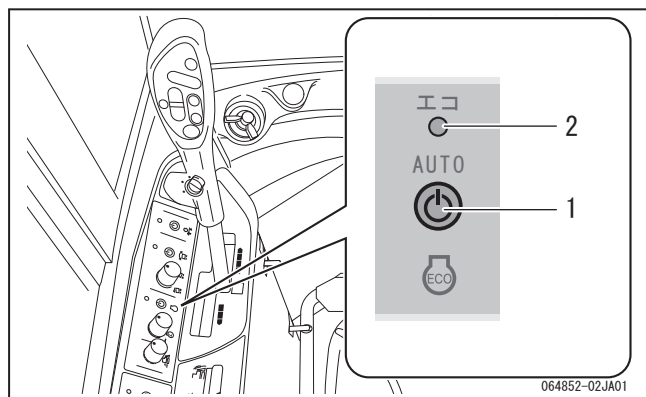


図 3-46

3. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。（作業クラッチレバーを「ベーラ」位置にすると、エンジン回転が定格回転になります。）

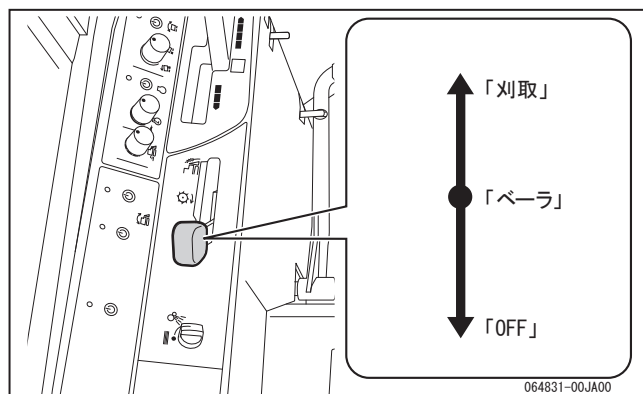


図 3-47

4. オールマイティシフトレバーを前進側へ倒し、刈取作業をはじめます。
5. エンジン負荷が過負荷状態になると、警報ブザーが鳴り、センターディスプレイ下部に「オーバーロード」の文字が表示され、車速が自動的に減速されます。（オールマイティシフトレバーは動きません。）

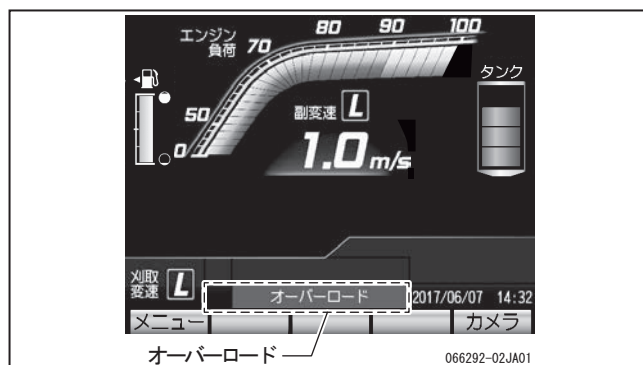


図 3-48

6. エンジン負荷が軽くなると、徐々に元の速度に戻ります。（オールマイティシフトレバーは動きません。）

《 参考 》

快速制御が作動しても、オーバーロード警報が頻発する場合は、オールマイティシフトレバーで車速を少し落としてください。

3. 作業のしかた

◆ 快速制御の「入り」「切り」のしかた

快速制御のはたらきを「切り」にできます。設定した内容は、キースイッチを切っても記憶されます。工場出荷時は「入り」に設定されています。

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。
メニュー画面が表示されます。

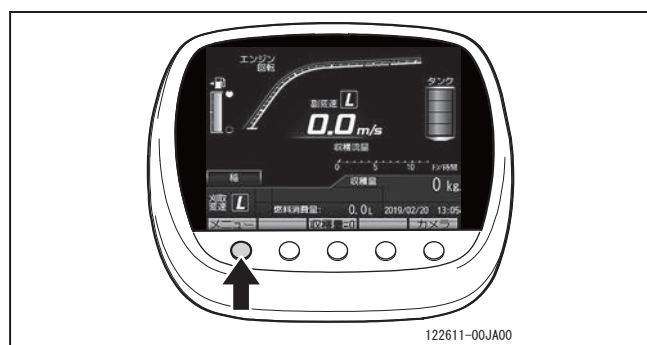


図 3-49

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 3-50

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「快速負荷」を選択します。



図 3-51

4. 「変更」(スイッチ) を押すごとに、「入り」「切り」を選択できます。
5. 「戻る」(スイッチ) を押して、快速制御の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

◆ 快速制御作動時のエンジン負荷率を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。
メニュー画面が表示されます。

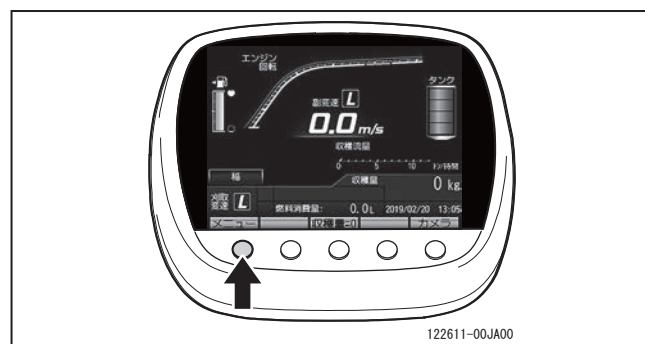


図 3-52

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。



図 3-53

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「快速負荷」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。



図 3-54

4. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して、設定したい負荷率を選択します。「↑」(スイッチ) を押すごとに、負荷率が大きくなり、最大までになると最小になり、また押すごとに大きくなります。

《 参考 》

工場出荷時は、「4」に設定されています。

「1」……エンジン負荷率 70%

「2」……エンジン負荷率 80%

「3」……エンジン負荷率 90%

「4」……エンジン負荷率 100%

「5」……エンジン負荷率 100%以上※

※エンジン負荷率が 100% になり、さらにエンジン回転が 100rpm 下がってから、快速制御が作動します。

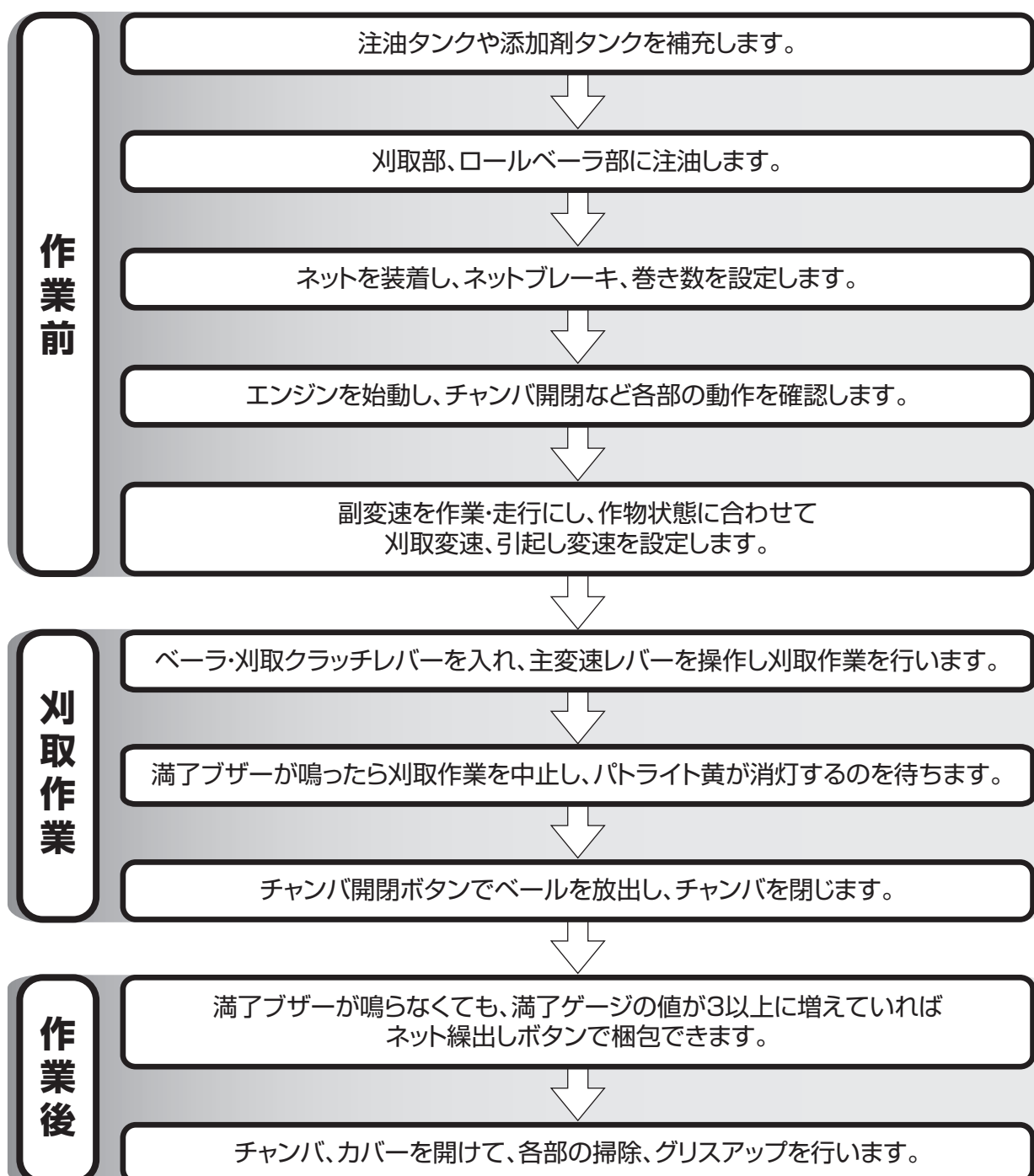
5. 「戻る」(スイッチ) を押して、エンジン負荷率を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

3.3 ロールベアラの作業について

⚠ 注意

- 後方に人や動物のいないことを確認してください。
- 梱包ベールは平坦な場所に放出してください。
※ 傾斜地では放出した梱包ベールが転げ落ちるおそれがあります。
- チャンバ内に入る際には必ずエンジンを停止し、チャンバをロックしてください。

3.3.1 作業手順と要点



ブザーが鳴り、パトライトが点灯します

設定圧になると、短い断続音でブザーが鳴り、同時にパトライトも点灯し、ネットが自動的に繰り出されます。ゆっくり走行を停止してください。満了を感知するとコントロールボックスに以下のように表示されます。

ロール	コスウ	0 コ
マンリョウ	カンチ	20 / 20

◆ 結束中の画面表示

ネット	マキツケ	チュウ
*		0 %

ネット結束中進行度合いに応じ下段の「*」の数、「%」表示が増えていきます。「*」が10個表示され表示が100%になると結束完了です。

◆ 結束完了を「パトライト消灯」で知らせます

設定巻き数のネット結束が終ると、ネットが自動切断されてパトライトが消灯し、結束完了を知らせます。結束が完了するとコントロールボックスの画面に以下のように表示されます。

ロール	コスウ	1 コ
ネット	マキツケ	カンリョウ

◆ 放出確認をしてチャンバを閉じます

チャンバを開きベールが放出できたことを確認してから、チャンバ開閉スイッチを操作してチャンバを閉じ、再び作業をスタートしてください。

⚠ 注意

- 後方に人や動物のいないことを確認してください。
- 平坦な場所に放出してください。
※ 傾斜地では放出した梱包ベールが転げ落ちるおそれがあります。

断続電子ブザーが鳴り詰まりを知らせたら

成形室の前に詰まりセンサがあり、詰まると断続電子ブザーが鳴り、コントロールボックスに警告が表示されます。

ロール	コスウ	0 コ
ツマリソクドオトス		0 / 20

頻繁に鳴るときは走行速度をおとしてください。断続電子ブザーが鳴り続ける時は刈取作業を停止してロールベアラ部の左側のカバーを開き、コンベアーの状態を確認してください。そのまま作業すると、詰まりシャーボルト切断の原因になります。

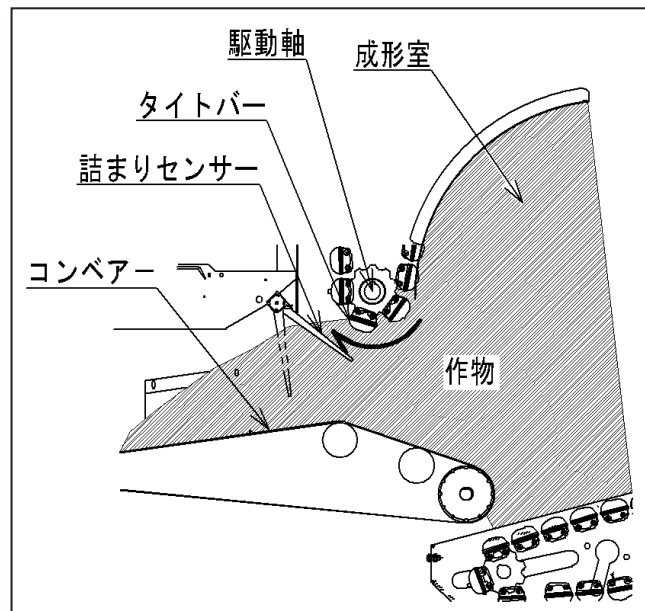


図 3-55

作物が詰まると、成形室に入らなくなります。このような時は、ネット装置を引き出し右カバーを開き、長い棒などで作物を押し込んでください。コンベアーが見えるようになればネットを繰り出しベールに成形できます。

誤ってネット繰出しスイッチを押した時は

ネットエラーになります。そのまま作業すると自動感知が効かずシャーボルトが切れますので、ベアラ・刈取クラッチレバーを切ってエンジンを停止して成形室に入ったネットを切断するか巻き取ってください。その後エンジンをかけ、ベアラ・刈取クラッチレバーを入れて作業を継続してください。

ネットがなくなった時は

ベアラ・刈取クラッチレバーを切ってエンジンを停止してください。ネットロールを交換した後、エンジンをかけてベアラ・刈取クラッチレバーを入れてください。

ネット繰出しボタンを押してください。

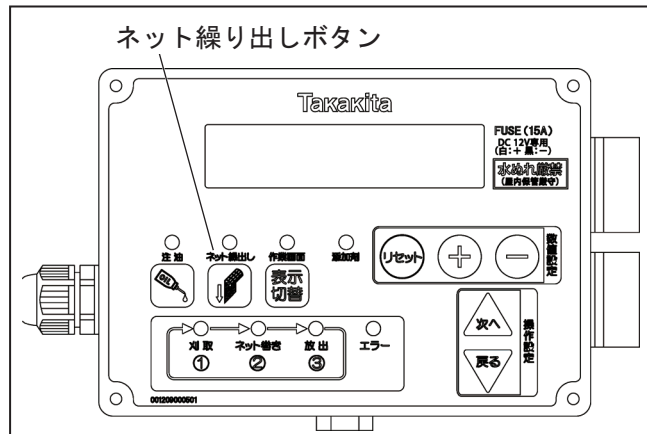


図 3-56

ベール放出時にベールがリアチャンバにくっついたときは

ネットブレーキが強い、ネット巻き数が多いときや長カン作物の場合、ベール放出時にベールがリヤケースにくっ付いたまま落ちてこないことがあります。ロールベアラ駆動スイッチを押すと、チャンバを開けたまま成形室を駆動できるのでベールが落ちやすくなります。



図 3-57

⚠ 注意

- 後方に人や動物のいないことを確認してください。
- 平坦な場所に放出してください。
※ 傾斜地では放出した梱包ベールが転げ落ちるおそれがあります。

ネットブレーキ、ネット巻き数、満了感知を調整してもベールが落ちない場合は、チャンバ支点のポテンシオベースの長穴を調整し、チャンバを開く際の成形室駆動を切るタイミングを遅らせてください。

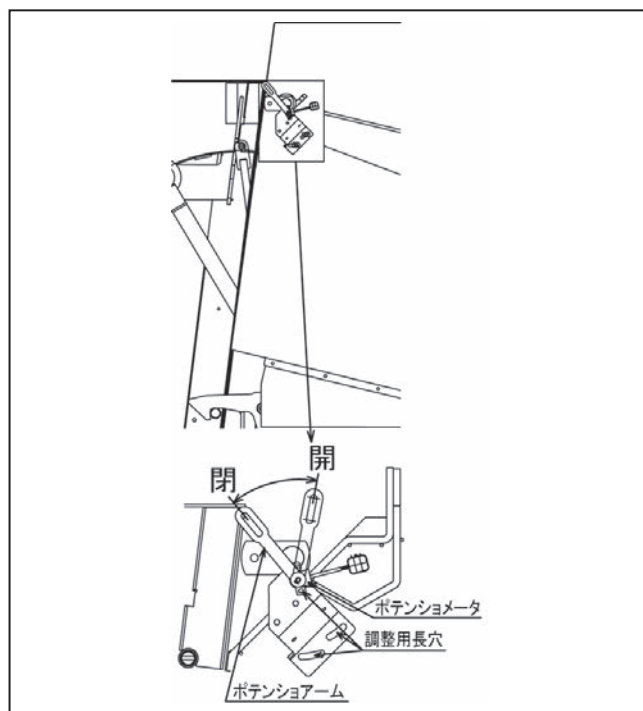


図 3-58

断続ブザーが鳴り「シアボルト ギレ」と表示されたら

スピナー部のシャーボルトが折損すると、電子ブザーが断続して鳴り、コントロールボックスに警告が表示されます。

ロール コスウ	0 コ
シアボルト ギレ	0 / 2 0

エンジンを停止し、スピナー部のシャーボルトが折損していないか確認してください。そのまま作業すると、カッターまで詰まり復旧に時間がかかります。

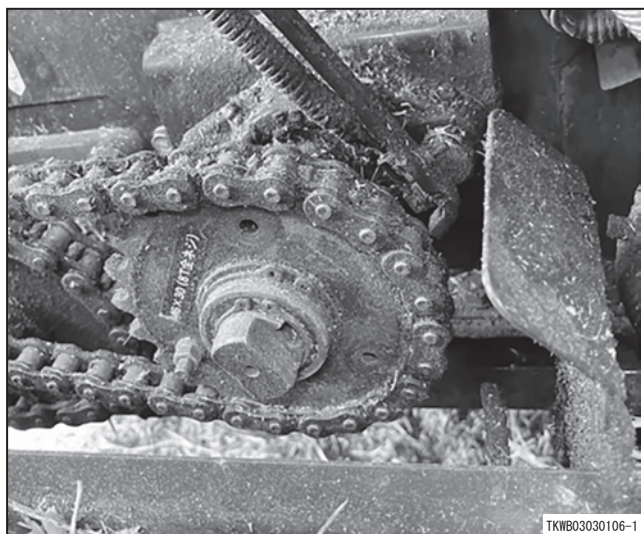


図 3-59

《 参考 》

シャーボルトが折損していなくても、カッターマリスンサで詰まりを検出し非常停止した場合およびキースイッチONで作業クラッチレバーを「ベアラ」「刈取」位置にした場合は、シャーボルト切れの警告が表示されます。

3.3.2 ベールの放出方法

ネットを巻き付けしている間に少しバックして収穫機の後方を振り、次行程の刈取のじゃまにならない位置にベールを放出してください。

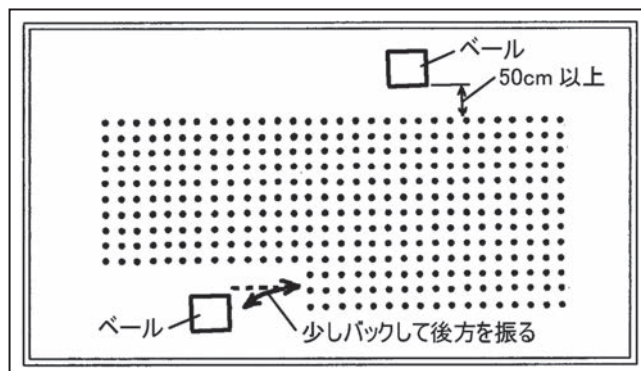


図 3-60

ほ場に水が溜まっているところがある場合は、さけて乾いたところに放出するようにしてください。(ロールに泥や水が付くと雑菌が入りサイレージの品質が悪くなる原因になります。)

少し離れた位置に放出する為、ネットが巻き終わってから移動する時はロールベアラの回転を止めてください。

ベールを余分に回転させると、ネットが緩んだり、口スの原因になります。

1日の最後で1ベールにならない場合

- ・ 8割ぐらいまでのベールの場合は手動でネットを繰り出せばネットは巻き付けできます。(作物を一晩そのまま機械の中に入れたままにしないでください。悪い発酵が進みます。)
- ・ 1～2割程度刈り残しが出来そうな場合は作業速度を落として作業してください。通常より密度の高いベールが出来、全部刈り取りできることがあります。
- ・ 最後の3～4ベールで調整してください。

3.3.3 添加器の作業方法

このホールクロップ用添加器は、乳酸菌や酵素をベールに添加するためのものです。ほかの目的で使用しないでください。

仕様

表 3-4 仕様表

モーター	電圧	DC12V
	電流	5A
ポンプ	型式	ダイヤフラムポンプ
タンク容量		50L
コントローラ		ダイヤル式
散布量	大量ノズル	1.0 ～ 3.1L / 分
	中量ノズル	0.5 ～ 1.1L / 分
ノズルボディー		液ダレ防止弁付き
ヒューズ		管ヒューズ 10A (短)

作業方法

1. 添加量の目安を参考にして、実際の添加量に合わせてノズルチップおよびキャップを選択してください。
2. コントローラのノズル選定スイッチを選択したノズルチップに合わせて A、B いずれかにセットしてください。
3. コントローラの電源を ON にしてください。
4. 目安表を参考にしてダイヤルを合わせてください。
5. 刈り取りをはじめ作物がフィードチェンの後方におくられると穂先センサのスイッチが入り添加されます。作物がなくなればスイッチが切れ、自動的に添加がストップします。

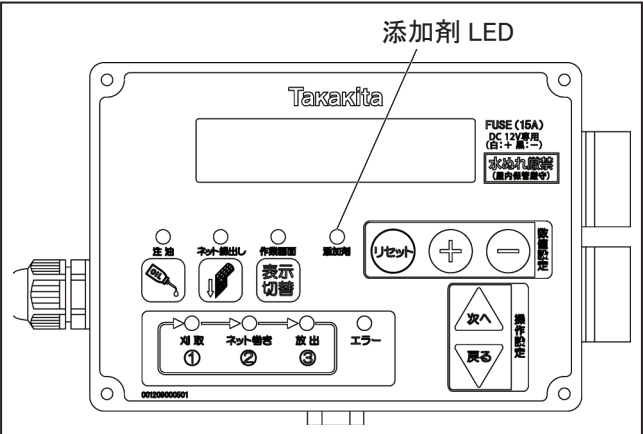


図 3-61

《 参考 》

- ・スイッチが切れてもすぐにストップしません。
- ・本機には流量センサが付いており、添加剤が流れている間コントロールボックスの LED が点灯します。
- ・ホース内にエアが入ると水が出ない事があります。エア抜きを行ってください。

エア抜きの方法

タンクが空になりホースにエアが入った場合、下記の手順に従い、エア抜きをしてください。

1. バルブのコックを下図のように切り替える。
2. エア抜きのスイッチを ON にする。
3. エア抜きができたならバルブのコックをもとにもどす。

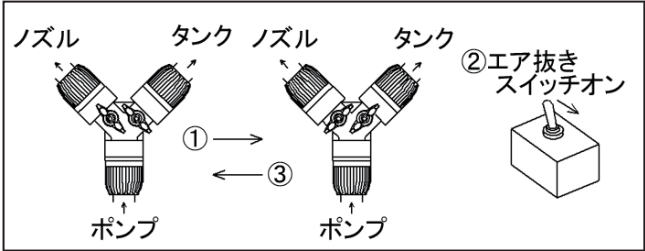


図 3-62

添加量の目安

表 3-5 添加量

ノズル 選定	ノズルチップ No.	ノズルキャップ No.	添加量範囲 (L/分)	添加量調節目盛									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	T11010	T25610	1.0～3.1			1.0			2.0				3.1
B	T11003	T25612	0.5～1.1		0.5			1.0			1.1		
B	T11001	T25612	0.2～0.4		0.2	0.3	0.4						

《 参考 》

- 清水での添加量の目安です。添加剤の種類により添加量が変わることがあります。確認してから作業してください。
- コントローラの日盛は表の設定を超えても流量は増えず、ポンプに過負荷となります。
- 日盛が小さいとポンプが動かない場合があります。散布量の多いノズルを使用するか、散布する液の濃度を薄くして散布量を多くしてください。
- ノズルチップT11001はオプションであり、下記品番で注文が可能です。
31110-9256-100 ショウリョウヨウノズルチップ
ノズルキャップは少量、中量で兼用です。

不調診断

表 3-6 診断表

不 調 内 容		診 断	処 置
水 が 出 ない	モーターが回る。	ノズルが詰まっている。	ノズルを分解洗浄してください。
		ホース内にゼリー状物質が詰まっている。	ノズルのチップをはずして流し出してください。
		サクションフィルターが詰まっている。	分解して洗浄してください。
		ホース内にエアーが入った。	ノズル横のキャップを緩めエアー抜きをしてください。
	モーターが回らない。	ダイヤルの目盛が小さい。	ノズルを変更してください。 散布液の濃度を薄くしてください。
		配線が抜けている。	配線をチェック修正してください。
		ヒューズが切れている。	ヒューズを交換してください。
		モーターが故障している。	モーターを交換してください。
水 が 出 る	噴霧状態が正常でない。	サクションフィルター、ノズルチップが部分的に詰まっている。	分解して洗浄してください。
		溶液中に不純物が混ざっている。	不純物を取り除いてください。
		ポンプ、調圧弁、循環ホース内にゼリー状物質が詰まっている。	分解洗浄してください。
		ポンプが故障している。	ポンプを交換してください。
		ホース内にエアーが入った。	ノズル横のキャップをゆるめエアー抜きをしてください。
	コントロールボックスのLEDが点灯しない。	ダイヤルの目盛が小さい。	ダイヤルを中量 4 以上にしてください。
		流量センサの配線が抜けている。	配線をチェック修正してください。

メンテナンス

長期間使用しないときは、タンク、ポンプ、ストレーナー内を清水で掃除し、寒冷地では必ず水抜きをしてください。しないと故障、破損の原因になります。